（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	酒井 哲郎	所　属	医学研究科システム生理学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	1) 生理学IIの講義・実習においては、神経科学の基礎の理解から始め、さらに最新の話題提供までの「広く深い」知識の習得を目指す。本年度より、非常勤講師による特論の講義を増やし、カリキュラムの充実を図る。2) 医学外国語では国際的に定評のあるGuytonの生理学教科書を教材として用い、輪読により医学英語になじむと共に生理学の知識の習得を目指す。3) 医学概論Aの講義においては、基礎医学のearly exposureとしての位置づけを重視し、われわれの研究室での研究を紹介し、基礎医学への興味を掘り起こし、学生の研究へのmotivationを向上させていくことを目指す。4) 大学院生への講義においても、われわれの研究室での研究の紹介を軸に院生の医学への知的好奇心を刺激して各自の研究への情熱を喚起する。	0.45	1) 生理学IIの講義のスライドを改訂・増補し、より神経科学の学習の効果を促進した。また、新たに特論のための非常勤講師をもう1名招聘しカリキュラムを充実させた。2) 医学外国語では、学術英語を読む訓練により英文の教科書を読むための技術を教えることが出来た。3) 医学概論Aでは、われわれの研究の一端を紹介し、基礎医学へのearly exposureを進めた。4) 大学院教育では、学位論文の主査・副査をつとめ、研究のpresentationの場におけるdiscussionを通じて研究成果についてのcommentsや、修了後の研究の進め方についてのアドバイスを与えた。
研究	0.45	自分のライフワークと言える膜電位の光学的イメージングの手法を軸に研究を展開する。具体的な研究テーマとしては、これまでに継続してきた、実験的心房性不整脈の光学的解析の研究を進める。さらに、研究成果を論文にまとめて発表するほか、国内外の学会にて研究成果の発表をおこなう。特に本年度はトルコで開催されるカオスの国際会議に招聘されており、そこでの研究成果の発表が予定されている。これらの研究に必要な経費は主に一昨年度から交付された科学研究費補助金によりまかなっていく。	0.25	膜電位光学イメージングの実験を精力的に進め、光学的測定法を用いた実験心房性不整脈の研究を進めた。細胞内Caイオンの過負荷状態で様々なパターンの不整脈が発現することをつきとめ、その解析を進め、そのchaos性を明らかにした。この結果は日本生理学会大会において発表するばかりでなく、トルコでの国際シンポジウムにて発表をおこない、その成果はSpringer出版から刊行された。さらに、最新の研究の成果としてchaos性の不整脈を誘発する各種の条件を発見し、心房細動のin vitro model をほぼ確立した。これらの研究に必要な経費は主に文科省の科学研究費補助金によりまかなわれた。
社会貢献	0.05	日本生理学会評議員として、学会の発展に貢献していく。また来年度の西日本生理学会の当番校であるため、学会開催の準備作業を開始する。	0.05	日本生理学会評議員として、学会の発展に貢献してした。また西日本生理学会の当番予定校でとして、学会開催の準備作業を開始し、学会事務局代表を務めることとなった。
管理運営	0.20	機器センター長として現有する機器のメンテナンスや新しい機器の導入などを積極的にすすめ、センターの円滑な運営と充実をはかる。さらに学部内の他の実験施設との連携を深め研究機器の有効な活用を目指す。 システム生理学講座の管理者として、教室員のチームワークや教室費の無駄の無い有効活用などを重視して教室の管理・運営をおこなう。	0.20	機器センター長として現有する機器のメンテナンスと新しい機器の導入などを積極的にすすめ、センターの円滑な運営と充実をはかった。特に本年度は概算要求により次世代シーケンサの導入が出来た。またシステム生理学講座の管理者として、教室員のチームワークおよび教室費の有効活用などにより、ｽﾑｰｽな教室の管理・運営をおこなうことが出来た。
進路指導	0.05	例年の通り指導教官として年2回学生との懇談会を開催し、担当学生の相談に応じる。さらに、今年度は6年次の担当となるため、進路に迷いがある学生に対して特に丁寧な相談をおこなう。	0.05	例年の通り指導教官として担当学生の相談に応じてきた。また生理学を履修するM2生に対してもe-mailの交換をおこない学習のアドバイスをおこなった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	細川　浩	所　属	琉球大学　医学部　システム生理学	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	Neurosicenceの最近の研究成果を授業に反映し講義ノートを改編する。 学生評価アンケートに基づき情報演習をより理解しやすい内容に変更する。	0.40	最近の研究成果に基づき自律神経系の脳幹機能について講義ノートを改編した。 アンケートに基づき学生生活に役立つエクセルの演習を導入した。
研究	0.50	研究成果をまとめ、学会誌への投稿準備および学会発表を行う。 豊橋技術科学大学知識情報工学科との共同研究を進める。 東京医科歯科大学難地疾患研究所との共同研究を進める。	0.50	第89回生理学大会で研究成果を発表した。 豊橋技術科学大学において9月と12月に共同研究を行った。 聴覚研究会で研究成果を4ページの抄録にまとめ発表した。
社会貢献	0.05	学会誌の査読委員として学会活動に貢献する。 沖縄県体育協会行事の運営に競技審判員として貢献する。	0.05	2月の聴覚研究会の開催において世話役として貢献した。 沖縄県体育協会の山岳競技の審判役員として貢献した。 国体山岳競技の監督として岐阜大会に参加した。
管理運営	0.05	機器センターのME部門長として臨床および基礎系研究者の研究活動を支援する。	0.05	機器センターのME部門長として機器センターの運営に参加した。 センター試験の実施において主任試験監督として貢献した。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	梁　運飛	所　属	医学部	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	学部担当科目（生理学の実習）を担当し実習を指導する。去年の実習に現れた問題により、実習の指導方法を改善して、学生の実習の質を一層高めることを目指す。	0.40	実験データを自動的記録するパソコン・システムの応用にあわせて、実習用テキストを改定し、今年度の学部学生の実習は去年度よりかなり順調になった。実習に関する教育目標を達成した。
研究	0.50	1、動物実験モデルにおける高血糖症に対するEM-Xの効果に関する英語研究論文を直して国際雑誌に再投稿する。2、沖縄にあるEM研究機構と亜健康（未病）に関すの共同研究を行う。3、鹿児島大理学部との痛覚に関する共同研究を続けて行う。	0.50	1、研究成果「An animal experimental model for Chinese qigong research」を[Acta Physiologica Sinica]誌で発表した。2、研究成果「Progress of complete subhealth checkup and subhealth intervention in Japan」を[The 4th International Academic Conference of Yajiankang (Montreal)]で発表した。3、研究成果「The health benefits of Okinawa mozuku and its extract fucoidan」を[The 6th World Natural Medicine Conference (Macao)]で発表した。4、執筆した論文「Effects of EM-X on experimental hyperglycemia in the rats」を国際雑誌「American Journal of Preventive Medicine」に投稿した。
社会貢献	0.05	ボランティアで日曜日に沖縄県民のための「中国語会話」の活動を取り組んで地域社会に貢献をする。	0.05	ボランティアで世話人として毎月の第一の日曜日の午後に那覇市新都心で「中国語会話」の活動を行った。県民の参加者からの好評を得た。
管理運営	0.05	大学センター試験および二次試験の監督関連業務に積極的に参加する。	0.05	大学センター試験と本学の二次試験の監督業務に参加し、任務を成し遂げた。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	村山　貞之	所　属	医学研究科・放射線診断治療学	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.10	卒前教育：毎週のポリクリ時の教育、M4に対する放射線医学の講義　卒後教育：毎週の放射線科の症例検討会　逐次の専門修練医の教育	0.10	充分に目標を達成した。加えて、大学院2人、論文博士申請者1人の論文作成を支援した。
研究	0.10	肺癌、感染症、呼吸機能に関する画像診断の研究を進める。特に、HTLV-1関連気管支肺胞異常症のCT所見の検討、肺結節の良悪性の鑑別、cine MRIによる肺高血圧症の診断に力を入れる。PETセンター開設に伴い、新しい核種を用いた臨床研究を進める。	0.10	充分に目標を達成した。加えて、320列CTを用いた低線量胸部CT画像の多施設研究において、リーダーシップを発揮した。
社会貢献	0.10	沖縄県医師会の理事としての活動を行う。病院長として、さまざまな社会貢献を企画する。地域医療再生基金を獲得できた遠隔読影システムを立ち上げ、へき地病院の画像診断の読影を推進する。	0.10	充分に目標を達成した。遠隔読影システムは稼働を開始している。
管理運営	0.65	病院長として、あらゆる病院の管理業務を指揮する。	0.65	充分に目標を達成した。
進路指導	0.05	ポリクリ学生に対して、進路指導を行う。	0.05	ポリクリ学生に対して昼食会を行い、進路指導を行っている。充分、目標を達成した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	戸板　孝文	所　属	大学院医学研究科 放射線診断治療学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	従来の系統講義に加え、多施設共同研究グループでの最新の臨床研究結果を紹介し、悪性腫瘍の集学的治療における放射線治療の役割と重要性を有機的に理解させる。臨床実習においては、高精度放射線治療の治療計画立案に参加させ、放射線治療の魅力を体感させる教育を行なう。これらを通じて臨床の現場で激しく不足する放射線腫瘍医を志す学生、研修医を育成する。りゅうきゅう臨床研究ネットワークのがん臨床研究部会で組織された「がん臨床研究勉強会」を継続し、臨床試験の活性をはかる。九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プランのコーデュネータとして県内のがん教育野活性化を進める。大学院生の研究論文作成を指導する。	0.20	系統講義を4コマ（治療学、放射線医学）行った。臨床実習にて高精度放射線治療計画と実施の実際の教育を毎週行った。倫理討論講義の講師を担当しがん臨床研究をテーマに学生に討論を行わせた。りゅうきゅう臨床研究ネットワーク（がん臨床研究部会）主催のがん臨床研究勉強会にて学生と研修医を対象にEBM抄読会を開始し計4回行った。九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの本学担当のコーディネータとして、講演会/講習会開催し（3件）、e-learningクラウドへの参加推進と医学研究科での単位化を実現した。学会等で教育講演を行った（3件）。RT-Lab（放射線治療若手臨床試験勉強会）にモデュレータとして参加した。大学院生2名の研究・論文作成指導を行い、1名の学位取得に直接関わった。
研究	0.20	国際英文誌への論文投稿（2編）,研究代表者を務めたJGOG1066試験（多施設前向き）の最終結果報告、文部科学省科学研究費の獲得, 厚生労働省研究班への班員としての継続参加による配分研究費獲得、多施設共同試験への継続参加（JCOG）、子宮頸癌に対する強度変調放射線療法の治療パラメータに関するプロトコル立案、子宮頸癌に対する画像誘導小線源治療のプロトコル作成と臨床例の集積	0.20	国際英文誌に学術論文が掲載された（筆頭著者3本、共著者6本）。米国の専門教科書に執筆を行った。厚生労働省研究班分担研究者（4班）、文科省研究班分担研究者（1班）に参加した。子宮頸癌に対するIMRTプロトコル、IGBTプロトコルを立案した。JCOG放射線治療グループ内にIMRTのワーキンググループを組織し活動を開始した。日本放射線腫瘍学会の阿部賞を受賞した。患者移送用寝台及び患者移送システムの特許申請をおこなった（特願2012-091461）。
社会貢献	0.10	専門学会（日本婦人科腫瘍学会、日本癌治療学会等）にて各種ガイドライン作成、日本産婦人科学会での取扱い規約改定作業、子宮頸癌放射線治療の全国実態調査、放射線治療研究会の開催により県内での放射線治療の啓蒙、県立看護大学での講義担当、放射線治療専門医制度委員会委員として問題作成・試験面接等を担当、	0.20	各種ガイドラインの作成委員/評価委員を務めた（日本放射線腫瘍学会：放射線治療計画ガイドライン2012：小線源治療ガイドラインWeb版/書籍版、日本婦人科腫瘍学会：子宮体癌ガイドライン、卵巣がんガイドライン）。子宮頸癌の前処置アンケート、IGBT実施アンケートを行った。IGBTの保険収載に向けた資料準備を行った。市民講演会での講演3件行った。放射線治療研究会の開催により県内での放射線治療の啓蒙、放射線治療専門医制度委員会委員として問題作成・試験面接等を担当した。日本医学放射線学会代議員、日本放射線腫瘍学会代議員、日本放射線腫瘍学会小線源治療部会常任幹事、日本婦人科腫瘍学会評議員、婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構（JGOG）理事、放射線治療委員会委員長、日本放射線腫瘍研究機構（JROSG）理事、婦人科腫瘍委員会委員長などを務めた。沖縄県重粒子線治療施設導入検討協議委員として調査活動を行った。
管理運営	0.30	放射線部放射線治療部門チーフ、院内癌登録室長、院内がんセンター各種委員会委員、九州がんプロフェッショナルプログラムのコーディネータ、臨床研究支援センター副センター長、病院再整備準備室副室長、中期計画達成プロジェクト戦略的研究推進経費による「沖縄県におけるがん臨床試験･治験推進プログラム」の運営	0.20	放射線部放射線治療部門チーフ、院内癌登録室長、院内がんセンター各種委員会委員、九州がんプロフェッショナルプログラムのコーディネータ、臨床研究支援センター副センター長、病院再整備準備室副室長、中期計画達成プロジェクト戦略的研究推進経費による「沖縄県におけるがん臨床試験･治験推進プログラム」の運営
進路指導	0.05	1年次指導教官として進路指導等	0.05	1年次指導教官として進路指導等
診療	0.10	放射線治療外来（週3日）を引き続き担当する。放射線治療計画、腔内照射。	0.15	放射線治療外来（週3日）を引き続き担当する。放射線治療計画、腔内照射。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	垣花　泰政	所　属	大学院医学研究科 放射線診断治療学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	放射線治療物理学講義、大学院生の研究指導	0.20	大学院生の学会発表、論文作成を指導、週1回の物理講義を実施
研究	0.35	医学物理学会及び医学物理学会誌での研究発表	0.35	医学物理学会で発表、学会誌に論文発表
社会貢献	0.10	所属学会の委員会への参画 （医学物理士認定委員会委員）	0.10	医学物理士認定委員会委員、国立がんセンターのアドバイザリー委員、県内の技師を対象にした定期的な勉強会を開催
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
診療	0.35	診療活動及び医療支援 医用機器の保守管理	0.35	当施設でのIMRTにおける重大な設定ミスチェックとその対策を実施、治療関連装置の管理
計	1.00		1.00	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	神谷尚	所　属	大学院医学研究科放射線診断治療学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	ポリクリ学生に対する臨床に基づいた指導を行い、臨床への興味、関心の向上を促すとともに、知識を向上させる。研修医に対し、胸部X線写真などの、画像診断に関する講義を行い、画像診断の質を向上させる。	0.20	医学生にNon-vascula IVRなどの講義や研修医への胸部X線写真読影など抗議を行い、画像診断、IVRの室の向上を行った。
研究	0.20	学会での研究報告の発表。多施設共同研究へ参加し、症例の登録を行う。	0.20	多施設共同研究への参加を行った。
社会貢献	0.10	研究に基づく臨床での高度先進医療の応用。遠隔画像診断を用い、遠隔病院での画像診断の質を向上させ、遠隔地の医療の質の向上に勤める。	0.10	高度先進医療による治療を行った。遠隔画像診断による試験運用を行い、本運用へ向けての地盤作りを行った。
管理運営	0.00	なし	0.00	なし
進路指導	0.10	入試関連業務への参加。OSCE試験への参加。研修医や学生への臨床業務、収入、QOLなどに関しての情報提供、アドバイスを行う。	0.10	大学入試センター試験の試験監督業務を行った。学生や研修医に対し、卒業後、業務内容などの情報提供、アドバイスを行った。
診療	0.40	高度先進医療による臨床治療も取入れ、研究内容を還元していく。遠隔画像診断システムを用い、遠隔地医療の補助を行う。	0.40	高度先進医療による治療を行った。遠隔画像診断システムを用い、遠隔地医療の補助を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	石内勝吾	所　属	脳神経外科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	神経医学系講義において神経科学の基礎知識を学生に修得させる。戦略的研究－生涯健康脳の医学生物学研究の成果を授業に取り入れる。講義終了後にアンケート調査を行い授業の改善工夫に努める。博士程教育リーディングプログラム申請・受理を果たす。	0.20	神経医学系講義において生涯健康脳の授業を施行し講義終了後のアンケート調査を行い遺伝と環境因子の相互作用の重要性を強調した。博士程教育リーディングプログラムは来年度オンリーワンで再挑戦する。
研究	0.20	中期計画の目標の実現のために、健康長寿復興および生涯健康脳の医学生物学研究を学部横断的推進に専心する。大型外部資金を取得する。	0.20	新たに科学研究費　挑戦的萌芽が受理された。大型外部資金は来年度再挑戦する。
社会貢献	0.10	国民の健康と福祉増進のための啓蒙活動を行う。その一環として社会法人脳神経外科学会の支援する市民公開講座を開催し脳卒中、がんの最新研究成果を社会に発信する。県医師会分科長、九州地区脳神経外科学会理事として各種委員会活動により地域貢献を果たす。	0.10	県医師会と共催で、てんかんに関する市民公開講座を開催した。他県、他大学、社団法人脳神経学会の依頼を受け複数回の特別講演、教育講演を行った。医師会分科長として医療紛争の解決に努めた。
管理運営	0.10	研究担当の副医学部長・戦略的研究推進委員としてリーディング大学院等大型予算の獲得、学務委員としてadvanced research training制度の創設の推進、附属病院再整備ワーキングメンバーとして次世代を見透す医療整備を行う。大学院入試の問題作成を創意工夫し入試問題による選別の適正化を図る。	0.10	副医学部長として学部横断的研究基盤の整備をした。病院長特別補佐として病院の収益率増加ために後発品導入を開始した。
進路指導	0.10	研究室を学部学生に開放し日常的な悩み、進路相談、健康管理など学部学生の生活指導、進路相談をオフィスアワーをもって行う。	0.10	学部学生の生活指導、進路相談を行った。奨学金の手配や日常的な健康管理指導をした。
診療	0.30	診療の適切性・安全性・先進性を追及し脳腫瘍手術のために術中MRI診断システム、脳血管手術のための術中hybrid CTの導入を推進し高次機能病院としてふさわしい手術室環境を構築する。脳・神経センターの樹立を目標に神経内科、画像診断学と連携し日常診療の提携を密に行い、診療レベルの向上をめざす。	0.30	術中MRI診断システムの導入基盤を構築した。神経内科との診療連携を深め月1回の神経カンファレンスを開催した。地域医療の最後の砦として難治性疾患の治療に努め難易度の高い手術を年間100例施行した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	西村正彦		所　属	医学研究科脳神経外科分野	職　名	助教
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.10	学部生を対象にした授業においては、授業のテーマごとに学生への発問を行い、授業内容を理解しているか積極的に確認する。また、発問を複数の学生へ行うことで、授業への参加度を高めるよう努力する。授業ごとのミニテスト、感想文の提出を実施し、授業の理解度、授業方法・内容について自己点検する。また、臨床実習生を対象にした授業は、fMRI検査見学実習を通して、fMRIの基礎知識・臨床診断、治療への応用について講義する。		0.10	学部生を対象にした授業は神経解剖学「神経科学トピックス」を担当した。授業のテーマごとに学生への発問を行い、授業内容を理解しているか積極的に確認した。また、発問を複数の学生へ行うことで、授業への参加度を高めるよう促した。授業ごとのミニテスト、感想文の提出を実施し、授業の理解度、授業方法・内容について点検した。また、臨床実習生を対象にした授業は、ニューロリハビリテーションの実践、使用する機器について演習を交えた講義を行った。また、fMRI検査見学実習を通して、fMRIの基礎知識・臨床診断、治療への応用について講義・演習を行った。医学科1年生の付添実習を担当した。	
研究	0.20	昨年度より継続している内発的動機づけに関与する神経基盤の解明、ヒト海馬歯状回の記憶・学習機能に関する脳機能マッピング研究を査読付国際誌での論文発表、国内の神経科学関連学会にて報告発表する。学会活動においては、第3回国際放射線神経生物学会の運営スタッフとして運営に携わる。		0.20	ヒト海馬歯状回の記憶・学習機能に関する脳機能マッピング研究について、第3回国際放射線神経生物学会大会にて発表した。第46回日本作業療法士学会「傍辺縁系の活性化は動機づけ行動における Target Goalを反映する」について発表した。第34回九州理学療法士・作業療法士合同学会にて「経頭蓋直接電流刺激（tDCS）は慢性期中神経障害の機能局在を促進する」について発表した。第10回沖縄県作業療法学会にて「急性期ニューロリハビリテーションの実践」について発表した。経頭蓋直流電流刺激法・ロボットスーツを用いたニューロリハビリテーションの効果検証について研究計画を作成し、倫理審査委員会の承認を得て、研究を実施している。平成25年度科研費若手Bへ応募した。学会活動においては第3回国際放射線神経生物学会の事務局として運営に携わった。平成24年度琉球大学若手研究者支援研究費を受給した。	
社会貢献	0.10	平成24年度は浦添市障害者介護給付費等審査委員として、月1回の頻度で浦添市障害者介護給付費等審査会に参画する。また、沖縄リハビリテーション福祉学院の非常勤講師として、理学療法学科・作業療法学科2年生を対象に脳神経外科学分野の授業、作業療法学科1年生を対象に運動学の授業を実施する。		0.10	浦添市障害者介護給付費等審査委員として、月1回、浦添市障害者介護給付費等審査会に出席した。また、沖縄リハビリテーション福祉学院の非常勤講師として、理学療法学科・作業療法学科2年生を対象に脳神経外科学分野の授業5コマ、作業療法学科1年生を対象に運動学の授業を30コマ実施した。	
管理運営	0.10	平成24年度は、医学部医学科教育連絡主任として、医学部医学科の学生教育環境の向上に貢献する。		0.10	医学部医学科教育連絡主任として、教育連絡主任会議に出席した。医学科1年生の付添実習のコーディネーターを行った。CBT問題の取りまとめを行った。	
進路指導	0.05	進路選択肢のひとつとしての脳外科医の業務・大学院脳神経外科分野の研究内容の紹介を行う。		0.05	進路選択肢のひとつとしての脳外科医の業務・大学院脳神経外科分野の研究内容の紹介を行った。	
診療	0.45	脳腫瘍、脳血管障害等の中枢神経障害によって運動機能障害を引き起こされた患者を対象に、運動機能回復促進を目的に経頭蓋直接電気刺激（tDCS）、ロボットスーツHALシステムでの訓練を実施する。また、病棟看護師と連携し、運動機能障害を引き起こされた患者の機能回復訓練を実施する。		0.45	脳腫瘍、脳血管障害等の中枢神経障害によって運動機能障害を引き起こされた患者を対象に、運動機能回復促進を目的に経頭蓋直接電気刺激（tDCS）、ロボットスーツHALシステムでの訓練を実施し、良好な回復を得た。病棟看護師と連携し、運動機能障害・日常生活障害を持つ患者の統一的なアプローチが実践できた。術前検査としての運動機能、言語機能、記憶機能に関わる脳機能計測として機能的MRIを駆使し、患者の脳機能マッピングを実施した。結果、安全な手術療法の実施に貢献できた。また、術中神経機能モニタリングの担当者として神経機能モニタリングを行い、安全な手術療法の実施に貢献した。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	長嶺　英樹	所　属	医学部脳神経外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	学生実習者に対する、症例を基にした脳神経外科学の基礎的な知識を適宜講義し教育を行っている。	0.20	各担当学生毎に症例の検討、基礎知識の学習、指導に努めた。
研究	0.30	社会人院生として、HTLV1キャリアと脳腫瘍の発生頻度の相関の解析を継続中。他、神経膠腫の高気圧併用放射線化学療法での予後解析を解析中。これらを論文化、学会にて発信予定である。	0.30	HTLV1キャリアと脳腫瘍との相関解析に於いて、第71回脳外科学会総会での報告を行った。又、神経膠腫の当科に於ける予後解析は症例を蓄積し継続中である。
社会貢献	0.05	地域連携委員会への参画。緩和ケア講習会スタッフとしての参加などで地域医療発展への貢献を図っている。	0.05	地域連携パスの意見交換会出席し、当院での脳卒中連携パスの実施、推奨に当たっている。
管理運営	0.05	学内委員会への参画（地域連携、感染対策、レジメン作成など）。入試試験管としての入試関連業務の運営に参画している。	0.05	各学内委員会への参加。入試関連業務、CBT、OSCE判定委員など進級試験に関する業務にも積極的に参加している。
進路指導	0.10	学生実習生、また臨床研修医からの質問、相談内容に親身な対応を行い、各々に適した医師像の明確化を補助している。	0.10	脳神経外科業務を主体として、実習学生の医師業務に対する疑問、質問への対応、全人的な患者対応の手法などを指導している。
診療	0.30	脳腫瘍症例を主体とし、外傷、脳血管障害などの救急患者の診療に従事し、専門医受験前の知識、技術のスキルアップを図る。	0.30	血管障害、脳腫瘍症例など幅広い疾患に対して最善を尽くし、自らの研鑽と患者サポートを念頭とした診療に努めている。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	外間　洋平	所　属	脳神経外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	マイクロ顕微鏡縫合実習，症例プレゼンテーション指導，M3講義(神経系の解剖と機能，神経系の検査)．特に実習において，全員が縫合体験出来るよう丁寧な指導を心がける	0.25	継続して指導した
研究	0.25	DTI based tractographyの臨床応用．術前後や経過において，各種神経線維束を描出し，電気生理学的検査，神経学的検査，高次機能検査との関連を評価，解析する	0.25	評価，解析を進行中
社会貢献	0.05	研究成果の学会発表，論文作成をもって社会貢献とする	0.05	学会発表をおこなった
管理運営	0.05	各種病院会議への代理出席	0.05	参加した
進路指導	0.05	学生の希望科聴取，助言	0.05	相談を受けつけ，助言した
診療	0.35	診療，手術手技レベルのステップアップ．脳神経外科専門医レベルの	0.35	日本脳神経外科学会専門医を取得した
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	澤口昭一	所　属	医学研究科・眼科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.24	医学科1年指導教官として生活及び学習指導を行う。眼科臨床研修医師の教育・研究指導を行う。最新の診療データをもとに、緑内障の診断治療に関するレクチャーを行う。医師および学生に対するAV機器を使用した手術教育を行う。最新の画像解析機器を用いた臨床実習を行う。	0.24	指導教官として食事会飲み会で学生との懇親をはかった。最新の画像解析機器（カシヤ、UBM)）の臨床実習を行った。眼科臨床研修医師の教育研究指導を行った。医師及び学生に最新の診療データーをAV機器を用いてレクチャーを行った。
研究	0.24	緑内障の疫学調査を遂行する。閉塞隅角緑内障の診断治療について最新の画像解析機器を用いた研究を行う。	0.24	疫学調査の論文を2編米国の主要眼科ジャーナルに採用され公表された。レトロスペクティブに閉塞隅角緑内障の発症と眼球携帯について研究を行った。
社会貢献	0.01	アイバンク協会の理事として沖縄県の角膜移植の遂行に尽力する。沖縄県へき地離島医療会議の委員として活躍する。教育センター委託医。　特に視覚障害児の進路判定業務と裁判所の判定業務に従事する。	0.01	アイバンク協会の定期懇談会に出席した。障害者児童の進級判定に関しての会議に出席した。沖縄県心身障害児適正就学指導委員会の委員として適正な身体障害児の進学の判定に貢献した。
管理運営	0.25	診療情報提供委員会、事故点検・評価及び改善委員会、医療安全管理委員会、医学科・医学研究科厚生委員会委員	0.25	自己点検・評価委員会、医療安全管理委員会、医学科・医学研究科厚生委員会委員に出席した
進路指導	0.01	指導教官として医学科学生の進路指導を行う。臨床研修指導医として	0.01	指導教官として医学学生の進路指導を行った。臨床研修指導医として、初期研修、及び後期研修の指導教育を行いその進路について指導した。
診療	0.25	緑内障を中心とした眼疾患の診断と治療、手術	0.25	緑内障を中心とした眼疾患の診断と治療、手術を引き続き精力的に行った
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	山内遵秀	所　属	眼科	職　名	医師、助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	医学実習生及び研修医へのレクチャー	0.20	ポリクリ実習生、研修医に対して臨床の現場でレクチャーを行った。医学部4年生の実技実習のレクチャーおよび実技試験の試験監督を行った。
研究	0.10	網膜硝子体疾患の臨床研究	0.10	網脈絡膜血管腫の治療について研究しその結果を発表した。
社会貢献	0.10	眼疾患の知識、予防の普及活動	0.10	臨床の現場で眼疾患の知識、予防の普及活動を行った。
管理運営	0.20	病棟医長として病床管理を行う	0.20	入院期間の短縮に取り組み、病床を確保することで緊急入院などをスムーズに行うことができた。
進路指導	0.10	研修医チューターとして進路指導を行う	0.10	研修医の進路相談をおこなうことができた。
診療	0.30	外来、手術を行う	0.30	昨年度に比較して硝子体手術件数が増加した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	谷地森隆二		所　属	附属病院・眼科	職　名	助教
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果		
教育	0.10	どの科に入っても役に立つ眼科的な内容を目指す。	0.10	ある程度行われた		
研究	0.20	大学病院における未熟児網膜症も研究を行う。	0.20	治療効果があがってきている		
社会貢献	0.15	臨床医として地域医療に貢献する。	0.15	離島の診察を行っている		
管理運営	0.15	副医局長・リスクマネージャーとして責任を果たす。	0.15	ある程度行われた		
進路指導	0.10	これまでの医師としての活動を具体的に伝え生かしてもらう。	0.10	あまり学生と接する時間がとれなかった		
診療	0.30	外来、病棟、手術	0.30	ある程度行われた		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。		

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	新垣淑邦	所　属	眼科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	学生からの意見の聴取と、疑問点へのアドバイス。 過去問を調べ、国試で必要な知識を授業へ盛り込む。	0.20	直接、学生と接する機会が少なかったが、指導に当たる場合には意見や意向をくみ取るように取り組んだ。講義や、進級試験に国試の傾向を盛り込んだ。意識的に若い先生への教育も行った。
研究	0.30	国内学会3つ以上、国外学会2つ以上の発表をおこなう。	0.30	発表機会数に関しては、目標を達成できた。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.25	説明会や、懇親会などを通して、学生や初期研修医の進学や進路での相談に応えていく。	0.15	懇親会や説明会を設け、学生や初期研修医の方の相談に乗ることができたが、その機会は少なかった。
診療	0.25	待ち時間は少なく、質は高い様な患者満足度の高い診療を行えるように努力する。	0.35	昨年度より外来患者数、手術件数ともに増加した。しかし、外来での待ち時間の改善は困難であった。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	太 田 孝 男	所　属	医学研究科育成医学講座	職　名	教 授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	系統講義の自主的な出席率を向上させる。症例を紹介し、その病態を考える力を育成する。臨床実習ではクリニカルクラークシップを実践し、自分で問題を解決する能力を養成する。大学院生には自分自身で作業仮説を立て、それを如何に解決するかを教育指導する。	0.30	大学院生の教育は不十分であった。教室員の人的余力がなく、社会人枠の大学院生が診療に時間を取られ充分な教育指導の時間を見つけるのが困難な状況にある。医学部学生の講義に関しては目標は達成できた。
研究	0.30	小児期の生活習慣病と心疾患発症危険因子の関連解析を周産期の栄養面から検討する。また未熟児網膜症の発症要因を周産期の成長（体脂肪発達）との関連で検討する。研究成果は国際誌に発表する。	0.30	本年度の研究に関して、6つの論文が国際誌に受理された。国内では生活習慣病に関する総説論文2件の依頼を受け小児科及び内科関連雑誌に発表した。
社会貢献	0.10	沖縄県学校保健協議会理事として沖縄県学童の健康問題に対応する。沖縄県周産期医療協議会委員として周産期医療体制の充実を図る。日本小児科学会代議員として、沖縄県小児科医のレベルアップを図る。	0.10	ほぼ目標は達成できた。
管理運営	0.10	育成医学講座教授、附属病院小児科長、附属病院周産母子センター部長として担当部門の教育・研究・診療の充実を図る。	0.10	人的不足で研究面では不十分であるが、教育診療面では充実してきている。
進路指導	0.00		0.00	
診療	0.20	附属病院小児科での専門外来の充実を図る。	0.20	今年度も大きな医療事故はなかった。専門外来では腎臓部門の人員補充が今年度も出来なかった。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	知念安紹		所　属	琉球大学大学院医学研究科育成医学講座	職　名	准教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.30	M4学生の講義（感染症・遺伝先天代謝異常１，２・小児症候学）、テスト問題作成、OSCE医療面接講義および試験監督、病棟におけるポリクリ学生の指導、研修医の指導、医員の発表・論文の指導、遺伝カウンセリング研修の医師指導		0.30	・・・M3・M4学生の講義（遺伝先天代謝異常・小児症候学）、テスト問題作成、OSCE医療面接試験監督、病棟におけるポリクリ学生の指導、研修医の指導を実施した。ポリクリ学生には症例呈示で鑑別疾患など列挙させて討論を行っている。遺伝カウンセリング研修の医師の指導を実施している。	
研究	0.40	ムコ多糖症におけるイソフラボン治療の効果、Morquio病の骨髄移植による治療効果、プロピオン酸血症におけるインフルエンザ罹患の後遺症について、脂肪酸代謝異常症の疾患予防について		0.35	環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)を担当し、調査地区である宮古島で講演を行った。沖縄小児科学会と沖縄小児科医会でエコチル調査の経過等を発表した。ビオプテリン欠損症(PTPS欠損)の続発性パーキンソン症の治療について報告した。Morquio病の自然歴の共同研究を行った。線維芽細胞を用いたムコ多糖代謝の実験の調整中である。	
社会貢献	0.10	Down症候群の親の会に対するサポート活動、骨形成不全症の親の会に対するサポート活動、ムコ多糖症の親の会に対するサポート活動、		0.10	・・・骨形成不全症の親の会の講演会(H24.8月)およびダウン症の親の会の講演会(H25.2月)、ムコ多糖症の親の会に対するサポート活動、沖縄小児科学会の理事および事務局と学会運営を行った。	
管理運営	0.10	副医局長としてサポート		0.10	副医局長としてのサポート	
進路指導	0.10	ポリクリ学生・研修医の進路相談、大学1年生の指導教官としての役割		0.10	ポリクリ学生の指導相談、M1指導教官として懇親会(2回実施)と事務手続きの連絡や学業・生活相談を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		0.95	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	金城　紀子	所　属	小児科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	学部担当科目（免疫、小児膠原病）を担当し、系統講義、ポリクリ学生に対してベッドサイドティーチング等を行う。初期研修・後期研修医への研修指導を行う。	0.30	系統講義およびポリクリ実習等において学生指導を行い，小児科学一般と小児膠原病についての指導を行った.
研究	0.20	小児膠原病に関する臨床研究を行い、積極的に学会発表を行い、論文採択をめざし研究論文を作成する。また、治験への参加し最新の治療に関しての評価を行う。難治性小児リウマチ性疾患の多施設共同研究に参加する。	0.30	難治性の小児膠原病疾患について，その診断および新しい治療について実施した．その結果については，学会発表を積極的に行った．多施設共同研究に参加しその成果を得た．しかし，研究論文は作成中であり，発表には至っていない.
社会貢献	0.20	小児膠原病に関する診断・治療に関して、リウマチ専門医として一般小児科医へ啓蒙のため、諸研究会で講演を行う。また、各保健所において、地域の患者さんと家族に対して、疾患に対する基礎知識や療養の相談を受けるための教育講演を行う。	0.20	小児膠原病について，他病院の小児科医師にむけて講演を行ったり，患者会の立ち上げの準備をおこなっている．また，１年に1回開催される日本小児リウマチ学会主催の小児リウマチ研修会を，沖縄で開催する際にその運営をサポートした.
管理運営	0.10	小児科外来医長として、外来での診療が円滑にすすむように、安全確保、事故予防、さらに諸問題の解決にあたる。また、院外委託検査委員会等の会議に参加する。	0.10	小児科外来医長として，外来診療における安全性を重視し，看護士と協力し問題解決にあたった．また，外来待合室のアメニティの改善を検討している.
進路指導	0.00		0.00	
	0.30	市中小児科での一般診療（救急も含めて）を通して、情報の収集と診	0.10	市中病院での診療を行う事によって，大学では診ることができない疾患の情報を得る事ができた．また，他病院からの小児膠原病患者の診断や治療方針について，情報交換をおこなった.
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	呉屋英樹	所　属	小児科	職　名	医師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	学生、研修医に対する講義、実習を通し後輩の教育を行う	0.30	M3、M4学生の講義や試験問題作成、ポリクリ学生への実習方式での講義など施行(毎月2-3回)。
研究	0.20	学会への投稿、発表など	0.10	全国学会への発表は行えなかったが学会自体には参加できた。県内の研究会などで発表を行った。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
診療	0.60	日常の病棟業務、外来診療など	0.60	今年は入院数、重症児の比率、超低出生体重児数など多く、日常診療は充実していた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	兼次　拓也	所　属	育成医学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	ポリクリ学生へのベッドサイドでの指導、カルテ記載指導、疾患に関する情報提供、ディスカッション　　系統講義における疾患説明	0.20	学生とのディスカッションが不十分であった。今後の検討課題である。
研究	0.20	小児内分泌患者における、IMT（内膜中膜肥厚）についてデータ収集、検討学会発表	0.20	データ収集はできているが、もう少し症例数を増加する事はできた。
社会貢献	0.20	保健所における小児糖尿病教室等の実施	0.20	糖尿病サマーキャンプに参加し、患者、コメディカルと交流ができた。
管理運営	0.20	各種委員会における貢献（２）	0.30	各種委員会へ参加し、医局員へ周知する事ができた。
進路指導	0.10	学生への進路指導相談	0.10	学生への進路指導相談：色々と話をする事ができた。しかし十分とは言えない。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	鈴木幹男	所　属	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	系統講義，ベッドサイドティチングを中心とした学生教育を行う。学生が興味を持ち自ら学習するように患者さんとできるだけ接する機会を増やす。FDに参加する。	0.15	多忙のためFDには目標より参加できなかった。大学生・大学院生への教育は目標どおりできた。
研究	0.20	学会誌への投稿や進行中の研究を引き続き行う。	0.24	国際誌，国際学会へ投稿し受理された。また国際学会で学会賞を受けた。研究成果は確実に上昇している。
社会貢献	0.10	沖縄県地方部会の会長，関連学会の評議員・代議員を務め，一般，会員の福祉向上をめざす。	0.10	目標を達成できた。
管理運営	0.10	臨床科の教授として各種委員会に参加する。病院長補佐としての役職を務める	0.10	多くの会議への出席し，委員会の委員長としても職務目標を達成できた。
進路指導	0.05	指導教官として3年生の学習，生活指導を行う。	0.01	多忙のため指導にかける時間が少なかった。
診療	0.40	外来・病棟・手術に診療科長として取り組む。	0.40	充分な診療目標を達成できた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	長谷川昌宏	所　属	大学院医学研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.05	医学生に対し，講義・実習指導を行い，耳鼻咽喉・頭頸部外科学領域の理解の援助を行う．市民講座(耳の日・鼻の日)を開催し，一般への啓蒙を図る．	0.05	医学生に講義・実習を行い、耳鼻咽喉・頭頸部外科学領域の理解を促し、将来の人材育成を行った。市民講座（耳の日）を行った。
研究	0.06	耳鼻咽喉・頭頸部外科学領域で，沖縄県に特徴的なウイルス疾患・頭頸部腫瘍につき，研究を行う．学会での報告および学会誌への投稿を行う．	0.06	研究テーマにつき学会発表を行った。
社会貢献	0.05	専門分野である耳鼻咽喉・頭頸部外科学領域の診療で，治療成績・患者満足度の向上を目指す．臨床成績の向上が，直接社会貢献につながると考える．	0.05	臨床統計により、中咽頭癌の治療成績の向上を確認した。臨床成績の向上が、社会貢献につながっていると考えた。
管理運営	0.02	入院期間の短縮につとめ、経費削減を目指す．	0.02	短期入院手術を積極的に進めている。特に鼻科手術については、昨年度に比較しても、かなりの短縮となっている。
進路指導	0.02	医学生に対し，頭頸部外科学領域診療・研究の重要性につき，指導する．耳鼻咽喉・頭頸部外科学領域の後継者を育成する．	0.02	後継者を育成している。
	0.80	専門分野である耳鼻咽喉・頭頸部外科学領域の診療で，治療成績・患者満足度の向上を目指す．特に，他県に比較して多い頭頸部癌についての治療成績の向上，より効果的な治療の方法の開発を目指す．また、鼻科領域で低浸襲手術や、短期入院の検討をする。	0.80	臨床統計により、中咽頭癌の治療成績の向上を確認した。内視鏡下頭蓋底手術を脳神経外科と協力し行っている。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	我那覇　章	所　属	耳鼻咽喉・頭頸部外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	講義、ポリクリ実習を通した学生教育を行う。	0.05	講義、ポリクリ実習を通した学生教育を行い得た。
研究	0.45	学会誌への投稿および現在進行中の研究の継続を行う。	0.60	現在、これまでの臨床研究（レボフロキサシン臨床研究）を投稿し掲載された。現在、他研究についても学会誌への投稿中である。
社会貢献	0.20	市民公開講座や患者団体等における講演活動を行う。	0.25	①市民公開講座「耳の日」講演会を開催、講演 ②3. 夏期短期研修にて小・中学校教師向けに講演。 ③沖縄県小児保健協会の乳幼児健診委員として乳幼児健診票の作成に従事。 ④5. 第27回おきなわ周産期セミナーに於いて講演 ⑤4. 第2回乳幼児健康診査担当者保健師研修会にて保健師向けに講演 ⑥沖縄県心身障害児適正就学指導委員として障害児の就学指導。 等の講演や活動を通して社会への啓蒙、療育施設への働きかけが行えた。
管理運営	0.05	委員会への参加や、教育連絡主任としてCBTの運営に参加	0.05	委員会への参加は適宜行ったものの、CBTの運営には参加は出来なかった。
進路指導	0.10	実習生に対して学習、進路指導を行う。	0.05	ポリクリ総括を通した総合的な耳鼻科教育と進路指導を行い得た。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	山下　懐		所　属	医学部　耳鼻咽喉・頭頸部外科	職　名	助教
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.10	臨床実習生の要望などを積極的に聴取し、指導にあたる。		0.10	・・・指導はできた	
研究	0.30	症例報告や統計、基礎研究など学会での報告、論文発表を行う。		0.30	・・・頭頸部癌学会および頭頸部外科学会にて発表を行った	
社会貢献	0.04	耳の日、鼻の日講演会などへの参加につとめ、沖縄県民の耳鼻咽喉科領域疾患への関心を高める。		0.04	・・・2013年3月3日の耳の日講演会に参加予定	
管理運営	0.03	入試関連業務などへの参加。		0.03	・・・OSCEに参加した	
進路指導	0.03	臨床実習生などの進路相談があれば対応する。		0.03	・・・臨床実習生の指導、相談をおこなった	
	0.50	外来、手術など診療活動。		0.50	・・・外来、手術など診療活動を行った	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	喜友名　朝則	所　属	医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.07	学生講義に過去の国家試験問題を取り入れながら学生の学習意欲をかきたて、さらに実習では患者さんとの接し方などより実践的な教育を行う。	0.05	学生の講義に関して興味を持てるよう努力した。実習制度の変更で学生と接する機会が少なかった。
研究	0.25	音声と脳機能に関する研究を引く続き行う。また、音声の分析に関する機器を用いて、音声に関する研究を進めていく。これまで行ったデータをもとに学会発表、論文投稿を行う。	0.25	音声と脳機能に関する研究が計画通り行えた。国内、国際学会へ報告し、論文へも投稿した。
社会貢献	0.03	耳の日、鼻の日講演会などの地域貢献事業に積極的に助力を行う。	0.01	耳の日、鼻の日講演会などの地域貢献事業に助力した。
管理運営	0.13	病棟医長として病棟が無駄なく円滑に回転するよう勤める。手術の日程を無駄なく効率よく行うことができるよう努める。	0.08	病棟医長として病棟が無駄なく円滑に回転するよう勤める。手術の日程を無駄なく効率よく行うことができるよう努める。
進路指導	0.02	当院への就職希望の学生に対して積極的に相談に応じる。	0.01	当院への就職希望の学生に対して積極的に相談に応じる機会が少なかった。
診療	0.50	音声障害、嚥下障害、唾液腺疾患、頭頸部癌の保存的治療、手術治療にとりくむ。	0.60	計画通り音声障害、嚥下障害、唾液腺疾患、頭頸部癌の保存的治療、手術治療にとりくんだ。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	近藤毅	所　属	医学研究科・精神病態医学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	1．医学部学生に対し、精神医学系および救急医療の系統講義を行うとともに、臨床実習における総括を行う。 2．医学研究科学生に対し、精神病態医学および心身医学に関連する講義・演習・実習を行うとともに、指導教員として研究指導にあたる。	0.20	1．医学部学生に対し、精神医学系3コマ・救急医療1コマの系統講義、倫理総合討論・医学概論各1コマを担当し、臨床実習終了時の総括を行った。 2．医学研究科学生に対し、講義・演習・実習を行い、指導教員として5名の修了に関わった。
研究	0.25	1．臨床精神薬理学的研究に関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。 2．社会精神医学的研究に関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。	0.25	1．精神薬理関連の総説（臨床精神薬理15,2012）を2報発表し、国内外の学会発表において研究報告を行い、共同著者として英文学術雑誌2編の作成に関与した。 2．臨床精神医学関連の総説（精神科20,2012）を発表し、社会精神医学研究を専攻した3名の大学院生の博士論文（英文）を完成させた。
社会貢献	0.10	1．自殺予防活動の一環として、地域住民や一般医への教育・啓発的介入を継続的に実践するとともに、産業精神保健に関連した啓発活動を新たに展開する。	0.10	1．自殺予防活動の一環として、地域住民（那覇市）や一般医（南部地区医師会）への教育・啓発講演を行い、沖縄県自殺対策連絡協議会の委員を務めた。
管理運営	0.20	1．医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行う。 2．ハラスメント相談室長として学内のハラスメント相談にあたるとともに、ハラスメント相談室員会議を主催し、相談員の質の向上に努める。 3．上原事業所の分担産業医として職員の復職の指導区分の判定を行う。	0.20	1．医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行った。 2．医学部の教務委員会・学務委員会・倫理審査委員会等の委員を務めた 3．全学のハラスメント相談室長およびハラスメント防止委員会委員を務めた。 4．H24.11月まで、上原事業所の分担産業医を務めた。
進路指導	0.05	1．若手医師が専門医取得に向けて臨床研修機関を選択する際や、学際的な知識・技術の向上のため国内および国外留学を希望する場合に進路相談を行う。	0.05	1．若手医師の精神保健指定医および専門医取得に向けて必要な教育・指導を行った。 2．精神科研修委員会・地域医療推進委員会を運営・開催し、専門研修の充実を図った。
	0.20	1．琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来（精神障害者の妊娠・出産支援外来、児童思春期外来）を担当し、総合診療科において心身症を中心とした患者の診療を行う。 2．琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、臨床研修指導を行う。	0.20	1．琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来（児童思春期外来）を担当し、総合診療科において心身症を中心とした患者の診療を行った。 2．琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、臨床研修指導を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	三原一雄		所　属	精神病態医学講座	職　名	准教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.25	1)学生および研修医が精神科的視点を持った診療を理解できるようにする 2)学生および研修医から積極的に意見を聴取する 3)OSCEの医療面接に責任者として参画する 4)研究内容を教材として用い、教育に反映させる		0.25	1)学生および研修医が精神科的視点からの診療を理解できるように努めた 2)学生および研修医から意見を聴取し講義・指導等に反映させた 3)平成24年9月からOSCE医療面接の副責任者担当者として、積極的に参画している。 4)研究業績は教育内容に十分反映させた	
研究	0.15	1)全国学会での報告発表に貢献する 2)海外の学術誌へ論文の投稿を行う 3)全国学会を事務局として主催し、学術活動に貢献する 4)学会賞あるいは研究費の獲得を目指す		0.15	1)研究グループとして、国内学会3題の報告発表を行った。 2)論文1本が国内の英文雑誌にアクセプトされた 3)2つの全国学会でシンポジストと座長計2回を担当した。 4)研究グループとして研究会で優秀発表と研究助成金100万円を獲得した。	
社会貢献	0.10	1)精神保健判定医として医療観察法関係研究協議会に参画する 2)児童扶養手当法に関する審査業務の認定医として参画する		0.10	1)医療観察法関係研究協議会に参加し、更に、那覇地方裁判所より医療観察法に基づく、入院または通院処遇事件の精神保健審判員に任命された。 2)児童扶養手当法に関する審査病無の認定医として参画した。	
管理運営	0.10	1)医療材料検討委員会、院内感染対策実務者会議などの院内委員会に携わる 2)卒後臨床研修センターのセンター員として、研修医のメンタルヘルスサポートを行う 3)安全衛生委員会のカウンセラーとして職員の安全と健康の確保に努める		0.10	1)医療材料検討委員会、救急部運営委員会、医薬品安全管理専門委員会に携わった。 2)卒後臨床研修センター員として、研修医のメンタルヘルスサポートに積極的に関わった。 3)安全衛生管理委員会のカウンセラーとして安全衛生委員会に携わった。	
進路指導	0.05	1)学生および研修医が率直に意見を述べることのできる聴取する機会		0.05	1)学生および研修医の進路指導に適切な助言を与えた 2)学生および研修医から積極的に意見を聴取した。 3)教育および進路指導に関して、適切な助言を与えた。	
	0.35	1)認知行動療法、弁証などの新たな診療技術および治療技法の獲得		0.35	1)弁証法的行動療法など新たな診療技術および治療技法の獲得に努めた 2)精神保健指定医として、患者の行動制限の最小化に努めた 3)診療時間を十分に確保し、患者サービスの向上に寄与した	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	島袋　盛洋	所　属	医学部	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	臨床研修医および医学部学生への精神医学および臨床現場における指導を行う	0.2	臨床研修医への臨床現場における指導およびポリクリ学生の臨床実習指導および医学部学生（M3）への精神医学講義（睡眠障害）を行った。
研究	0.00			
社会貢献	0.10	地域住民および地域の精神科関連の専門職に対して　精神疾患患者に対する知識について啓発的介入を行う	0.1	地域住民に対して　認知症の対応法についての啓発活動を行った。
管理運営	0.10	所属病棟において副病棟医長として病棟医長が行っている業務の補完的役割を担当する。	0.1	副病棟医長の業務を行った。
進路指導	0.05	必要に応じて研修医および若手医師の進路指導および助言を行う	0.05	主に研修医に対しての進路相談を行った。
診療	0.55	琉球大学医学部附属病院における精神科外来および病棟に所属し、診療に従事する。また、児童思春期外来を担当し、県内における児童思春期の専門的治療を行う。	0.55	一般精神科医師として精神科診療を行いまた、児童思春期の専門的治療に携わった。平成24年12月の一か月間は救急部においての診療を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	仲本譲	所　属	医学研究科・精神病態医学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	医学部学生に対して、精神医学の系統講義を行う。また、臨床実習においては予診の取り方や、ロールプレイを用いたうつ病患者さんへの問診法について講義・実習を行う。	0.20	・・・3年次を対象に「コンサルテーション・リエゾン精神医学」の系統講義を行った。また、5，6年次を対象に「ロールプレイを用いたうつ病患者さんへの問診法」について講義を行った。
研究	0.25	一般医に対するうつ病の認識・希死念慮への対応について啓発講演を行い、その効果について比較研究を行う。その研究結果を学会および論文にて発表する。	0.25	・・・一般医に対するうつ病の認識・希死念慮への対応について論文を作成中である。
社会貢献	0.10	自殺予防活動の一環として、一般住民や一般医に対してうつ病の啓発講演を行う。	0.10	・・・沖縄こころネットワーク学術講演会で、一般医を対象に、「一般医を対象としたうつ病啓発の効果について」の講演を行った。
管理運営	0.30	琉球大学付属病院の精神科神経科病棟医長として病棟管理業務を行う。	0.35	・・・病棟医長業務として、ベッドコントロール、病棟内リスクマネジメントを行った。
進路指導	0.10	初期研修医や後期研修医に対して、将来の進路の参考になるよう助言・相談を行う。	0.10	・・・初期研修医・後期研修医むけに「認知行動療法」「摂食障害」に関する講義を行った。往診でせん妄患者さんへの対応・薬物療法について指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	要　　匡	所　属	医学研究科・遺伝医学	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	・基礎配属学生への実験・研究指導を行う。 ・遺伝医学における最新の動向を講義・指導に取り入れる。 ・研究業績を取り入れた講義を行う。	0.25	・基礎配属学生への実験・研究指導を行った。 ・次世代シーケンサの進展、1000人ゲノムプロジェクト、1000ドルゲノムプロジェクトなど最新の知見を取り入れた講義を行った。 ・遺伝子解析など遺伝医学分野で行っている内容を取り入れた講義を行った。
研究	0.45	・研究成果を学会で発表する。　・競争的資金の獲得を目指す。 ・共同研究（学内、学外の大、研究施設など）を行う。 ・研究成果を研究誌へ投稿する。 ・学会へ提言、助言等を行い、学会運営へ貢献する。	0.45	・人類遺伝学会（日本、米国、欧州）、日本分子生物学会、PWS国際シンポジウム等で成果発表、招待講演等を行った。・厚生労働省研究費補助金を獲得した。　・国立遺伝学研究所、長崎大、鹿児島大、東大、横浜市立大、（株）バイオジェット等と共同研究を行った。　・JHG, Autism Res Treat, Nat Genet等の雑誌へ論文を発表した。　・NEJM等へ論文を投稿した。　・先天異常学会、人類遺伝学会等の評議員会へ参加した。　・J Genome Mutation, IJGGへChief Editor, Editorとして参画した。 ・AJMG, JHG, IAM, Pediatrics International等の投稿論文の審査を行った。
社会貢献	0.15	・学外の学術委員会等へ参画する。 ・地域貢献へ向け、実験講習会や講義などの教育を行う。	0.15	・沖縄高等工業専門学校の遺伝子組換え安全委員会へ参画し、申請審査等を行った。　・学外で開催されたDNA体験講座、講習会で講義及び実習指導を行った。・沖縄リハビリテーション学院で言語発達障害学の講義、バイオインフォマティクス人材育成事業で講義、問題作成を行った。・バイオインフォマティクス人材育成推進委員会へ参画した。
管理運営	0.10	・学内委員会などに参加、貢献する。	0.10	・ライジングスター評価委員を担当した。 ・H25年度大学センター試験の監督を行った。 ・CBT作成問題検討を行った。　・機器策定委員を担当した。
進路指導	0.05	・学生（指導学生等）に対し、勉学や生活などに関する話を行う会合を持つ。 ・学生の将来的進路（診療科など）に関する助言を行う。	0.05	・指導学生と勉学や生活などに関して話し合う会合を開いた。 ・6年次学生、5年次学生より進路について相談を受け、助言を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	柳　久美子	所　属	医学研究科･遺伝医学講座	職　名	助　教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	遺伝医学実習の指導（1コマ/年） 基礎配属学生実験の準備・指導（3週間/年） 講義の補助 実験を希望する職員・学部学生の実験の立案相談、指導（5日/週）	0.30	・・・遺伝医学実習の指導、採点、講義が円滑に進められるよう補助業務を行った。基礎配属学生には、分子遺伝学を臨床との関わりを実技を含めて指導を行った。講座配属の技術職員に研究内容を説明し、技術指導を行った。
研究	0.50	外部資金の獲得 他研究機関との共同研究の推進 学会誌への投稿（2編/年） 学会発表（2回/年）	0.50	・・・外部資金の獲得のため、平成25年度科学研究費（基盤研究（C））に応募している。国立遺伝研、東京大学、長崎大学、鹿児島大学、熊本大学、バイオジェット(民間企業）などと共同研究を推進している。筆頭著者としてAutism Res Treat.、共同著者としてJ Hum Genet.（2報）、J Obstet Gynaecol Resに論文を掲載した。また筆頭発表者として分子生物学会、日本人類遺伝学会に参加した。
社会貢献	0.20	他医療機関から依頼された患者さんの遺伝子診断 沖縄高専の学生への実験の立案相談、指導	0.20	・・・沖縄高専の学生への実験計画の立案に助言を行った。国内外の医療機関から依頼された患者の遺伝子診断を行うとともに、半永久的に患者検体を保管するために、B細胞を不死化、凍結保存した（24検体）。
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	山根　誠久	所　属	大学院医学研究科先進検査医学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	担当する系統講義で、医学的な論理力と想像力を育成する教育方法を進める。 大学院教育では、院生を取り巻く教育環境を正しく把握し、問題解決を図る。 臨床実習では異なる職種によるチーム医療への取り組みを指導する。 保健学科学生への卒業研究から、実地教育の拡充を図る。	0.2	系統講義の世話人を務め、自らは論理性と想像力を培う講義方法に努めた。 大学院教育では、受講院生の研究指導を務めた。 臨床実習では、検査部と輸血部の実習で臨床検査技師との協調を培う機会を提供した。また、保健学科学生3名について卒業研究を指導した。
研究	0.25	検査部、輸血部医療系職員との研究を進め、学会誌への投稿、学会報告を進める。 広く学術的な学会に参加して、情報交換を図ると共に、共同研究の機会をつくる。 地域において研究会を組織し、他者啓蒙と自己啓発を図る。	0.25	9件の原著論文を投稿し、内8件が年度内に誌上発表された。また、全国規模の国内学会にて3件の研究発表を行った。 九州地区で3つの研究会を継続して企画、開催した。 奨学寄付金（5件、280万円）、受託研究事業（3件、193万円）の外部資金を獲得した。
社会貢献	0.04	沖縄県および九州地区での精度管理に参画し、検査成績の互換性保証を進める。 国内外の民間企業との共同研究、共同開発を進め、有効な検査技術の応用を進める。	0.04	九州臨床検査精度管理研究会の会長として九州地区の精度管理を推進すると共に、沖縄県では沖縄県医師会臨床検査精度管理委員会解析委員長を務め、沖縄県における検査成績の互換性保証に尽力した。 受託研究から薬剤耐性菌のサーベイランス事業に参画した。
管理運営	0.10	学内委員会、学部内および学科内委員会、附属病院委員会で活動する。	0.1	委員として出席が求められている各委員会に出席するように努力した。 検査部運営協議会を年度内に開催したが、輸血部運営協議会は開催できなかった。
進路指導	0.01	指導教員として、学生との定期的な懇談から個々の学生のもつ問題解決を図る。 担当する学生の修学指導と必要な支援、援助を与える。	0.01	指導教員として担当する医学科学生と定期的な会合の機会をもち、個々の学生のもつ問題解決と修学指導を行った。担当する医学科学生は全員、順調に卒業予定にある。
	0.40	検体検査管理加算(IV)の算定に必要な専任医師の任を務める。 「外来迅速検体検査加算」の算定が可能な検査環境を整える。 附属病院における診療実態に対応して院内検査の採用と休止を検討する。	0.4	検体検査管理加算(IV)の施設基準を取得し、必要な要件を満たすことができた。 外来迅速検体検査加算の算定が可能な病院情報管理システムの整備を図り、50%を超える算定率を確保するに至った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	戸田　隆義	所　属	医学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	臨床実習の一環として、ポリクリ学生実習の指導を行う。臨床医あるいは研究者として必要な英語論文を理解できるように、医学英語の教授指導を行う。	0.35	臨床実習の一環として、ポリくり学生実習の指導を行っている。臨床医あるいは研究者として必要な医学英語論文を理解できるように、医学英語の教授指導を行った。
研究	0.33	沖縄県の伝統野菜および食品の普及を目的としてサクナの脂質代謝および動脈硬化に対する影響を検討する。また、マラリア感染の諸臓器に及ぼす影響の栄養学的修飾について検討する。	0.33	サクナの脂質代謝、脂肪組織、血管に対する影響についての研究は、継続中である。マラリア感染が、マウスの諸臓器に及ぼす研究については、論文を作成中である。
社会貢献	0.17	地域医療に貢献するために、地域病院の外科病理学的診断および病理解剖業務を行う。沖縄県民の健康維持と改善の啓蒙を目的として、癌の早期発見および生活習慣病の予防に関する公開講座を企画開催する。	0.17	地域医療に貢献するために、地域病院の外科病理学的診断および病理解剖業務を行っている。また、沖縄県民の健康維持と改善の啓蒙を目的として、癌の早期発見および生活習慣病の予防に関する公開講座の企画開催を継続して実行している。
管理運営	0.15	検査部業務の適切かつ円滑な運営および医療過誤を防止するために、リスクマネージャーとして、定期的に臨床各科のリスクマネージャーと意見交換を行う。	0.15	検査部業務の適切かつ円滑な運営、医療過誤を防止するために、定期的に臨床各科のリスクマネージャーと意見交換を行っている。
進路指導	0.00	なし	0.00	なし
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	潮平　知佳	所　属	大学院医学研究科先進検査医学分野	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	・部局内検査技師および学生研究研修業務および研究業務に関する指導および相談。 ・医学科運営の教育連絡主任を努める。	0.20	部局内検査技師の研究にかかわる検査機器に対する指導および相談を行った。また、医学科教育連絡主任として、共用試験作成および実施、総合試験のブラッシュアップも担当した。
研究	0.40	・多剤耐性結核菌の薬剤耐性メカニズムの解明および遺伝学的多様性の解析。 ・結核菌の遺伝学的分類に関する他施設との共同研究による疫学調査。 ・Live／Dead染色を用いたフローサイトメトリ法での尿中酵母真菌細胞の解析	0.40	結核菌の遺伝学的分類に関して他施設との共同研究を行い学術誌への論文掲載を行った。また、科学研究費の課題である「Live／Dead染色を用いたフローサイトメトリ法での尿中酵母真菌細胞の解析」の最終報告書の作成・報告を行った。
社会貢献	0.20	・研究成果の学会発表。 ・学会誌への論文投稿。 ・学外研究会および研修会への参加。	0.20	共同研究による成果が国外学術誌に掲載された。また、学内外の研究会等に参加した。部内開催の研究会の運用に協力した。
管理運営	0.20	・部局内の劇毒物薬品管理および報告業務。 ・入試関連業務。 ・本学学術リポジトリのための部内管理。 ・医学科運営会議教育連絡主任業務。	0.20	全学的委員会（琉球大学エコロジカル・キャンパス推進委員会）においてエコアクション21に係る部局内の毒物および劇物管理および報告業務を行った。医学科内の化学薬品取扱い責任者としての管理、報告業務を行った。入試関連業務を行った。医学科運営会議教育連絡主任業務を行った。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	高山千利	所　属	医学研究科・分子解剖学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・医学研究科修士課程・博士課程の学生に対して、コース共通科目、選択科目の講義・実習を行う。 ・医学部2年次学生に対して、組織学・神経解剖学・発生学の講義・実習を行う。 ・医学部4年次学生に対して、基礎研究の指導を行う。	0.30	・すべての講義・実習を予定通り全て行った。 ・大学院の講義・実習は全てe-learning化した。 ・医学部2年次の講義は全面的にテキストを改訂し、バーチャルスライドとのリンクで学生の利便性を最大限に可能にした。
研究	0.25	・大学院博士課程の学生の研究指導を行う。 ・現在執筆中の論文3本を完成させ、投稿する。 ・第二内科、脳神経外科、分子・細胞生理学、薬理学との共同研究（概算要求事項）をすすめる。期間内に共著論文を投稿する。	0.25	研究指導を継続して行った。 論文を1本出版し、2本は現在執筆中である。 共同研究を遂行し、共著論文3報が出版、1報が出版予定である。
社会貢献	0.05	・公益財団法人　沖縄県医科学財団の監事・専門部会委員として理事会・評議会・専門部会に参加し、財団の管理運営を行う。	0.05	財団の監事として管理運営を行った。
管理運営	0.40	・ハラスメント関連の委員・相談員として琉球大学からあらゆるハラスメントが追放されるように努力する。 ・動物委員会の委員として、大学間相互認証を達成する。 ・動物実験施設長として、組織の管理・運営、改組、予算要求を行い、琉球大学における動物実験を用いた研究が発展するようにつとめる。 ・副学部長（医学教育担当）、教務委員長、学位論文資格審査委員会委員長、ARTプログラムWG委員長、医学教育企画室長として、カリキュラムの改変を行い、国家試験合格率の向上、大学院充足率の向上を達成するための初年度とする。 ・医学部・医学研究科教授、様々な委員として医学部・医学研究科の管理運営に参加する。	0.40	・ハラスメント関連の委員として多くの案件の解決を行った。加えて新たに規約改正に着手した。 ・動物委員会委員長として委員会における審査・動物実験に関する様々な問題を解決した。 ・医学部附属動物実験施設長として管理・運営を行い、様々な施設の改善・改修を行い、バリア区域での飼育数の大幅な増加、生殖工学を実現した。 ・医学教育担当の副学部長として様々な教務に関する管理運営を行った。そして、カリキュラムの大幅改訂、ミッション再定義、進級などに関する規程の改訂、国家試験合格率向上のための取り組み開始、総合試験の実施などを精力的に行った。 ・さまざまな委員会の委員として管理運営に参加した。
進路	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	大倉信彦	所　属	分子解剖学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.50	昨年に引き続き，学部担当科目（生命科学，組織学，発生学，基礎研究）の講義ならびに実習を分担する．病気休職中の准教授の分担も一部担当する．組織学各論開始時に，TBLを今年度初めて導入する．これまでに作製した教材の改良に努める．CBT問題作成を担当する．教育連絡主任として，医学部教育の改善に貢献する．	0.50	学部担当科目について、パワーポイントを使用した講義教材を改良し、講義と実習を実施した。さらに、改良された教材はオンライン学習システム（ウエッブクラス）にアップロードし、学生の自習の便を図った。組織学実習においてTBLを導入した。ハワイ大学のIntroduction to PBL (Problem Based Learning) workshopに参加し、PBLの知識とスキルを高めた。教育連絡主任医学部教育の改善に貢献した。
研究	0.40	二型精子の研究を継続して行う．カワニナを材料として，二型精子の雌性生殖道における動態を詳細に調べる．人体解剖学分野との共同研究で，ホヤ卵の受精に関する研究における形態学的解析を分担する．これらの研究結果を学会発表し，学術雑誌に掲載する．	0.40	二型精子研究については、目標に掲げた研究は継続中である。人体解剖学との共同研究の一部は、日本動物学会第83回大会と第32回ホヤ談話会で発表された。目標として設定していなかったが、農学部仲田研究室との家禽精子に関する共同研究の一部が、Journal of Poultry Science誌50巻に掲載された。
社会貢献	0.10	地域のコメディカル教育（那覇看護専門学校）に協力する．解剖生理学の講義および解剖見学実習を通して，看護職の基盤教育に貢献したい．その他に，地域団体等からの要請があれば，一般市民を対象に，二型精子の研究について判りやすく紹介する講義や講演などを行う．	0.10	那覇看護専門学校看護学科で人体の構造と機能（解剖生理学）の講義と解剖実習見学を行った。
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	岡部　明仁	所　属	医学研究科・分子解剖学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.50	・医学部第2学年次生に対して解剖学II及び発生学の講義・実習を行う。 ・医学部第4学年次生に対して基礎研究の指導を行う。 ・医学研究科博士課程の学生に対して、コース共通科目、選択科目の講義・実習を行う。	0.55	・医学部第1年次生の医学概論Aを1コマ担当した。 ・医学部第2年次生の解剖学IIの実習には全て参加し、実習指導を行った。また、神経解剖領域において「視床下部まとめ」の講義と「神経組織学実習I及びII」、「脳切片実習」、「肉眼脳実習」を行い、試験を行い評価した。発生学については「臨床奇形学」の試験問題を作成した。 ・医学部第4年次生の基礎研究において2名の学生に免疫組織化学の指導を行い、その結果をWeb Siteで公表した。 ・医学研究科博士課程のコース共通科目、選択科目の一部の講義・実習を行った。 ・ハワイ大学で開催されたPBL Workshop（2013年1月21-25日）に参加し、PBL成功例を研修で学んだ。 ・GTEC（2013年2月6日）の試験監督を行った。 ・平成25年度入学試験の英語採点業務
研究	0.50	・大学院博士課程の学生の研究指導を行う。 ・現在執筆中の論文1本と、投稿準備中の論文1本の計2本を完成させ投稿する。 ・兵庫医科大学疼痛制御部門（恒遠助教）及び生理学生体機能部門（荒田准教授）との共同研究を進め、期間内に学会発表を行う。	0.45	・博士課程の大学院生に対し、進捗状況報告会等を通して実験上の研究指導を行った。 ・執筆中の論文については、現在共同研究者と共に最終的な打ち合わせを行っている。投稿準備中の論文については、いくつか追加実験や、実験のやり直しの必要が生じたため、現時点ではまだデータの取得中である。 ・学会発表はできなかったが、共同研究者とは綿密に連絡を取り合っており、現在も私が担当する研究は進行中である。 ・平成24年度　琉球大学若手研究者支援研究費　採択 ・平成24年度　沖縄県医科学研究財団　研究奨励賞　受賞
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
その他	0.00		0.00	・うない通信ニューズレター　Vol.1 (2013年1月)に寄稿した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	清水　千草	所　属	医学研究科・分子解剖学部門	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.50	医学部2年次学生に対し、組織学・神経解剖学・発生学の講義・実習を行う。 医学部4年次学生に対し、基礎研究の指導を行う。 医学研究科博士課程の学生に対して、コース共通科目、選択科目の講義・実習等を行う。	0.60	医学部2年次学生に対し、組織学・神経解剖学・発生学の講義・実習に参加し、学生への指導を行った（合計64コマ）。 医学部4年次2名学生に対し、基礎研究の指導を行い、その結果はWebサイトで公表した。
研究	0.50	医学研究科博士課程の学生に対して、 研究指導を行う。 現在執筆中の論文を1本完成させ、投稿する。 第2内科との共同研究を推進し、共著論文を1本投稿する。	0.40	医学部1年次学生及び医学研究科博士課程の学生に対し、研究指導を行った。その成果を、日本解剖学会九州支部会及び総会にて学生らが発表した。 琉球大学後援財団 「教育研究奨励事業/女性研究者による研究支援」に採択された（助成額50万円）。 第二内科及び分子・細胞生理学との共同研究については、現在進行中である。 執筆中の論文については、近日中に投稿予定である。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
その他	0.00		0.00	うない通信　うない研究支援センターニューズレターに女性研究者支援事業における研究補助員制度について寄稿した。 沖縄リハビリテーション学院、琉球リハビリテーション学院、沖縄統合医療院に対し、神経解剖学の講義・実習を行った。 那覇市立看護学校、消防学校、歯科衛生士学校について、人体解剖学の講義・実習を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	陣野吉廣	所　属	医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.44	1. 講義が学生に伝わりやすいよう、講義の練習を特訓する。 2. 医学英語は昨年度の形式を踏襲しつつ学生からの積極的な意見を聴取する。 3. 各種奨学金の獲得に努め留学生の学習環境の改善を図る。	0.46	1. 特訓の結果、講義で拍手をもらった。 2. 意見聴取の結果、現在の形式は良好との評価を得た。 3. 奨学金を1つだけ獲得した。
研究	0.50	1. 助教を促してデータを論文化する。 2. 今年度中に200例のサンプル収集とシーケンス解析完了を目指す。	0.50	1. 論文化して欧文誌への投稿にこぎつけた。 2. サンプル収集中であり、シーケンス解析は未完了である。
社会貢献	0.02	1. 留学生を受入れ、真摯かつ熱のこもった研究指導を行い、もって日本人の誠意と高貴な志操の種を他国（の者）へ蒔くことにより日本国民に貢献する。 2. 国際貢献として日中共同研究を推進する。	0.02	1. 博士課程へ中国人留学生一人を得た。 2. 中国遼寧中医薬大学との共同研究を開始した。
管理運営	0.02	私費外国人留学生選考委員および大学入試面接委員としての役割を果たす。	0.02	まもなく委員としての任務を果たす。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	0.98	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小田 高也	所　属	大学院医学研究科・ゲノム医科学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.10	(学　部)・H23年度に実施した授業評価に基づく１年次担当講義(生命科 学)の改善．3名の単位不認定者に対するfollow up. ・教育連絡主任としての医学科教育への貢献 (大学院)・講座所属の大学院生への実験指導の徹底	0.05	(学　部)・1年後期の担当講義では，丁寧な授業運びに努めたが2名の不合格者が出た．本試験終了後に希望者（24名）に対し答案を閲覧させ，採点の解説と履修指導を行った．昨年度不合格であった3名中2名は本試験で単位取得し，1名は本試・再試とも欠席した．また，講座の主任教授が担当する2年次の医学外国語の約半分を代行した．次年度より始めるM1シミュレーション演習の打合せに参加し，「見る・聞く・触る体験8」を担当することになった． (大学院)・大学院生の一時帰国が長期化しているため中断している．
研究	0.85	・研究課題『ヒトゲノムに存在する反復配列遺伝子が有する生理的機能の解明』を展開させるため．胎盤組織で特異的に発現するHML6-c14転写物の細胞核内での挙動を検証する． ・来年度『科学研究費補助金』の申請に向けて，上記遺伝子の細胞内挙動を決定し，既知の核内構造体との相互作用を検証する．	0.85	・左記のテーマに基づき研究を進めているが，実験系の変更に伴う確認実験に時間がかかり，当初予定した核内既知分子との相互作用を検討するまでに至っていない．現在，4年次基礎配学生が手がけた材料を用いて，核内転写物の安定性に関与する可能性のある領域を検索中である．
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.01	・12月16日よりハラスメント相談室相談員を前任者より引き継ぎ，第5回会議より参加している．
進路指導	0.05	・担当する医学科５年次の指導学生11名に対する履修および進路指導． ・オフィスアワーおよび前後期の懇談会を通して，卒業後の進路決定に 関する情報を提供する．	0.09	・H20年入学生9名，H21年2年次編入生1名，H16年入学生1名を担当している． ・前後期の懇談会，および倫理総合討論（指導学生1名が参加）を通して担当学生と接し，専門教育科目履修に関する指導を行った．また，保健管理センターのカウンセリングを利用して，メンタルヘルスへのケアを考慮すべき学生への対応をコンサルトした． ・12月に施行された総合試験Ｉでは11名中4名が不合格となり，医学教育企画室からの指示もあり追試験に向けての履修指導を行った．特に，学年で最下位であった1名に関しては面接の上緊密に連絡をとり，徹底した指導を行った．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	杉本　潤	所　属	ゲノム医科学分野	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.10	基礎配属学生への研究指導を行う。	0.10	基礎配属学生の研究指導を行った。
研究	0.80	これまでアメリカミズーリ大学産婦人科講座との共同研究により、新規タンパク質の機能を世界で初めて明らかにした。近日中の論文投稿を予定している。本年度はこの論文投稿を完了させ、さらに共同研究を発展させる予定である。目標としては本年度中の論文投稿を2もしくは3とし、国際学会での発表を行いたい。	0.80	我々の研究室で明らかにした新規タンパク質の機能解析結果に関して、一報の論文投稿を終了した。
社会貢献	0.10	国際学会、ならびに国内の専門学会への発表を予定している。	0.10	国際学会として第4回アジア太平洋生殖医学会に、国内学会として第35回日本分子生物学会に参加した。
管理運営	0.00	特になし	0.00	
進路指導	0.00	特になし	0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	石田　肇	所　属	人体解剖学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	2年次解剖学総論の授業数を増やし、内容を充実させる。解剖学実習前の説明を行うとともに、骨学、解剖学実習での学生の成績評価を厳格に行う。4年次基礎研究で実施する局所解剖学実習の効果を筆記試験等で定量的に判定、評価する。さらに、Webclassを開設し、学生の自主学習を促す。	0.25	2年次解剖学総論の内容を充実させ、講義資料はすべてオンライン化した。解剖学実習前の説明を行い、骨学、解剖学実習では英語による筆記試験と口頭試問を行い、厳格に評価した。4年次基礎研究では局所解剖学実習の効果を筆記試験等で定量的に判断した。Webclassを開設し、学生の自主学習を促した結果、最大808名のアクセスがあった。博士課程1名、修士課程1名を修了させた。
研究	0.30	基盤研究Bなどをもとに北里大学、長崎大学および北海道大学と連携し、琉球列島の人々の遺伝学、オホーツク文化人骨の遺伝学などの形質人類学研究を進め、アメリカ形質人類学雑誌等のインパクトのある雑誌への投稿を行い、受理を目指す。また、古代人骨の四肢骨などについての論文を書く。	0.30	基盤研究B（代表、分担）をもとに北里大学、長崎大学および北海道大学と連携し、琉球列島の人々の遺伝学、オホーツク文化人骨の遺伝学などの形質人類学研究を進めた。その結果、American Journal of Physical Anthroplogyに1本、Journal of Human Geneticsに3本、Anthropological Scienceに8本の論文が掲載された。
社会貢献	0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図る。ひらめきときめきサイエンスが採択された場合は、高校生を対象として、医科学の面白さを伝える。	0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図った。沖縄タイムスの「自然人類学から探る沖縄人」を連載した。厚生労働省から沖縄戦戦没者遺骨鑑定、北海道大学からアイヌ遺骨の整理を依頼され、実施した。ひらめきときめきサイエンスは不採択になった。
管理運営	0.25	医学科長として、学部長の補佐をするともに、入試委員長として、業務に当たる。入試改革を進め、入学生の質保証を進める。	0.25	医学科長として、入試委員会を主催し、私費外国人入試の中止を決定、前期日程入試の面接配点を変更することとした。県内各高等学校入試説明会並びに高等学校公聴会との懇談会、朝日新聞社主催の入試説明会に出席し、受験生の質の確保を行った。
進路指導	0.10	今年度は、6年次指導教員および医学科長として、積極的に学生の進路相談に応じる。	0.10	6年次指導学生を無事に卒業させることが出来たが、一人だけ、メンタルの問題で留年したため、来年度の学習計画について、医学教育企画室とともカリキュラムを作成した。地域枠学生には、琉球大学医学部附属病院で初期研修をするように募集要項を改訂した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	泉水　奏	所　属	医学部　医学科　人体解剖	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	教育連絡主任としての業務をおこなう。解剖I、基礎配属の実習において、肉眼解剖的構造が細胞組織学的知識と関連づけ、さらに生理学的視点からの理解が深まるよう、そして臨床との関連についての学生へ指導と説明を行う。	0.40	教育連絡主任としての業務をおこなった。解剖I、基礎配属の実習において、肉眼解剖的構造が細胞組織学的知識と関連づけ、さらに生理学的視点からの理解が深まるよう、そして臨床との関連についての学生へ指導と説明を行なった。シミュレーション教育に関する各講座指導担当者となる。
研究	0.45	現在投稿中の論文のリバイスで指摘されれた実験を行い受理を目指す。　細胞外pH 上昇による卵受精能獲得において、受精プロセスとの関係の研究を進め本年度動物学会で発表を行う。また細胞外pH 上昇による卵受精能獲得に関する論文の投稿準備を進める。	0.45	投稿中の論文においいてリバイスで指摘されれた実験を行い論文は受理された。細胞外pH 上昇による卵受精能獲得において、受精プロセスとの関係の研究およびJAMBIO共同研究を進め本年度動物学会にて3演題の発表を行なった。また細胞外pH 上昇による卵受精能獲得に関する論文の投稿準備を進めている。
社会貢献	0.15	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義を行い人体解剖学的知識を基盤として、コメディカル人員の養成に貢献する	0.15	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義を行い人体解剖学的知識を基盤として、コメディカル人員の養成に貢献した。
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	佐藤　丈寛	所　属	医学研究科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	2年次解剖学Ｉにおいては、学生たちが肉眼解剖学的知識を、後に学ぶことになる臨床科目と密接に関連付けられるよう工夫しながら指導を行う。4年次基礎研究においては、形質関連遺伝子探索研究を通して、近年の疾患関連遺伝子探索研究の原理や遺伝統計学の概要についての理解を促す。	0.40	2年次解剖学Ｉおよび4年次基礎研究において、人体の構造や解剖の手順等に関する指導を行った。4年次基礎研究の形質関連遺伝子探索研究では、遺伝統計学的分析の補助を行った。また、大学院生の英文作成や統計およびその他の数学およびソフトウェアの使用方法に関する指導を行った。
研究	0.60	国立遺伝学研究所、九州大学と連携し、ヒトの可視的形質の関連遺伝子探索研究を行う。また、北里大学、統計数理研究所と連携し、ゲノムワイドSNPsデータに基づいた琉列島人の集団構造の解明および、日本人集団の成立過程に関する研究を進める。琉球列島人の集団構造については年度内に論文を執筆し、国際英文誌に投稿、受理を目指す。	0.60	ゲノムワイドSNPデータに基づく琉球列島の人々の集団構造に関する研究成果を第66回日本人類学会大会にて発表し、若手会員発表賞を受賞した。現在は本研究の成果を学術雑誌に投稿するための準備中である。また、北里大学、統計数理研究所と連携してゲノムワイドSNPデータに基づく日本人集団の成立過程ならびに縄文人ゲノム解析に関する研究を継続中である。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	松下正之	所　属	大学院医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部学生 1）生理学Iの授業・実習により基礎医学の理解を深めさせる。 2）医学外国語授業により、医学に必要な英語知識を習得させる。 3）国家試験レベルのミニテストなどを講義終了時に行う。 4）授業に対するアンケートを実施し、今後の改善点とする。 5）研究成果を紹介し、学生の基礎医学に対する興味を喚起する。 6）授業資料はホームページでも閲覧可能とする 大学院学生 1）生理学概論や各論の授業により、研究に必要な考えを習得させる。　2）大学院生の研究指導を行い、学位論文の作成指導を行う。	0.30	学部学生 生理学Iの授業・実習により基礎医学の理解を深めさせる、基礎医学に対す興味を喚起することができた。その結果として、3～5人程度の学部学生が授業終了後に、自主的に研究室でプロジェクトを持ち実験を行っている。平成24年度の目標に関しては、すべて達成している。 大学院生 大学院生3名の研究指導を行い、学会発表を行い論文投稿の準備をしている。
研究	0.50	1）大学院生の論文を1報受理させる。 2）細胞内導入ペプチドのリバイス中論文を受理させる。 3）大型研究費の獲得を目指す。 4）現在行っている沖縄大学院大学との共同研究を論文化する。 5）医学部で獲得している2件の概算要求プロジェクトに貢献する。	0.50	共著論文を含めて6報の論文が受理された。特に、Nature Communicationsに責任著者論文が採択され、日経新聞などで紹介された。研究費の獲得では、文部科学省科研基盤B、新学術領域、挑戦的萌芽研究に採択されている。さらに、民間研究費として、武田科学振興財団のビジョナリーリサーチ助成が継続採択、テルモ財団の助成に採択された。概算要求プロジェクト研究で、新たなコレステロール代謝の発見があり、精力的に研究を進めている。
社会貢献	0.05	1）理学療法士や作業療法士を目指す学生たちに、生理学講義を行い、正常な身体の機能について教育する。 2）琉球医学会誌編集委員長として、沖縄の医学研究発展に貢献する。	0.05	平成24年度の目標は達成している。
管理運営	0.10	琉球大学 1）研究推進戦略委員 2）琉球大学営利企業兼業審査委員 これらの委員を務めることにより、琉球大学の研究・知財に貢献する。 医学部 1）ホームページ管理委員会委員長、2）学務委員、3）厚生委員　4）医学研究科予算委員等の職務により医学部の管理運営に貢献する。 分子・細胞生理学講座 教授職にあり、本講座の准教授、助教、研究生の研究・教育指導にあたる。	0.10	平成24年度目標の種々の委員会での管理・運営業務を行い、目標は達成している。
進路指導	0.05	1）医学科3年次指導教官として、学生の進路や学業に関する助言を与える。 2）分子・細胞生理学講座で研究を行っている学部学生に適切な進路に対する助言を行う。	0.05	班会議を2回開催し進路指導などの助言を行った。さらに、分子・細胞生理学講座で研究を行っている学部学生に適切な進路に対する助言を行っている。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中村　真理子	所　属	医学部医学研究科　分子・細胞生理学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	・M2生理学I講義を前期3コマ、後期6コマ担当し、後期実習5日間担当する。理解度を深める講義にする。血管内皮細胞・血小板機能等、自ら行った研究内容を講義や実習に導入する。M2生理学II実習を前期5日間　脳波のとり方と解読を指導する。 ・医学外国語は、小グループで外国語に親しみながら、医学的知識を吸収できる講義にする。 ・M4基礎配属では実技を通して、血小板の基礎－臨床応用の研究を指導する。	0.35	・研究と講義を一体化する事も重要であるため、講義資料は、私の研究で得られた止血機構の実験結果や顕微鏡写真などを導入した。 ・生理学講義内容に関する質問は、可能な限り対応した。また、講義開始前に、講義内容について一部学生に意見を聞き、学生への対応に時間が持てるよう努力した。
研究	0.35	・これまで同様、日本生理学会で研究報告発表を行う。 ・科研費「ハブトビン組換え蛋白体の構造と抗血栓活性発現との関係性」研究分担内容のうち、組換えハブトビンの血小板凝集能抑制効果について追究する。また、新しい技術を使った研究にチャレンジする。 ・科研費分担最終年度のため、（血小板に関するデータ）を論文にまとめ、投稿する。	0.35	・最終年度の科研費研究分担内容を中心に、外部技術を導入して作製した2種の組換蛋白体ハブトビンを使って、「血小板凝集に対する組換蛋白体ハブトビンの作用」を検討した。その結果を国際生理学会（2013年7月開催）で発表する予定である（抄録を2月末までに提出する）。
社会貢献	0.15	・理学療法士や作業療法士を目指す学生に、生理学講義・実習を通して、正常な身体の機能を教授する（学外）。 ・医療現場で働く理学・作業療法士に、病態生理学的観点から定期的にセミナーを開催する。 ・日本生理学会・日本病態生理学会の評議員会へ参画する。	0.15	・理学、作業療法士を育成する専門学校で生理学講義・実習を担当した。 ・日本病態生理学会・日本生理学会の評議員会へ出席し、医学教育や研究者育成について意見を交換した。 ・NHK沖縄からハブ毒研究成果について情報公開を依頼されたため、理解しやすいように対応した。
管理運営	0.10	・教育連絡主任として、会議に出席し、医学科の教育向上に貢献する。 ・センター試験・入学試験およびCBT等の試験監督を率先して行なう。 ・CBT試験問題の作成を率先して行う。	0.05	・センター試験の試験監督補助と警備・案内を行なった。 ・CBT試験問題の提出を行った。 ・教育連絡主任として、会議・FDに参加し、その内容を講座内で報告した。 ・入学試験監督は、依頼がなかった。
進路指導	0.05	・本年度は指導教官としての任務はない。しかしながら、在学生からの要望があれば、既卒者との懇談会を計画する予定である。	0.10	・本年度は、10月からM5指導教官の担当を依頼された。 　新カリキュラム下で行われた総合試験Ｉについては、試験の取組みの目的などを説明し、可能な限り、学生相談に対応可能な環境を心掛けた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	砂 川 昌 範	所　属	大学院医学研究科　分子・細胞生理学講座	職　名	助 教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	●授業評価に基づき、講義内容を厳選し、理解度を高めるよう改善する。 ●生理学実習をとおして生体反応の解析方法を習得させる。 ●研究仮説、方法、結果考察を大学院生と共に行い、研究協力を行う。	0.25	･･･●講義時間数を増やし、説明を平易にし学生の理解度を高めることが出来た ･･･●レポートに示された図表とその説明内容を基に判断すると、生体反応の解析方法を学生に適切に習得させることができた。 ･･･●研究内容を吟味し、研究指導協力を行った。
研究	0.60	●研究成果をを学会および学会誌に発表する ●基盤研究（C)「血管平滑筋の形質変換における電位依存性カルシウムチャネルの役割」の研究代表者 ●基盤研究（B)「細胞選択的導入ペプチドを用いた疾患治療戦略」の研究分担者 ●基盤研究（B)「ハブトビン組換え蛋白体の構造と抗血栓活性発現との関係性」の研究分担者 ●化学物質・病原体の管理、報告書作成	0.60	･･･●論文発表および学会発表が出来なかった。 ･･･●基盤研究（C)22590210の研究を行い、3年目の研究課題を遂行した。 ･･･●基盤研究（B)22390038の研究を行い、3年目の研究課題を遂行した。 ･･･●基盤研究（B)21390060の研究を行い、4年目の研究課題を遂行した。 ･･･●沖縄血管病態研究会の運営を行った。 ･･･●アルコール、PRTR、有機溶剤管理を適切に実施し、報告書を提出した。
社会貢献	0.05	●生理学会、日本病態生理学会の評議員会への参画 ●産業医として企業の安全衛生の指導を行う	0.05	･･･●日本生理学会の評議員会に参加。 ･･･●職場検診結果を基に、160名の従業員に安全衛生の指導を実施した。職場巡視報告書による改善指導により事業所の安全衛生が向上した。
管理運営	0.05	●センター試験、入学試験等での試験監督としての業務を行う ●局所排気装置の定期自主点検の実施	0.05	･･･●センター試験において警備業務を実施し、セキュリティー管理に努めた。 ･･･●点検報告書を提出した。
進路指導	0.00		0.00	
医療支援	0.05	●地域医療における血液透析療法の支援を行う ●地域医療における総合内科医としての支援を行う	0.05	･･･●入院患者の病状に応じて診断治療を適切に行った。 ･･･●外来患者の診断治療を行い、北部地区の地域医療に貢献できた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	片桐千秋	所　属	医学研究科　脳神経外科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00		0.00	
研究	1.00	高圧酸素療法併用放射線治療によるマウス腫瘍への効果を分子細胞生物学的に解析。TRPM7変異マウスの脂質代謝異常の詳細を生化学的に検討。Fray遺伝子のヒトホモログOSR1とSPAKの低酸素応答に関する研究。	1.00	高圧酸素療法併用放射線治療によるマウス腫瘍への効果について腫瘍モデルを確立し高圧酸素療法に併用群に優位に放射線治療効果を認めた。TRPM7変異マウスの脂質代謝異常は肝臓における脂質分泌異常であることを明らかにした。低酸素応答においてFrayノックダウンは糖新生酵素PEPCKを発現上昇させ代謝変化を起こす事が明らかとなった。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	筒井　正人	所　属	薬理学	職　名	教　授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.37	①医学科3年生の薬理学講義・実習、②基礎研究室配属の学生指導、③薬理学大学院生の研究指導、④医学科2年生の医学外国語の講義、⑤指導学生の指導、および⑥医学科研究生の研究・教育指導、を行う予定である。熱意と誠意を持って、当該教育に打ち込む。	0.37	左記の目標は十分に達成できた。
研究	0.37	世界的に権威のある雑誌に、出来るだけ多くの論文をpublishさせることを目指す。さらに、外部資金の獲得に尽力する。	0.37	今年度は4つの論文をpublishし、4つの外部資金を新たに獲得出来た。しかし、全く満足はしておらず、論文も外部資金の獲得も、もっともっと頑張って行きたいと思っている。
社会貢献	0.02	久留米大学医学部および産業医科大学において、薬理学の講義を支援する。	0.02	左記の目標を達成した。
管理運営	0.20	大学院医学研究科において、①学務委員会委員長、②教務委員会委員、③臨床研究利益相反審査部会委員、④琉球大学附属図書館医学部分館運営委員会委員、⑤琉大特色科目小委員会委員、⑥動物実験施設運営委員会委員、⑦教育委員会委員、⑧薬事審議会委員を担当している。委員としての職責を全うする。	0.20	左記の目標は十分に達成できた。
進路指導	0.04	医学科の薬理学講義、基礎研究室配属の学生指導、薬理学大学院生	0.04	左記の目標は十分に達成できた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	野 口 克 彦		所　属	大学院医学研究科薬理学	職　名	准教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果		
教育	0.30	基礎配属された学部学生ならびに大学院修士課程学生に対し、基礎薬理学に関するセミナー形式や実験による教育を昨年度までの反省を踏まえた上で実践する。また、大学院博士課程の学生に対し、研究の指導助言を行う。3年次学部学生には担当する「薬理学」の講義を、できるだけ最新の知見を取り入れつつ、全体的なレベルアップを図ることを目標に行う。	0.30	基礎配属の学部学生に対して、基礎薬理学の考え方や医師としての心構えについて議論した。3年次学部学生に対しては、担当する「薬理学」の講義16時限を、最新の研究成果を織り交ぜつつ、行った。薬理学実習では、従来担当していた項目に加えて、昨年度から始まった新たな項目を担当し、昨年の経験を踏まえて改善しつつ実施した。医学概論Aの講義を1コマ担当した。		
研究	0.60	現在取り組んでいる研究テーマ「循環器疾患と血管内皮細胞機能の役割」について、情報収集と実験及びデータの解析を実施し、学会発表の準備を行う。また、これまでの研究成果をまとめ、欧文誌への投稿を行う。	0.60	現在取り組んでいる研究テーマについて、情報収集と実験及びデータの解析を行い、日本薬理学会・日本循環器学会・日本NO学会・日本薬理学会西南部会・琉球医学会での発表とその準備を行ってきた。また、別のテーマについて、論文にまとめ、欧文誌への投稿原稿を作成した。科学研究費基盤C（平成24～26年度）が採択された。		
社会貢献	0.05	平成25年に主催することになっている学術集会の準備を行う。また、沖縄産天然物生理活性物質の薬理作用に関する研究に関連して、県内企業との共同研究の可能性について検討する。	0.05	平成25年6月に教室で主催することになっている学術集会開催に向けた準備を行った。今期では、県内企業との共同研究は実現しなかったが、企業など外部からの関心が得られるような沖縄産天然物生理活性物質の薬理作用に関する研究テーマについて情報収集を行った。		
管理運営	0.01	学内および教室内の省エネ・省資源などのエコアクションに協力し、いっそうの充実を図るよう努力する。	0.01	平成24年度CBT問題の学内検討委員会に出席し問題のブラッシュアップを行った。学内および教室内の省エネ・省資源などのエコアクションに協力した。		
進路指導	0.04	4年次学部学生の指導教員として、年次別懇談会を実施するとともに、学生の修学、経済問題、学生生活全般などに関する諸相談に応じ、適切な指導助言を行う。また、他の学部学生、および大学院生に対しても進路や履修などについて積極的に相談に応じられるよう努める。	0.04	4年次学部学生の指導教員として、年次別懇談会を定期的に実施するとともに、学生の修学、経済問題、学生生活全般などに関する諸相談に応じ、適切な指導助言を行った。また、他の学生に対しても履修などについて積極的に相談に応じた。		
	0.00		0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。		

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	松﨑　俊博	所　属	大学院医学研究科医科学専攻機能再生医科学コース薬理学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	3年次学部学生対象に「薬理学」の講義を行ない、実習ならびに履修認定試験を適切に実施する。さらに、基礎配属された4年次学部学生に対し、基礎薬理学に関する実験の準備・方法・まとめなどの指導および基礎研究に関する倫理面などの教育を行う。	0.45	学部学生を対象とする講義および薬理学実習、履修認定試験は、予定どおり行われた。4年次学生の基礎配属でも基礎薬理学の実験に関する基礎的な準備・実践・倫理面などの教育を行い、さらに、学生による実習発表と討論がなされ、おおむね好評であった。
研究	0.40	研究テーマである「血管平滑筋および内皮細胞の役割」に関する実験研究のいっそうの充実を図る。また、細胞内情報伝達物質に関する研究テーマを新しく始められるよう情報収集等の努力を行う。新たにトリプルNOSノックアウトマウスを作成する。科研費の応募を行い研究費の取得に努める。	0.35	トリプルNOSノックアウトマウスの作成はほぼ完成し、対照群のマウス共々凍結受精卵として保存するところまで進むことができた。さらに新しいノックアウトマウスの作成を行う準備も進んでいる。他大学との共同研究も行うことができ論文としてまとめることができた。研究費の獲得はうまくいかなかったのが今後の課題である。
社会貢献	0.10	看護師育成教育の充実を図るため助力し、特に専門である薬理学分野のいっそうの発展のため協力する。研究結果の社会への還元を図るため努力する。	0.10	看護師育成のため県立浦添看護学校にて薬理学の講義を行った。また、国家試験対策の講義にも協力した。引き続き次年度以降も協力する予定である。
管理運営	0.05	学内および教室内の省エネ・省資源などのエコアクションに協力し、いっそうの充実を図るよう努力する。（担当:分別回収・リサイクル責任者）　教室内のコンピュータシステムの効率的な運用を図り、セキュリティー面のいっそうの充実に努力する。	0.05	学内および教室内の省エネ・省資源に努力している。紙資源の分別回収のために回収箱などを用意した。コンピュータ類のセキュリティの拡充・効率的運用に努めている。また、講座のホームページを利用し、学生・大学院予定者に分野の研究内容や講義内容の紹介を行い、講義日程の変更の通知などにも利用している。
進路指導	0.05	学生の進路指導に関して、Eメール・e−ラーニング等を活用し、素早い対応ができるように用意するとともに、社会の推移に注意し、的確な指導ができるように努める。	0.05	講義時間内に独自の電子メールアドレスを学生向けに示し、学生が気軽に質問を行えるようにした。また、学生が相談等を気軽に行えるように相談に応じることのできる場所や時間帯を学生に伝え、直接話しにくい場合には電子メールなどを積極的に使うように伝え、利用している。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	坂 梨 まゆ 子	所　属	医学研究科	職　名	助 教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	昨年度より開始した中枢分野の講義については、デポ剤に関する内容を追加したい。昨年新たに販売開始された認知症治療薬についても、講義時間をやりくりして紹介したい。漢方薬の講義では、がん治療の補完療法で用いられる処方について、新しく講義内容を追加予定である。東洋医学研修会に参加し、最新の知見を広め、講義や実習に反映する。	0.20	中枢分野の講義では、新規認知症治療薬と既存の認知症治療薬の薬理作用の違いに関する講義内容を追加した。漢方薬の講義では、外科治療（がんの切除など）で使用される漢方薬の作用機序に関する講義内容を追加した。さらに、東洋医学研修会に参加し、漢方医学のみならず中医学的知見を広め、講義内容に反映させた。
研究	0.55	科研費を獲得した研究（高脂肪食負荷ラットにおける漢方薬の効果の検討）およびトリプルNOSノックアウトマウスの表現系に関する研究を行う。大学院生の研究指導を行う。研究の成果を、日本薬理学会、日本NO学会等で報告発表する。研究成果を論文にまとめて投稿する。	0.60	ラットを用いた漢方薬の研究では、心臓の虚血再灌流障害の改善作用に関する三黄瀉心湯の有効成分の解明に着手し、結果を出した。トリプルNOSノックアウトマウスを用いた研究では、テレメトリーシステムを使用した血圧測定の手技を新たに修得した。研究の成果を、日本薬理学会（年会および地方部会）、日本NO学会で発表した。また研究成果を論文にまとめて投稿中で、現在 revise の最中である。
社会貢献	0.10	専門分野（薬理学）の知識を生かして、学外の看護学生への教育を行う。保健薬局等の薬剤師からの薬理学および臨床薬理学の相談に応じる。一般の方向けのお薬相談で薬の飲み方や相互作用に関する相談に応じる。	0.10	私立看護学校の生徒に対して薬理学の教育を行った。また、学外にて保険調剤薬局の薬剤師向けの研修に参加し、薬の相互作用や、副作用の発生機序などに関する指導を行った。さらに、学外にて薬に関する健康相談に参加し、患者からの相談に応じた。
管理運営	0.05	教育連絡主任として会議等に参加し、活動に貢献する。センター試験の試験監督業務に協力する。学内および教室内のエコアクションに協力し、充実を図るよう努力する。研究室内の毒劇物管理を行う。	0.05	教育連絡主任として活動に寄与した。センター試験の警備を担当した。前期試験では採点業務を担当する。エコアクション活動の一環として、研究室内の毒劇物管理を担当し、本年度は新たに保管庫を新設し、管理の充実に努めた。
進路指導	0.05	大学院進学希望者に対応し、適宜助言・指導を行う。薬剤師資格を持つ大学院生に対しては、就職先の相談に応じる。琉球大学への進学希望者（高校3年生）に対応し、希望がある場合は大学構内や病院内の案内を行う。	0.05	大学院進学希望者（医学研究科修士課程）1名、および琉球大学医学部への進学希望者（高校3年生）1名に対応し、大学構内および付属施設（病院等）の案内を行った。本学大学院在籍者に対して、就職活動方法に関する助言・指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	國吉　幸男	所　属	医学研究科（胸部心臓血管外科学講座）	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	1）学部学生への講義（M3,4);循環器外科に関する講義。大学院生への講義；人工弁、人工心肺等の人工臓器に関する講義。 2）臨床実習（M5,6）学生への実地臨床の教育（術前・術後管理、手術の実際、提出レポートに基づく口頭試問の実施・評価）。	0.20	従来通り、講義および臨床実習での指導を行い、最終日にはレポートによる口頭試問を行い、ほぼ目標通り実施できた。
研究	0.20	1）循環器外科に関する臨床的・実験的研究を中心とした研究：国内外学会での研究発表、投稿。各学会誌および専門雑誌からの依頼原稿執筆。 2）科研多施設研究、厚労省科研補助事業への参加 3）学術学会の理事・評議員として運営への参加 4）学術雑誌への投稿論文の査読、Editorとして雑誌編纂への参加	0.20	ほぼ目標通り実施できた。
社会貢献	0.10	1）循環器外科疾患に対する診療 2）沖縄県医師会への琉球大学の代議員として参加 3）循環器疾患に関する専門的講演会の開催	0.10	全国25施設の植え込み型補助人工心臓の施設認定（琉球大学）、植え込み実施者認定を確保し心不全に対する先端医療の導入 沖縄心不全研究会のたちあげ。
管理運営	0.05	1）他各種委員会委員として運営に参加	0.05	ほぼ目標通り実施できた。
進路指導	0.05	1）学部学生の他施設見学等の推薦状の作成 2）指導教員として、進学の指導	0.05	指導教員として、ICU、病棟を見学させ、いわゆるEarly　exposureを実践した
	0.40	附属病院第二外科、外来・入院患者に対する診療； 1）重症患者に対する外科治療および綿密な術前術後管理による外科治療成績の向上 2）患者に優しいより低侵襲な新しい治療法の導入および従来治療法の低侵襲化への改善	0.40	新しい手術術式、自己心膜を用いた大動脈弁形成術を導入した。 また、従来より行っている大動脈瘤に対するステントグラフト治療を分枝のある部位（胸腹部大動脈瘤、弓部大動脈瘤）への応用を行っている
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	山城　聡	所　属	胸部心臓血管外科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	医学部3年次及び4年次の臨床講義（系統講義）に加え、5、6年次の臨床実習教育を行い、心臓外科疾患の診断及び治療の基本を理解してもらう。年度末には試験担当し、評価を行う。　初期臨床研修医・後期臨床研修医に対する臨床教育を行う。特に後期臨床研修医に対する教育は、一般外科のみならず胸部外科（呼吸器外科・心臓外科）の教育を行う。また、研修医の1回以上の学会発表或いは症例報告を目標とする。	0.25	医学部学生臨床講義及び臨床実習において心臓外科疾患の基本を理解させられた。年度末試験においてはその理解度を確認し得た。研修医に対する臨床教育において心臓外科手術手技及び術後管理について教育することができた。また、研修医に県医師会での症例報告を行わせることができた。
研究	0.20	基礎研究（心筋虚血・再灌流障害）の継続。臨床研究として開心術中の心筋虚血・再灌流障害についての解明に新たに取り組む。研究成果について論文発表・学会発表を行う。	0.20	充分な実験研究時間を得ることができず、新たな取り組みは進行し得なかった。しかし、臨床研究としての術中心筋虚血についての構想をすすめている。
社会貢献	0.10	臨床経験・治療成果（手術成績等）を学会発表、論文発表し、その情報を公開する。また、近隣病院での手術要請時に迅速に対応することで地域に貢献する。	0.10	大動脈疾患の手術成績の発表。当科で経験した希な疾患について学会や論文発表が行えた。近隣施設で緊急手術要請に対しては数回にわたり迅速に対応できた。又、低浸襲手術への取り組みが行えた。
管理運営	0.40	心臓血管外科疾患の診断ならびに手術治療を行う。月・水・木の定期開心術に加え緊急手術の迅速な対応を行う。周術期管理、退院後の定期外来管理を担う。	0.40	手術治療並びに診断を充実できた。特に緊急手術は迅速な対応で良好な結果を得られた。
進路指導	0.05	医学部5年次の指導教官として進路指導を行う。	0.05	懇談会等をとおして、学生へ対応することができた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	喜瀬　勇也	所　属	胸部心臓血管外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	医学部臨床実習学生の指導を行う。主にベッドサイドを中心に、周術期の患者管理、手術中の注意点の基礎を指導する。レポートの作成、プレゼンの指導を行う。	0.10	臨床実習学生に対し，心大血管症例の受け持ちを1例ずつあたえ，その疾患の理解を深めるとともに術後管理（とくにICUでの術後管理）をとおして学習してもらい，不明点の説明指導をおこなった．また担当症例についての文献的考察をおこなうためのレポート指導をおこなった．
研究	0.20	現在臨症状問題となっている、大血管手術の際の脊髄虚血に対して、犬モデル実験にて、脊髄血流保護に関する研究を継続する。研究課題は「人工心肺下低体温に伴う経頭蓋誘発筋電図（tc-MEP）の電位変化に関する実験的研究」。	0.20	犬モデルにおいてTC-MEPの電気刺激に対する電位変化を計測する事が出来るようになり、さらに胸腹部大動脈露出、遠位側かん流下胸腹部segmental arteryを遮断した際の脊髄血流の変化を計測し、脊髄環境の研究に着手している。
社会貢献	0.30	臨床業務を通して、適切な手術および患者管理を継続する。また高度心血管治療（人工心臓への取り組み等）の推進、社会的に認知されるよう、啓蒙も同時に行う。	0.50	緊急紹介症例の受け入れを積極的にできたと思われる．今後救急隊との連携をはかっていく．補助人工心臓症例の受け入れ、管理等先進治療も行っている。
管理運営	0.10	医学部運営管理に関する報告を受け、それぞれの持ち場で適切に実践する。	0.10	医学部管理運営に関して、臨床を通じて積極的に行っている。
進路指導	0.10	臨床実習で接する機会の多い学生を中心に、胸部心臓血管外科の特徴を伝え、地域に貢献できる医者が育つよう早い時期より指導を行う。	0.10	臨床実習を行っている学生に対して、主に専門性としての心臓血管外科領域の地域医療への貢献の在り方を説明、指導している。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	仲栄真盛保	所　属	胸部心臓血管外科学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.10	M5,M6学生に対し、血管外科の症例に対して、手術及び周術期管理を理解させる。又臨床研修医に対しても同様な教育を実践する。 附属図書館に対して外科学の実習、レポート作成に必要と思われる図書の購入目録を作成する。M3に対して血管疾患の講義を行う。	0.05	M3に対しては、血管の講義を行った。M5,6に対して講義の形ではなく、ベッドサイドでのミニレクチャーを行った。図書館への図書申請は積極的に行ったため、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、血管外科の参考資料は充実していると思われる。
研究	0.05	臨床で経験した症例をまとめ、学会集会にて症例報告の形で2-3回/年を目標に発表する。	0.05	県医師会とフットケア研究会では症例呈示し発表した。
社会貢献	0.05	地域社会、他病院からの講演等の依頼があれば積極的に参加し、一般市民との交流より医療の啓蒙に努める. フットケア研究会に世話人として参加している。	0.05	フットケア研究会において、実技指導をおこなった。 血管外科学会での血管診療技師の実技指導を行った。 他院から血管外科の手術依頼があれば、派遣手続きし手術応援した。
管理運営	0.15	病棟の感染対策委員である。適宜この部門の会議に参加する 医療ガス点検の係でも、毎月の点検表を病棟・外来に配布する。 高気圧治療部の委員であり、年度末の会議に参加する。	0.03	患者の感染菌の情報収集し、病棟内の感染症管理に努めた。
進路指導	0.15	臨床研修医や臨床実習生から外科についての質問や相談があれば適宜応える。 外科に興味を示す学生に対して、進路相談にのり、勧誘を行う。	0.02	初期研修医が少ないため、関わりが少なかった。 個人的にM5学生から外科医への質問があり、それに答えた。
診療	0.50	外来・・・火、木、金曜日と週３日間、大学病院で外来業務を行う。 土曜日午前は他院で患者集めの意味で血管外科外来診療を行う。 手術・・・月、水曜日が予定手術日であり、予定手術を実施している。 血管造影・・・血管造影検査日は火、木曜日午後枠であり、症例があれば積極的に行う	0.80	とにかく多忙であり、消灯後に入院患者の診察を行うこともあった。 病院長に、バスキュラ-ラボの設立をお願いした。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	須加原　一博	所　属	麻酔科学	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	学生に、呼吸、循環など生命維持機能に関して、生理学、解剖学および薬理学的知識を踏まえて理解させ、全身管理に関する論理的な思考過程を学ばせる。学生講義や臨床実習において、検査結果やモニターの値の意味を説明し、その論理的背景を教える。臨床的思考能力を上げるため、臨床問題のPBL等を充実させる。臨床実習で麻酔科の重要性を認識させる。	0.25	学生講義、臨床実習を通じて学生に麻酔学の重要性および医療安全管理の上で麻酔学の考え方、思考過程の重要性を認識させることができた。医学部長として、1年次から臨床的な講義を増加させるカリキュラム作成をすすめることができた。
研究	0.25	肺および脳、脊髄病変修復過程に関する研究を進め、外部資金を獲得を目指す。本年度は7名が科学研究費を獲得した。医局員には学会発表と投稿を強く促す。課題の研究については、基礎講座と共同で進めている。英文は、現在2編目を投稿中。大学院生が8名、5名が基礎と連携して研究中。	0.25	研究では生化学教室や薬理学、生理学教室と共同で大学院生の指導を中心に進めている。アメリカ麻酔学会や国際麻酔研究会およびFASEBに研究発表および若手医師5名を参加させ刺激できた。欧文論文を3編掲載。
社会貢献	0.10	沖縄における各種研究会を開催するとともに、沖縄県、および医師会等と連携し、大学の地域医療への連携および貢献を強化している。地域枠学生に使命感をもたせるため、離島訪問や災害地訪問などに参加させている。地域枠学生のキャリアパス形成について検討を進める	0.15	沖縄県麻酔・集中治療研究会を始め、周術期管理に関する研究会を多数開催し最新情報の提供に努めた。特に北部地区の医療シンポジウムに参加し、大学としての支援体制を検討した。沖縄医療審議会の委員として沖縄県医療体制について助言した。
管理運営	0.20	医学部の教育、研究の推進を図るため、概算要求に努力する。特に、リーディング大学院のプロジェクトの獲得を目指す。大学病院の役割、使命を果たすため、がん診療連携、救急医療の充実、促進を図る。病院再開発が計画通り進むよう支援する。	0.20	医学部のミッションの再定義について検討し、文科省のヒアリングを受けた。医学部の教育、地域貢献については充分その役割を果たしているので、特色ある研究を行えるよう体制を整える必要がある。
進路指導			0.00	
診療	0.20	手術の増加に伴い、麻酔科医への負担が増加しているので、医局員の健康面に配慮した運営を行う。術後の患者管理の充実のため、Surgical Apgar Score(SAS)の有効利用について、纏め発信できるようにする。ペインクリニックと緩和ケアおよび術後疼痛対策の充実を目指す。 麻酔科マニュアルを製本化する。麻酔科専門医試験の合格者増加を図る	0.15	手術件数の増加で麻酔科医の過重労働に注意している。超過勤務が多い医員にメンタルケアを行う。ペインや緩和ケアも進めている。麻酔専門医に5名合格した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	垣花　学	所　属	麻酔科学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	医学部学生、初期研修医及び後期研修医に対し、麻酔科学講義および実習を通して、麻酔科学を教育する。さらに、レクチャーなどを用い、看護師教育およびコメディカル教育も行なう。大学院教育として大学院生の研究教育を実践する。	0.50	医学部学生に対する麻酔科学講義、ポリクリ医学生、初期研修医及び後期研修医に対して臨床実習や臨床経験を通して患者全身管理ならびに麻酔科学を教育した。看護師教育およびコメディカル教育にもレクチャー形式の講義を行った。大学院教育として大学院生にラット脊髄虚血実験、マウス脳虚血実験手技を教え、実験計画を立てた。
研究	0.20	臨床研究と基礎研究を通して、医学・医療に貢献できる結果を学会および論文として公表する。	0.20	基礎研究としてはマウスを用いた研究（基盤研究B）を行い、日本神経麻酔・集中治療研究会、米国神経麻酔学会に発表した。臨床研究としては、医員とともに臨床研究（ビデオ喉頭鏡の有用性）や新しい麻酔薬のPhaseII／IIIの治験責任者としてこれを行った。
社会貢献	0.10	地域医療貢献のひとつとして、地域中核病院において技術指導をおこなう。また、沖縄シミュレーションセンターにおいてシミュレーション教育タスクとして学生・研修医を指導する。	0.05	地域医療貢献のひとつとして、地域中核病院において技術指導をおこなった。また、沖縄シミュレーションセンターにおいてシミュレーション教育タスクとして沖縄県研修医を対象としてシミュレーション教育を行った。
管理運営	0.30	集中治療部および手術部で医療安全を遵守し、診療業務が円滑に行なわれるよう調整する。また、再開発準備室長として再開発計画を進める。	0.20	集中治療部および手術部で医療安全を遵守し、診療業務が円滑に行なわれるよう調整した。また、再開発準備室長として再開発計画を進めた。
進路指導	0.10	初期研修医のメンターとして、将来の専門分野に関する情報提供をす	0.05	初期研修医（1名）のメンターとして、将来の専門分野に関する情報提供をした。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	斎川　仁子	所　属	医学研究科麻酔科学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.10	M5, M6学生に手術室において実際の麻酔導入を見学させ、麻酔の基本を理解してもらう。年度末には試験を分担作成し、評価を行う。また、後期研修医に対する教育も行う。研修医と供に症例の麻酔を担当し、臨床麻酔の理論、手技を理解させる。抄読会、症例検討会、勉強会の指導をする。学会発表、論文作成の指導をする。	0.10	学生の臨床実習における指導、講義および試験の実施を行った。初期、後期研修医にたいしては、実際の麻酔を実施しながら手技や臨床麻酔について指導した。
研究	0.10	麻酔症例の年2回学会あるいは研究会での発表を行う。	0.10	日本麻酔科学会に参加した。
社会貢献	0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。	0.20	県内の地域病院で手術麻酔を行った。消防学校での講義を行った。
管理運営	0.30	手術麻酔、日々のスーパーバイザー業務を行う。また、月に4―5回程度集中治療部の当直業務を行う。	0.20	スーパーバイザー業務を週1回、当直業務を月6回行った。
進路指導	0.00		0.00	
	0.40	附属病院手術室に置いて、麻酔業務に専従し、手術数増加の為に貢献する。また、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。	0.40	各症例に対して麻酔方法の提言や指導を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	照屋　孝二	所　属	医学部　麻酔科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	M5, M6学生に集中治療室において実際の集中治療管理を見学させ、集中治療の基本を理解してもらう。年度末には試験を分担作成し、評価を行う。また、後期研修医に対する教育も行う。後期研修医と供に症例の集中治療を担当し、集中治療領域での理論、手技を理解させる。抄読会、症例検討会、勉強会の指導をする。学会発表、論文作成の指導をする。	0.15	M5, M6学生に集中治療室において実際の集中治療管理を見学させ、集中治療の基本を理解してもらうよう講義も行った。年度末には試験を分担作成し、評価を行なった。また、後期研修医に対する教育も行なった。後期研修医と供に症例の集中治療を担当し、集中治療領域での理論、手技を理解させるよう、実技指導、講義を行った。抄読会、症例検討会、勉強会の指導をした。学会発表、論文作成の指導を行った。
研究	0.20	麻酔・集中治療に関する臨床研究に加えて、集中治療医学に関する症例報告、臨床研究を行い、学会発表、論文作成を行う。	0.20	麻酔・集中治療に関する臨床研究に加えて、集中治療医学に関する症例報告、臨床研究を行い、学会発表を行った。
社会貢献	0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。	0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行った。
管理運営	0.15	集中治療室において重症患者の診療を行ない、看護師・他科医師とともに円滑な病棟運営に貢献する。	0.15	集中治療室において重症患者の診療を行ない、看護師・他科医師とともに円滑な病棟運営に貢献した。
進路指導	0.00		0.00	
臨床	0.40	附属病院集中治療室に置いて、業務に専従し、重症患者の治療に貢献する。また、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。	0.40	附属病院集中治療室に置いて、業務に専従し、重症患者の治療に貢献した。また、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	金谷文則	所　属	医学研究科医科学専攻整形外科学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	カリキュラム改訂に伴い系統講義の時間が短縮されたが、内容的には充実させる。臨床講義「case presentation」では学生に主体性を持たせ発表させる。ポリクリ学生に対しては小グループ指導・実習を行う。、後期研修医に対するマイクロサージャリーの教育・指導、県内・外病院における手術指導、教育的診察・回診を行う	0.25	計画通り系統講義の充実、case presentationの充実、ポリクリ学生に対するSGT,後期研修医に対する実技指導を行った。
研究	0.25	教科書「標準整形外科」、「図解整形外科」「手の外科診療ハンドブック」の改訂作業、手術手技の執筆、「先天性橈尺骨癒合症」の分類執筆、大学院生の指導	0.25	先に加えて「標準整形外科」の改訂、新規執筆を行った。
社会貢献	0.10	運動器をテーマとした公開講座を行う。「運動器の10年世界運動」の障碍者による日本縦断駅伝に支援、協力を予定している。沖縄でスポーツイベントの開催が多くなっている事から熱中症に対する市民公開講座を企画している。	0.10	「運動器の10年」の市民公開講座、「熱中症」に対する公開講座を開催し、その他国試問題委員を務めた。
管理運営	0.20	拠点病院における研修体制の確立、県内における離島および北部地区医療の充実のための人員配置と研修体制の確立	0.20	拠点病院における研修体制の確立、県内における離島および北部地区医療の充実のための人員配置と研修体制の確立を行った。
進路指導	0.05	県内・県外施設および病院の紹介	0.05	県内・県外施設および病院の紹介
診療	0.15	地域医療の充実を図る(教育的診察・回診を除く)。	0.15	地域医療の充実を達成した。(教育的診察・回診を除く)。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	普天間　朝上	所　属	整形外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	医学生に対する手の外科領域の講義、研修医および医員に対する学会発表・投稿論文執筆指導	0.15	医学生に対して講義とポリクリにて指導を行った。研修医および医局員に対して学会発表および投稿原稿の指導を行った。
研究	0.20	表面置換型人工肘関節全置換術の適応と限界　のテーマで学会発表	0.15	表面置換型人工肘関節全置換術の適応と限界、RAスワンネック変形に対する腱移行術、悪性骨腫瘍切除後の血管柄付き腓骨移植を用いた再建を発表した。
社会貢献	0.10	スポーツ大会への帯同、市民公開講座	0.10	「骨と関節の日」の公開セミナーの企画、ツールド沖縄医療班の人員配置を　行った。障がい者日本縦断駅伝の帯同ドクターとして参加した。
管理運営	0.10	診療報酬委員会、リスクマネージャー、安全ガス対策委員、など	0.10	保険診療、DPC、リスクマネージャー、安全ガス対策委員を行った。
進路指導	0.10	医学部卒業予定者に対する定期的な進路説明会の実施	0.10	共同医局説明会の参加や整形独自に説明会を開き進路説明を行った。
診療	0.25	整形外科外来および病棟（手術）業務	0.40	外来、手術、病棟業務を遂行した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	我謝　猛次	所　属	医学部整形外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	医学生、研修医に神経学的所見のとり方、脊椎疾患の基本を指導する	0.20	・・・典型的な脊髄症や神経根症などを評価できるように指導した。
研究	0.20	アテトーゼ型脳性麻痺による頚髄症、脊髄腫瘍についての臨床研究を進め、論文発表や学会発表を行う。	0.30	・・・手術症例を適切に選択し、症例を経験しながら手術手技の改善を行っている。手術成績について学会で報告を行った。
社会貢献	0.20	脊椎脊髄疾患についての認識を広める(10/8　骨の日、公開講座など)	0.10	・・学会に参加、発表することで脊椎脊髄疾患についての認識を広めた。
管理運営	0.30	外来医長として外来診療が円滑にできるようにつとめる	0.30	・・・外来診療の待ち時間が少なくなるように新患予約をできるだけ行った。
進路指導	0.10	医学生、研修医へ進路についての助言を行う	0.10	・・・初期臨床研修やその後の専門研修について助言を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	堀切健士	所　属	医学部整形外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	医学部実習生に対する手の外科領域の講義、実技指導。	0.20	実習生への講義、指導を十分行うことができた。
研究	0.10	前・後骨間神経麻痺に関する多施設共同研究への参加	0.05	当院倫理委委員会への申請も終了し、本格的に研究を開始できた。
社会貢献	0.10	スポーツ専門医を取得し各種スポーツ大会への帯同。市民公開講座への参加。	0.05	スポーツ専門医取得講習会へ2年連続参加し専門医を取得することができた。
管理運営	0.05	医療福祉支援センター運営	0.05	定期的に会議へ参加した。
進路指導	0.05	医学部卒業予定者への進路説明	0.05	年に2～3回の説明会を開催することができた。
診療	0.50	整形外科外来および病棟（手術）業務	0.60	1年を通じて特にトラブルなく診療へ従事することができた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	斎藤誠一	所　属	泌尿器科学	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学生に対する泌尿器科学の基本教育、医局員に対する実践的な教育	0.30	学生には出来るだけ基本的な分かりやすい講義になるよう努力した。医局員に対しては、カンファレンスで教育し、ウィークポイントの修正（例：筋層非浸潤性膀胱癌の評価など）に努めた。また、手術では腹腔鏡手術の指導を中心に行った。2012/6/2の日本泌尿器科学会沖縄地方会において、筋層浸潤性膀胱癌の教育講演を行った。
研究	0.30	大学院生の研究指導、論文指導および研究成果の英文雑誌への投稿	0.10	担当した大学院生が実質１年近く休学したため、あまり指導を行うことができなかった。
社会貢献	0.10	市民公開講座における排尿や前立腺癌に関する啓発活動	0.20	2012/4/8に那覇市内で「おしっこの悩みありませんか？」というタイトルで排尿に関する市民公開講座を開催し、182名の参加があり、大好評を得た。2013/2/3に名護市内で「急増する前立腺がん」というタイトルで前立腺がんに関する市民公開講座を開催し、140名の参加が有り大好評を得た。市民公開講座ではアンケート調査も行い、結果は泌尿器科ホームページに掲載した。
管理運営	0.30	より良い教育システム、医療安全、病院運営のために積極的な提言を行う	0.30	学生の臨床実習における教育、医療安全に関して会議で積極的に発言し、改善に努めた。
進路指導	0.00		0.10	若手医師に臨床医学においても研究が重要であることを説き、２名が社会人大学院生の試験に合格した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	砂川　元	所　属	大学院医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	歯・顎・口腔領域の科目を担当し、歯科口腔外科疾患の診断ならびに顎顔面の審美性や口腔機能を考慮した治療法の重要性を講義し、将来、医師として臨床活動する際のスクリーナーとしての役割を果たせる医師養成のための教育を行う。	0.20	M2学生に対する発生学、M3～M4学生に対する歯・顎・口腔外科学、M4学生に対する東洋医学、救急医学を、資料とパワーポイントを用いた講義とM5～M6学生に対してのポリクリをゼミ形式や外来、病棟、手術場などで実習を通して、左記の目標を達成すべく、医師養成のための教育を行った。地域枠学生1年次7名をラオス国での医療援助活動に参加させ、恵まれない地域での医療実践の方法やラオス健康科学大学学生との交流を図った。
研究	0.20	口腔癌における臨床病理学的悪性度に基づいた治療法を検討して、治療成績の向上を図るとともに口腔癌の発癌におけるHPVや他の因子の関与に関する研究や口唇口蓋裂患者手術後の顎発育と言語機能に関する研究指導を通して、学会等での発表や学術雑誌への投稿等の指導・助言を行う。	0.20	日本口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔科学会、日本頭頸部癌学会、日本癌治療学会、日本口蓋裂学会等の国内学会や中国、韓国、セイシェル等で開催された国際学会において口腔癌や口唇口蓋裂などに関する発表や論文作成等を行い、3名が大学院博士課程、1名が修士課程を修了し、学位を取得した。
社会貢献	0.20	沖縄県内の無歯科医村である伊平屋村、北大東村への歯科医師派遣を通した歯科医療の提供と住民への口腔保健の重要性を啓発する。沖縄県歯科医師会立衛生士学校、沖縄リハビリテーション福祉学院等において口腔疾患や口腔保健に関する講義を担当し、学生の知識の向上を図る。沖縄県8020運動協議会副会長として助言し、県民の歯科保健に関する啓発を図る。ラオス国の口唇口蓋裂患者に対する無料手術等の海外医療援助活動を実施。中国とラオス国からの医学研究科学生を受け入れ、研究指導を行う。	0.20	臨床研修を終えた歯科医師を無歯科医村(伊平屋村、北大東村)や県内総合病院歯科口腔外科へ派遣して地域医療の実践と研修を継続している。沖縄県歯科医師会立衛生士学校、沖縄看護学校等で歯科口腔外科の講義を通して年度目標に記載したことを実施。また、医療従事者(医師、歯科医師、看護師、介護士、栄養士、言語聴覚士、歯科衛生士等)に対しての「口腔ケアに関する勉強会を開催し、歯科保健への啓発を行った。2012年には、ラオス国において「口唇口蓋裂患者に対する医療援助活動」、JICA草の根技術協力プロジェクトを実施した。また、中国から2名の大学院(博士、修士各1名)、ラオス国から博士課程の留学生を受入、今年度で終了し、学位を取得させた。
管理運営	0.20	顎顔面口腔機能再建学講座における教育、研究活動の円滑化を図る。附属病院歯科口腔外科長として一般歯科開業医や総合病院歯科口腔外科において診断や治療困難な症例への十分な対応が出来るような外来、病棟の運営を図る。	0.20	顎顔面口腔機能再建学講座教授として、それぞれの教員やスタッフに対して教育や研究活動の十分な機会を与え、講義やポリクリの充実、学会発表や論文投稿等を指導した。附属病院では、歯科口腔外科診療科長として外来、病棟での回診と症例検討やカンファレンスを通して診断と治療に対する研修。外来や手術場での手術を通した診療技術の指導を実施した。
臨床活動	0.20	一般歯科開業医や総合病院歯科口腔外科において診断困難な症例	0.20	教員、医員、医員(研修医)や大学院生に対して、十分な臨床経験(担当患者を通した回診、症例検討、手術等の実体験)や研究を通して口腔外科臨床医としての養成を図ってきた。今年度も多くの教室員がラオス国での医療援助活動に参加し、日本のみならず開発途上国での医療を経験させることが出来た。また、臨床医として、診断・治療に加え、医療人としての倫理観や心構え等の教育も行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	新崎　章	所　属	医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	①最新の情報やデータを取り入れた学部講義を行う。②ポリクリ学生へクリニカルクラークシップを重視したチェアーサイドでの臨床実習を実践する。③医学部学生に口腔ケアの重要性を理解させる。④歯科医師臨床研修指導医として歯科医師臨床研修医に臨床研修指導とメンタルヘルスケアを行う。	0.20	①最新の情報やデータを取り入れた学部講義を行った②ポリクリ学生へクリニカルクラークシップを重視したチェアーサイドでの臨床実習を実践した。③医学部学生に口腔ケアの重要性を理解させた。④歯科医師臨床研修指導医として歯科医師臨床研修医に臨床研修指導とメンタルヘルスケアを行った。
研究	0.25	1）学会発表：第53回韓国口腔顎顔面外科学会、第66回日本口腔科学会、第9回日本口腔ケア学会で発表する。2）論文投稿：①「医学部附属病院における口腔ケアの現状と展望」、②「沖縄県における口腔ケア普及への取り組み」を投稿する。	0.30	1）学会発表：第53回韓国口腔顎顔面外科学会、第66回日本口腔科学会、第9回日本口腔ケア学会で発表した。2）論文投稿：①「医学部附属病院における口腔ケアの現状と展望」、②「沖縄県における口腔ケア普及への取り組み」を投稿した。
社会貢献	0.15	①市民公開講座や研究会を通して口腔ケアの普及を図り、本県をオーラルケアアイランドと呼べるように努める②沖縄ラオス友好協会や沖縄ラオス名誉総領事の活動をバックアップする。③ラオスでの医療援助活動や口腔保健活動を積極的に行う。④浦添看護学校、沖縄歯科衛生士学校で講義を担当し、医療従事者の人材育成に協力する。	0.15	①市民公開講座や研究会を通して口腔ケアの普及を図り、本県をオーラルケアアイランドと呼べるように努めた②沖縄ラオス友好協会や沖縄ラオス名誉総領事の活動をバックアップした。③ラオスでの医療援助活動や口腔保健活動を積極的に行った。④浦添看護学校、沖縄歯科衛生士学校で講義を担当し、医療従事者の人材育成に協力した。
管理運営	0.04	①医学部交通対策委員として駐車スペースの効率的な運用に協力する。②リハビリテーション部運営協議会委員、手術部運営協議会委員、集中治療部運営協議会委員として病院運営に積極的に協力する。	0.04	①医学部交通対策委員として駐車スペースの効率的な運用に協力した。②リハビリテーション部運営協議会委員、手術部運営協議会委員、集中治療部運営協議会委員として病院運営に積極的に協力した。
進路指導	0.06	①担当指導学生（M1）と定期にコミュニケーションをとり、学習意欲の向上を図ると同時に、進路に対するアドバイスやメンタルヘルスケアを行う。②外国人留学生の奨学金獲得に協力し、留学生活環境を支援する。	0.06	①担当指導学生（M1）と定期にコミュニケーションをとり、学習意欲の向上を図ると同時に、進路に対するアドバイスやメンタルヘルスケアを行った。②外国人留学生の奨学金獲得に協力し、留学生活環境を支援した。
診療	0.25	①入院患者の症例検討を充実し、EBMに基づいた質の高い治療を提供する。②悪性腫瘍患者のfollow up体制を充実させ、再発・転移の早期発見に繋がる診療体制をつくる。③口腔ケアセンターを活性化し口腔ケアの浸透を図る。④障害者歯科センターを充実し、地域医療連携を確立する。	0.25	①入院患者の症例検討を充実し、EBMに基づいた質の高い治療を提供した。②悪性腫瘍患者のfollow up体制を充実させ、再発・転移の早期発見に繋がる診療体制作りに努めた。③口腔ケアセンターを活性化し口腔ケアの浸透を図った。④障害者歯科センターを充実し、地域医療連携を推進した。
計	1.00		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	喜名　振一郎	所　属	顎顔面口腔機能再建学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.45	ラオスから留学している大学院生の日本語指導、および実験指導をしっかり行い、研究成果を出させる	0.45	ラオスから留学している大学院生の日本語指導、および実験指導をしっかり行い、研究成果を出させた。
研究	0.45	今年5月までに、現在の研究成果をまとめ、海外誌への投稿を行う。	0.45	11月までに、研究成果をまとめ、海外誌へ受理された。
社会貢献	0.05	当科が取り組んでいる市民公開講座に全て参加し、県民に広く知見を還元できるようにする。	0.05	当科が取り組んでいる市民公開講座に全て参加し、県民に広く知見を還元できた。
管理運営	0.05	センター試験などの試験監督をしっかりこなし、さらに学部内委員会等に参加する。	0.05	センター試験などの試験監督をしっかりこなし、さらに学部内委員会等に参加した。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	梁　飛新	所　属	琉球大学大学院医学研究科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	修士大学院生の研究をサポートすること	0.30	修士大学院生WAN YANGCHUNの卒業論文をcorresponding author としてサポートしてJournal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathologyに掲載されました。
研究	0.50	臨床データを整理する、まとめること	0.40	口腔癌初診病態写真集を作っている。
社会貢献	0.05	国際学会を参加すること、国際学術交流を協力すること	0.05	平成24年5月第12回口唇・口蓋裂国際学会をSeychellesに参加した。琉球大学歯科口腔外科ラオスへの口唇・口蓋裂手術援助活動を主役として参加した。
管理運営	0.10	臨床治療、管理についてアドバイスすること	0.05	毎週火曜日朝に教授臨床回診を参加している、臨床治療、管理についてアドバイスをしている。
進路指導	0.05	研修医と交流する、アドバイスすること	0.05	一年目、二年目の研修医と毎週水曜日朝、外関連病院で口腔ケアの症例を検討している。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.85	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	久木田一朗	所　属	医学部・医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	救急医療系講義、倫理討論、医療学総論で急性期医療・医療倫理について教育する。臨床実習をシミュレーション教育とER（北米救急外来）方式の現場実習とを合わせ効果的に行う。ケンブリッジ大医学生の臨床実習を受け入れる。救急医療を実践している学外医師を非常勤講師として呼び、臨床実習の充実に努める。初期臨床研修医への救急診療教育、多職種への医療安全教育を行う。ERへ出向する各科医師への救急医療教育と専門知識の相互交流の場を作る。	0.30	救急医療系講義、倫理討論、医療学総論で急性期医療・医療倫理について教育した。臨床実習をシミュレーション教育とER（北米救急外来）方式の現場実習とを合わせ効果的に行った。ケンブリッジ大医学生の臨床実習を受け入れた。救急医療を実践している学外医師を非常勤講師として呼び、臨床実習の充実に努めた。初期臨床研修医への救急診療教育、多職種への医療安全教育を行っており、現在も継続中。ERへ出向する各科医師への救急医療教育と専門知識の相互交流の場を作った。
研究	0.20	重症患者の呼吸管理に関する基礎および臨床的研究を進め、関連する全国学会を開催する。災害医療に関し、日本における災害の研究および米国災害医療システムの研究を進める。外傷外科に関する研究を進める。高気圧治療部との共同研究で、救急領域での高気圧酸素療法の研究を進める。	0.30	重症患者の呼吸管理に関する基礎および臨床的研究を進め、関連する全国学会を沖縄で開催し、原著論文掲載指導した。災害医療に関し、日本における災害の研究および米国災害医療システムの研究を進め国際学会での報告を指導した。外傷外科に関する研究（2011論文）をさらに追加研究中。高気圧治療部との共同研究で、救急領域での高気圧酸素療法の研究を進め、英文誌掲載を指導した。
社会貢献	0.10	アメリカ心臓協会（AHA）による心肺蘇生講習のトレーニングサイト（TS）を運営し、「NPO法人沖縄救急災害医療機構」を通じて多くの県内医療従事者、一般市民に研修の機会を与える。病院前の救急医療体制の構築（県MC協議会、南部地区MC協議会）を消防機関と共に担う。県防災訓練における医療班の指導、その他関連する研究会を主催する。海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急業務に参加するなど航空医療搬送システム構築へ貢献する。	0.10	アメリカ心臓協会（AHA）による心肺蘇生講習のトレーニングサイト（TS）を運営し、「NPO法人沖縄救急災害医療機構」を通じて多くの県内医療従事者、一般市民に研修の機会を与えた。病院前の救急医療体制の構築（県MC協議会、南部地区MC協議会）を消防機関と共に担った。県防災訓練における医療班の指導、その他関連する研究会を主催した。海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急業務に参加するなど航空医療搬送システム構築へ貢献した。
管理運営	0.09	安全管理対策室長、医療機器安全管理責任者として病院長を補佐し、附属病院における医療安全上のマネジメント、安全対策を向上させる。病院再整備委員会、救急部運営協議会、救急診療委員会、病院運営委員会、手術部運営委員会、集中治療部運営委員会等に参加し、病院の救急診療体制構築を推進する。	0.09	安全管理対策室長、医療機器安全管理責任者として病院長を補佐し、附属病院における医療安全上のマネジメント、安全対策向上に努めた。病院再整備委員会、救急部運営協議会、救急診療委員会、病院運営委員会、手術部運営委員会、集中治療部運営委員会等に参加し、病院の救急診療体制構築の推進に努めた。
進路指導	0.01	医学部医学科5年次学生の指導教官として学生の指導に努める。臨床実習の機会等に救急医学分野の魅力について説明し、将来この分野を専門とする医師や専門としなくとも救急医療に関われる医師の育成に努める。地域枠の学生、救急部にローテーションする初期臨床研修医への指導につとめる。講座に属する大学院生（博士課程、修士課程）の進路および進学指導を行う。	0.01	医学部医学科5年次学生の指導教官として学生の指導に努めた。臨床実習の機会等に救急医学分野の魅力について説明し、将来この分野を専門とする医師や専門としなくとも救急医療に関われる医師の育成に努めた。地域枠の学生、救急部にローテーションする初期臨床研修医への指導につとめた。講座に属する大学院生（博士課程、修士課程）の進路および進学指導を行い、修士、博士課程1名づつ今年度修了になる予定。
診療	0.30	琉大医学部附属病院の救急部部長として救急部の出向医の確保、診療体制の維持に努め、救急患者受け入れの充実、救急医療体制の向上に努める。病院再整備における高度救命救急センター構想の実現に向けた診療体制整備に努める。	0.20	琉大医学部附属病院の救急部部長として救急部の出向医の確保、診療体制の維持に努め、救急患者受け入れの充実、救急医療体制の向上に努めた。病院再整備における高度救命救急センター構想の実現に向けた診療体制整備に努めた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

名　前	近藤豊	所　属	（学部・研究科等） 琉球大学大学院医学研究科救急医学講座	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）		業務ウェイト比（実	年度末自己点検結果
教育	0.10	研修医が自分で患者の救急診療ができるようになるように指導をおこなう。	0.1	・・・一緒に診察、カルテ記載の指導が出来た。
研究	0.50	急性肺障害時の繊維化に関係するサイトカインについての研究を継続する。また我が国独自の外傷予後予測指標を開発する。またこれらの内容について学会発表、論文、研究費の獲得も目指す。	0.5	・・・外傷予後予測式が出来て、論文発表した。また急性肺障害におけるEMTの誘導についても論文として発表した。
社会貢献	0.20	洋上救急、災害支援をおこない社会貢献する。また同時にBLS,ACLSなどの心肺蘇生法の社会普及に努める。	0.2	・・・洋上救急での功績が認められ、海上保安庁より長官表彰を頂いたりと、社旗貢献が十分に出来たように思う。
管理運営	0.10	研修医が年間を通じて、救急診療、外来業務に従事てきるような研修システムを構築する。	0.1	・・・研修システムの構築が十分できた。
進路指導	0.10	学生の研修病院の選び方、研修医の将来の専攻科等の相談、指	0.1	・・・学生の初期研修の研修先への進路相談をおこなった。
				・・・
計	1.00	備　考	1	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	植田真一郎	所　属	大学院医学研究科　臨床薬理学および医学部附属病院臨床研究支援センター	職　名	教授およびセンター長

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.22	1. 臨床薬理学の講義、実習を通して医学生に適切な薬物治療のあり方について理解してもらう（医学部学生） 2. 倫理総合討論を通して医療の倫理について学んでもらう（医学生） 3. がん患者さんとのnarrativeなやりとりを介して患者さんの視点での臨床研究を知る。 4.沖縄県基幹病院の医師への臨床研究トレーニングを大学院で行う。（大学院） 5.沖縄県の医療機関や他の地域の医師、医療従事者への臨床研究トレーニングを春、夏のワークショップおよびフォローアップワークショップにより構成される沖縄臨床研究フェローシップを通して行う。（医師、卒後） 6. CRCやデータマネジャーなど臨床研究に係る多職種教育を積極的に行い、医療機関全体のリサーチリテラシーをあげる	0.20	1. 臨床薬理学の講義、実習を通して医学生に適切な薬物治療のあり方について一部理解してもらった（医学部学生） 2. 倫理総合討論を通して医療の倫理について学んでもらった（医学部学生） 3. 卵巣癌の患者さんの団体が主催するがん臨床試験の会に学生と共に参加、倫理総合討論にフィードバックさせた。 4.那覇市立病院、沖縄中部病院の医師、院内の医師，助産師に対して大学院で研究指導を行った。 5. 春のプライマリケア臨床研究ワークショップ，夏のスキルを学ぶ臨床研究ワークショップ、継続のためのフォローアップワークショップを通して臨床研究のトレーニングをのべ50名に行った。 6.CRCやデータマネジャーへの教育を行った。
研究	0.35	1. 厚生労働省科研費を取得してハイリスク糖尿病のコホート研究による治療法効果比較研究を開始する。 2. 糖尿病合併冠動脈疾患患者を対象としたランダム化比較試験をすすめる。 3. 利尿薬の糖尿病リスクに関するランダム化比較試験を終え、解析を行い，論文を投稿する。 4.文部科学省科研費による遊離脂肪酸に関する探索的研究の論文3つを投稿する 5.文部科学省科研費による高血圧患者における探索的臨床薬理試験を実施 6.全面的に研究支援を行った沖縄県透析患者における降圧薬のランダム化比較試験を終え，データマネジメントを実施、論文を作成	0.35	1. 厚生労働省科研費が新規に採択され，研究進捗中である。現在約4000名の患者を登録している。（主任研究者） 2. 現在、26施設で進行中でおよそ２００名の患者が登録されている。（研究統括者） 3. 延べ８年をかけたおよそ1200名の患者を登録したランダム化比較試験が終了し、観察期間中央値4.4年、追跡率93%であった。主解析が終了し、現在論文作成中で今年度中の投稿を予定している。（主任研究者） 4. 追加実験を行い、2つの論文が受理され，一つは投稿中である。 5.現在進行中　来年度はじめに終了予定 6. 論文が投稿され受理された（NephrolDial Transplant）
社会貢献	0.10	1. 第３３回日本臨床薬理学会を主催する. 2. 所属学会のガイドライン作成委員をつとめる。 3. 所属学会の役員をつとめ学会活動を通して、国民への正しい薬物療法について貢献する。 4. 新薬の承認審査に貢献する。	0.10	1. 第33回日本臨床薬理学会を主催した。全国から約2000名の参加者が有り，「医療としての臨床薬理学　集団から個の治療へ」に関して活発な討議が行われた。会長講演で今後の臨床薬理学研究の方向性について提言を行った 2. 日本高血圧学会のガイドライン委員に就任した。 3. 日本臨床薬理学会の理事および学術委員長、国際交流委員、財務委員に就任した。 4. 医薬品医療機器綜合機構の外部委員をつとめ新薬の審査を行った。
管理運営	0.18	1. 臨床研究支援センター長として研究支援の体制を整え院内の臨床研究の信頼性を高め、被験者保護を図る 2. 専門研修センター臨床研究部門長として初期研修終了後の医師の臨床研究トレーニングを行う。 3. 倫理審査委員として院内の臨床研究の科学的妥当性や被験者の保護体制の審査を厳密に行う。 4. 治験審査委員長として治験の適切な審査、実施を図る 5.本学および医学部の利益相反委員として研究のCOIを判断する。	0.20	1.臨床研究支援センター長としてCRCやDMの配置、研究支援、支援申請の規定の制定などに携わった。 2. 専門研修センター臨床研究部門長として春夏のワークショップやフォローアップワークショップの運営、j受講生の研究指導に携わった。 3.倫理審査委員として院内の臨床研究の厳正な審査に携わった。 4.治験審査委員長として院内の治験の適正実施に尽力した。 5.医学部および本学の利益相反委員として医学部臨床研究に関するCOIについて審査した。全学での委員会での討議をおこなった。
進路指導	0.05	担当の医学生の進路や勉強方法などを指導する。	0.05	担当の学生の相談にのった。
臨床研究支援	0.10	院内の臨床研究の研究計画をすべてレビューし、倫理性や科学性、研究体制などについて助言し，適切な臨床研究が実施できるような研究計画作成支援を行う	0.10	80以上の院内の臨床研究計画申請に全て目を通し、必要な部分を訂正するようにプロトコルレビューを実施、科学的意義が高く、方法論的に妥当で安全な臨床研究となるように研究計画作成支援を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	松下明子	所　属	医学研究科 臨床薬理学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	臨床薬理学講義を分担し、臨床研究、基礎研究のデータから薬物の作用機序の理解と、適切な選択ができるような思考を身につけてもらう。 前年度より始めた合同リサーチカンファランスを継続し、若手研究者、大学院生の研究向上を図る。	0.30	臨床薬理学講義では、循環器領域を中心に、疫学研究からわかること、その発症機序を調べるためには基礎研究が大事であること、バイオマーカーの意義と信頼性等を理解してもらった。 また、がん治療薬に関して、古典的なものから最近の分子標的型にいたるまでを取り上げて、作用機序、副作用、開発の歴史等を織り交ぜて講義した。 循環器領域のエッセンシャルドラッグについて、作用機序、副作用、禁忌を説明し、様々な臨床試験を紹介し、EBMの身につけ方を知ってもらい、いくつかの症例をあげて演習をおこなった。 合同リサーチカンファは、若手研究者や大学院生の研究向上のためにはじめたものだが、あまり意味がないように見受けられたため、今年度は積極的に企画しなかった。
研究	0.70	国内外での学会発表および研究論文投稿を行う。 沖縄で開催される第33回日本臨床薬理学会開催事務局長的な業務を行い、学会を成功させる。	0.70	得られた最新の研究結果を、日本臨床分子医学会、日本高血圧学会、国際 高血圧学会やいくつかの研究会で発表した。 投稿論文は現在2論文がreviseを審査中となっている。 第33回日本臨床薬理学会では事務局長として、寄付金集め、演題のスコア付け、振り分け、座長割り振り、日本語・英語での懇親会司会や接待等や、その他細かいことは請負会社と連携して行い、無事成功に終えることができた。 琉球大学若手研究者支援研究費、財団法人地域医学研究基金から研究助成金を受けた。
社会貢献	0.05	機会があれば行う	0.00	とくに社会貢献する活動の機会はなかった。
管理運営	0.05	入試関連業務の依頼が来た場合は、真剣に取り組む。	0.00	以前より医学部内の建物間の渡り廊下の窓に、野鳥が衝突して落ちて死んでいるのを拾って埋葬することを頻繁に行ってきたが、1年以上前（23年度？）に管理課に衝突防止対策を提案していたところ、昨年の夏に応急処置的な対策をしていただいた。幾分衝突死は減ったように感じるが、まだ起きるので、改善していきたいと思う。 また、まだ死んでいない野鳥を保護して介抱後元気になってから外へ放すことも3回ほど行った。 大学入試センター試験監督の要請をうけたので、説明会に参加して準備していたが、必要なくなったということで監督業務は行わなかった。
進路指導	0.00	必要があれば行う	0.00	進路指導の場面はなかった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	根津　潤	所　属	大学院医学研究科　臨床薬理学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00	1.医学部4年次の系統講義を担当する。 2.医学部5年次及び6年次の薬剤部・臨床薬理学臨床実習の講義担当する。 3.当科大学院生の研究および論文執筆の指導をする。 4.学術的活動を広げ、医学教育に携わる。	0.20	A 1．4年次の系統講義で「薬理遺伝学について」、「糖尿病薬の臨床薬理学」、「循環器領域の臨床薬理学」について3コマを担当。 2．臨床実習の初日に臨床研究のメソッドについて総論講義の後、具体的事例を用いて論文のPECOの整理を行い、最後にグループ課題を課した。 3．臨床研究ワークショップや個別指導を通じて大学院生の指導に当たった。 4．OSCEの外部評価者認定講習会を受講しライセンス取得。学内OSCEで医療面接担当。M1シミュレーション教育でヒトコマ授業を担当。
研究	0.00	1.糖尿病性腎症患者における蛋白制限食の腎機能予後に関するRCTのメタ解析を進める。 2.糖尿病患者におけるCDKAL1遺伝子多型の臨床特性と糖尿病薬に対する臨床効果との関連を調査する。	0.60	A 1．現在、「糖尿病性腎症患者における蛋白制限食の腎機能予後に関するRCTのメタ解析」を論文投稿中。 2．沖縄県内で800与名のゲノムコホートを構築し、現在クリニカルデータ、およびゲノムタイピング作業を進めている。研究費に関しては競争的資金を新たに獲得(臨床薬理振興財団、200万円)
社会貢献	0.00	1．研究結果を学術セミナー、学会発表、論文発表などで公表し医学研究活動の推進に貢献する。	0.10	A　上記研究成果を日本糖尿病学会、アメリカ糖尿病学会に発表予定である。欧州糖尿病学会にも発表申請予定。
管理運営	0.00	1. 臨床薬理学講座の運営に必要な庶務を担当する。 2. 2012年度臨床薬理学会年次学術総会の事務局として設立、運営に貢献する。	0.10	A 1．当講座で運営する臨床研究ワークショップの当日設営、および学術ファシリテーターを担当。 2．事前準備並びに当日は運営本部を担当。1900名以上の参加者を記録。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	苅谷　研一	所　属	医学研究科・医化学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	大学院教育（講義、演習、実習）、学部教育（系統講義、実習、基礎研究）、および共通教育（医学概論）を担当する。	0.35	臨床系大学院生は希望の婦人科腫瘍に関するエピジェネティクス的新研究、留学生には教室独自のRap2-MAP4K関係の研究を指導した。学部学生教育のFDに参加し、講義では国試問題の引用を開始した。医学概論は初回を担当。
研究	0.35	大学院博士課程の学生や他の教員とともに研究の進展、情報交換（学会や他大学・研究機関との共同研究等）、論文の採択や外部資金の獲得を目指す。	0.35	継続中の科研費（基盤C）により教室独自のRap2 ノックアウトマウスの解析を沖縄科学技術大学院大学や他講座と共同で進めた。
社会貢献	0.10	研究で得たシーズを企業との共同研究により社会に還元できるよう努力する。また、外部機関の審査員等の業務を必要に応じ遂行する。	0.10	上記エピジェネティクス研究を民間企業責任者との交流で実用化検討共同研究とし、婦人科臨床研究に着手した。また、国際専門誌の査読を担当した。
管理運営	0.10	学内、学部内の会議、委員会の構成員、図書館分館長等の職務を遂行する。	0.10	学内、学部内の各種会議・委員会の構成員の職務を遂行し、図書館分館長として学生用図書購入や蔵書廃棄前の周知方法などのシステムの改善につとめた。
進路指導	0.10	大学院博士課程の卒後の進路について話し合い、把握する努力をする。	0.10	卒後留学大学院生のグラント応募の支援、学部学生においては指導教員として班会や個別の指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	海川　正人	所　属	医学研究科・医化学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	大学院教育（講義、副指導教員）および学部教育（系統講義、実習、基礎研究、教務連絡主任）、学部学生指導教員としての生活指導等に従事する。	0.30	講座大学院生の実験の中心的指導と他講座大学院生の副指導教員業務を遂行した。また、学部学生への講義、実習指導とともに、講座の教務連絡主任としての業務を行った。
研究	0.40	大学院生や他の教員とともに研究の進展、情報交換（学会や他大学・研究機関との共同研究等）、論文の採択や外部資金の獲得を目指す。	0.40	留学中の研究が一流国際誌に採択され、それをもとに応募した課題と教室独自課題の両方で外部資金を獲得した。さらに科研費（基盤C）の新規応募を行った。
社会貢献	0.10	企業や民間研究所との共同研究等に参画し、医療の発展に寄与できるよう勤める。	0.10	腫瘍のエピジェネティクス的治療法に関する民間企業との共同研究に必要な実験を中心となって指導するとともに、企業側実験者との情報交換を行った。
管理運営	0.10	講座内の業務分担、機器運用の効率化、省エネルギー化等について総合的に先導的役割を担う。	0.10	講座内機器や共通機器、さらには他講座の機器について運用指導あるいは借用交渉にあたった。また大学入試関連の試験監督も遂行した。
進路指導	0.10	大学院博士課程の卒後の進路について共に考え、学生の希望が実現するよう努力する。	0.10	大学院生、特に留学生の相談にのり、また学部学生の指導教員として班会等での生活指導等を遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	安里　剛	所　属	医学研究科・医化学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	大学院教育（講座内院生指導）、学部教育（生化学講義、実習指導、試験、レポート評価等）を分担する。	0.35	講座大学院生の実験指導に一部関わる一方、学部教育では講義のみならず特に実習での実験指導と評価において中心的な役割を果した。
研究	0.40	大学院生、講座内外の教員等と共に研究を進め、他大学外との情報交換をも通して研究内容の向上を図り、論文等での研究成果の発表につとめる。	0.40	講座独自の複数の新規ノックアウトマウスについて、最新行動解析手法の導入や沖縄科学技術大学院大学客員研究員として共同研究するなど、講座の研究路線転換に伴う過渡期的準備研究を遂行した。新規科研費（基盤B）の申請を行った。
社会貢献	0.10	企業・学外施設との交流を通じて地域の需要を探り、基礎研究で得られた知識、技術を社会に還元できるように努める。	0.10	上記の路線転換の前まで子宮頸癌についての臨床−基礎共同研究で科研費を獲得していた関係から、上記科研費申請は企業との子宮頸癌エピジェネティクス共同研究についての内容である。
管理運営	0.10	講座内実験環境の適切な整備、維持をはかる。また、節電・節水等に注意喚起する。	0.10	実験室の環境・機器の適切な整備、維持と環境負荷軽減にも務めた。
進路指導	0.05	大学院生の卒後進路について希望や適性を把握するよう務める。	0.05	博士課程の大学院生と対話して適正等を把握する努力をした。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	野中　公子	所　属	医学研究科・医化学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	医学研究科では講座の大学院生実験指導、医学科では生化学実習等の学部生教育を他の教員とともに行う。	0.30	大学院生の実験指導に必要に応じて携わるとともに、学部学生の生化学実習の指導を主に行った。
研究	0.50	大学院生や教員と協力して研究を推進し、学会、研究会等で情報交換するとともに、論文による成果公表と外部資金の獲得に努力する。	0.50	科研費(基盤C継続)により皮膚悪性腫瘍関連研究を継続するとともに、教室の次のテーマである新規ノックアウトマウスの維持や実験に本学や他施設において従事した（沖縄科学技術大学院大学客員研究員）。
社会貢献	0.05	将来的に診療の向上に資するような知見を目標に研究する。	0.05	研究を通して本学や地域の患者の診療の向上を目指し、非常勤医師として地域医療へも参加している。
管理運営	0.05	試薬・機器の適切な維持管理により効率的な研究活動と環境負荷の削減に配慮する。	0.05	試薬・機器のほか、極めて多数のマウスの教室としての管理事務作業、対外連絡実務を担当し、経費節減につとめた。入試関係の分担業務を担当した。
進路指導	0.10	学部学生や大学院生の卒後について、女性研究者／医師としての経験に基づいた適切なアドバイスを必要に応じて行う。	0.10	大学院生、特に女性臨床系院生学生と会話し、家庭生活との両立や進路について経験にもとづいて助言した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	山本秀幸	所　属	大学院医学研究科・生化学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	医学部医学科1年次学生の医学概論A、2年次学生の医学英語および、生化学の講義を担当する。今回、学生の興味を知る目的で、講義内容等について、頻回にアンケートを実施する。大学院医学研究科修士課程の基礎医学概論と生化学特論を担当する。また博士課程の環境長寿解析学概論、情報生物学特論と生化学演習、生化学実習を担当する。	0.35	医学部医学科1年次学生の医学概論Aの世話人を担当した。2年次学生の医学英語および、生化学の講義を担当した。講義内容等について、2回のアンケートを実施した。今年は、病気との関連についての講義を充実させた。大学院医学研究科修士課程の基礎医学概論と生化学特論を担当した。また博士課程の環境長寿解析学概論、情報生物学特論と生化学演習、生化学実習を担当した。
研究	0.35	生化学会、神経化学会に出席し研究成果を発表する。会場での討論により研究者間での情報交換と研究内容の改善を目指す。生化学系、生理学系、薬理学系の雑誌でインパクトファクターの高い雑誌への論文の採択を目指す。大学院博士課程の学生および教室員の研究教育を指導し、論文の採択を目指す。今回、生化学的および分子生物学的実験技術を指導する。科学研究費補助金等による外部資金獲得を目指す。	0.35	5月の生化学会九州支部会、9月の神経化学会、10月の肺サーファクタント界面医学会、11月の薬理学会西南部会、12月の生化学会大会に出席し、研究成果を発表した。生化学系、薬理学系の英文雑誌に計8編の論文が採択された。大学院博士課程の学生を指導し、二人が学位を授与された。科学研究費補助金として、基盤研究(c)が採択された。
社会貢献	0.10	免疫化学、薬理学に関連する企業との共同研究を計画し、研究成果の社会への還元を目指す。	0.10	薬理学研究に関連する企業との共同研究を行い、研究成果を学会で発表した。また5編の論文が英文雑誌に採択された。
管理運営	0.15	琉球大学遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会の委員として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用実験の指導と管理を行う。琉球大学大学院委員会の委員として、大学院学則等の大学院に関する重要事項について審議する。医学研究科厚生委員会、予算委員会、学位論文資格審査会の委員としてそれぞれの審議を行う。	0.15	遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会の委員長として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用実験の指導と管理を行った。大学院委員会委員、学生生活委員会委員、学生支援指導専門委員会委員、医学科および医学研究科厚生委員会委員長、学位論文資格審査会委員、附属実験実習機器センター運営委員会委員、医学部及び附属病院交通対策委員会委員としてそれぞれの審議を行った。
進路指導	0.05	医学部医学科1年次学生の指導教員として将来の進路について話し	0.05	医学部医学科1年次学生の指導教員として将来の進路について話し合った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	徳　誠吉	所　属	医学部・医学研究科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	医学部医学科2年次学生の専門教育科目である生化学の講義・実習を担当する。予備知識が足りなくても理解できるよう、なるべく分かりやすい講義を目指す。2年次医学英語(5名)を担当する。英文法を駆使した正しい構文の理解による読解力のスキルアップを図る。大学院医学研究科修士課程の生化学特論を担当する。また博士課程の情報生物学特論と分子生化学演習、生化学実習を担当する。	0.40	医学科２年次学生の専門教育科目である生化学を担当した。学生の実習レポートに他人のものを拝借するなど、手抜きが多く見受けられ、問題だと感じている。医学英語は休む人もなく、良くついてきてくれました。英語力だけでなく、生化学の理解にも貢献していると思う。基礎研究は2名引き受けましたが、とても真面目に取り組んでくれました。大学院医学研究科修士課程の生化学特論および博士課程の情報生物学特論と分子生化学演習、生化学実習を担当した。
研究	0.52	染色体の凝縮過程におけるヒストンH3およびそのバリアントのリン酸化の役割を明らかにする。学会に出席し研究成果を発表する。ワークショップや口頭発表を目指したい。会場での討論により研究者間での情報交換と研究内容の改善を目指す。また、大学院博士課程学生の研究教育を指導し、論文の採択を目指す。科学研究補助金および財団等による外部資金獲得を目指す。大学院生の新規獲得を目指す。	0.51	染色体凝縮過程のヒストンH3のヒストンフォールドでのリン酸化がオーロラキナーゼCによって阻害的に調節されていること、またH3のN末でのリン酸化と比べ、意外と複雑なリン酸化酵素が存在する可能性を生化学会で発表した。また、新規にリボソームタンパク質S19とその結合タンパク質が凝縮染色体に集積することを見いだした。一名の大学院生と一名の研究生が博士号を取得した。
社会貢献	0.03	生化学および分子生物学に関連する企業との共同研究を計画する。特許の申請や研究成果の社会への還元を目指したい。	0.03	一概には言えないかも知れませんが、生化学分野のような基礎的傾向が強く、応用的側面の少ない研究は企業との共同研究は成り立ちにくい様に思われます。沖縄県内だけでなく、全国にPRするなど工夫の必要性を感じています。
管理運営	0.03	昨年に引き続き、医学科教育連絡主任として連絡会議に参加し、学生の教育システム改善に取り組む。極低温センターの委員として運営会議・その他に参加し、効率的運用を目指す。	0.03	医学科教育のメインテーマとして来年度のシミュレーション教育の日程が決まりました。極低温センターの委員として運営会議に出席しました。医学部で消費量の多い液体窒素はかなり低価格で提供されています。
進路指導	0.02	5年次指導教員として、学生11名の相談にあたり、指導する。	0.03	一人の学生が結婚されましたが、何とかがんばって克服しているところです。総合試験の結果が学年全体で悪かったらしく、国試過去問に頼りすぎた学習法に問題があると感じています。毎年度のことではあるが、学年別懇談会の出席率が悪く、気になっています。学生の不満や考え方に触れることができたり、相互の信頼感が醸成される点では、懇談会は大いに役立っています。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	仲嶺　三代美		所　属	大学院医学研究科・生化学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	医学科2年次の講義と実習を担当する。生化学の講義では生体内でのタンパク質合成の仕組みを担当する。また、近年の科学研究についての話題を紹介し、研究への関心が高まるような講義をめざす。生化学実習では生体に含まれるタンパク質の分離精製法などを担当する。また、医学科4年次の基礎配属を担当する。	0.30	医学科２年次の生化学実習ではタンパク質の分離精製とその特徴について、学生の理解を深めるための実習となるように工夫した。講義では分かりやすいスライドおよびプリントの作製を心がけた。医学科４年次の基礎配属では、最先端の研究について紹介するなど、研究の現場を体験できるように努めた。
研究	0.65	視床下部由来の培養細胞を用いて、膜上に存在する受容体のひとつであるErbB4切断の分子機構を解明することをめざす。本年度の研究成果を日本分子生物学会にて発表することにより、研究者間での情報交換を活発に行う。また、研究費の獲得をめざす。	0.60	Gタンパク質共役受容体刺激による細胞内情報伝達機構を解析し、研究成果を生化学九州支部会、日本生化学会にて発表した。また、本研究課題にて科学研究費の若手Bに採択された。
社会貢献	0.01	沖縄県で開催する学会、研究会へ積極的に参加することで県内のコンベンション事業の活性化に貢献する。	0.01	学内の学術および試薬セミナーに積極的に参加した。
管理運営	0.03	研究室内で使用する劇物および毒物指定の試薬、免税エタノールの使用に関して保管および使用記録等の管理に携わる。センター試験などの試験監督業務に従事する。	0.03	劇毒物の調査、免税エタノールの使用について保管と使用記録を管理した。大学入試センター試験では警備案内役を勤めた。
進路指導	0.01	大学院生および学生から進路についての相談を受けた場合に、情報を集めるなど手助けをする。	0.06	大学院生へ培養細胞の取り扱いおよび生化学実験を指導し、研究環境の基盤整備を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	吉見　直己	所　属	医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	1. 病理学講義と病理総合学習を実施する。実習はバーチャルスライドシステムの充実を諮る。 2. 病理部臨床実習の継続と病理医育成を視野にシステムの充実を諮る。 3. 大学院院生に関しては学会発表と論文指導を諮る。 4. 引き続き、病理解剖検討会を開催し、医学部での医療の質を確保する。	0.25	すべてクリア。特記すべき事として、4では剖検検討会は特定機能病院に必須で有り、当講座のみで維持している。2に関しては病理医育成のために、がん拠点病院基金から予算化をして貰い、研修会参加と県外から講師を招聘して実施した。
研究	0.35	1. ラオスでの細胞診での支援を継続するとともに、それに対する外部資金獲得を目指す。2. 厚労省の指定型研究の獲得とその班長としての任務を遂行する。 3. 特別研究として放射線講座との連携での研究を施行する。 4. 外部資金の獲得を目指し，産学連携研究を目指す。	0.35	すべてクリア 。特に厚労省指定型大型研究費(吉見班)と中島平和財団からの研究費)を獲得するとともに、ラオスからの国費留学生の指導とともに、学位後指導のための支援金を得て、ラオスから短期留学生を受け入れた。4は共同研究員として2社から連携している。
社会貢献	0.10	1. 地域医療として、宮古病院での臨床症例カンファレンスに病理側として参加し、医療の質の向上に対する貢献を継続する。 2. 本島での種々の病院標本の病理診断に貢献する。 3. 県下の医療系学校で必修である病理学講義を通じて社会貢献する。 4. 県下の企業との連携を諮る。	0.10	すべてクリア（宮古病院では，月一回の特に外科系とのカンファレンス開催した。3では関係する医療系学校数は3校)。4として武蔵野免疫研究所と中部医師会センターから研究員の受け入れを開始した。
管理運営	0.05	1. 教授会を含め、各種担当委員会に可能な限り参加する。	0.05	可能な限り参加した。学務委員会に所属。
進路指導	0.05	1. 指導学生(最終学年)との対話とともに、国試対策に対して対応する	0.05	班会開催を年間2回、適宜学生の訪問を受けた。
診療	0.20	1. 病理部での病理診断を遂行する。 2. 遠隔病理支援システムを模索する。	0.20	すべてクリア(診断業務とともに，研修医の指導を行った)。1は2名の後期研修医の受け入れと来年度病理医予定者の1名を確保した。2は県の地域再生医療事業の一環として、実施している。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	松﨑　晶子	所　属	腫瘍病理	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.50	ポリクリを通じて、学生の病理学ひいてはヒトの疾病の理解を助ける。ポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせる。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も個々の症例に準じて行う。	0.50	ポリクリの指導、病理総論／各論の授業、病理実習等を通じて、学生の指導を行った。最新の論文なども確認して、最新の知見を交えた授業となるように配慮した。また、基礎配属の学生の指導も行った。また、研修医、修練医にも外科病理の指導も行った。
研究	0.10	日本病理学会での外科病理症例の発表。外科病理症例で、問題症例や希症例については消化器外科／内科との合同カンファレンスを行い検討する。	0.10	2012年度の第１０１回日本病理学会や第５１回の日本臨床細胞学会秋期大会で示説発表をおこなった。外科病理症例で、問題症例や稀症例については消化器外科／内科との合同カンファレンスをおこなった。
社会貢献	0.10	浦添総合病院、中頭病院での病理診断の援助。	0.10	浦添総合病院、中頭病院での病理診断の援助。
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
診断	0.30	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードへも参加し、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行っていく。	0.30	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科とのカンファレンスにも参加し、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	等々力英美	所　属	医学研究科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	医学部医学科「衛生学・公衆衛生学Ⅰ，Ⅱ」講義実習を担当する。 大学院修士課程「医学研究方法特論」、「研究方法概論」講義を担当する。 M6臨床配属自由選択、配属学生の指導担当する。 M4基礎研究配属学生の指導担当する。 非常勤講師として琉球大学医学部保健学科「栄養疫学」、東京大学大学院医学系研究科「疫学方法論」の集中講義を担当する。	0.35	医学部医学科「衛生学・公衆衛生学Ⅰ，Ⅱ」講義実習を担当した。 大学院修士課程「医学研究方法特論」、「社会医学概論」講義を担当した。 非常勤講師として琉球大学医学部保健学科「栄養疫学」、東京大学大学院医学系研究科「疫学方法論」、名桜大学人間健康学部看護学科「産業保健学」の集中講義を担当した。
研究	0.35	『ソーシャルキャピタルと地域の力――沖縄から考える健康と長寿（仮）』を編著者として執筆、出版する。 科研費基盤研究（B)の研究主任者として(「地域住民の行動変容を目指した沖縄野菜を主体とした沖縄型食事による介入研究」)を引き続き研究の継続を行う. 厚生労働省科研指定研究「介護保険の総合的政策評価ベンチマークシステムの開発」における分担研究者として引き続き研究を行う。 科研費に関する関連論文を執筆する。 公衆衛生、疫学の関連国際、国内学会において発表を行う。	0.35	『ソーシャルキャピタルと地域の力――沖縄から考える健康と長寿（仮）』を編著者として執筆、編集を継続している。 科研費基盤研究（B)の研究主任者として(「地域住民の行動変容を目指した沖縄野菜を主体とした沖縄型食事による介入研究」)を引き続き研究の継続を行った. 厚生労働省科研指定研究「介護保険の総合的政策評価ベンチマークシステムの開発」における分担研究者として引き続き研究を行っteiru。 科研費に関する関連論文を執筆した(J Altzheimer Dis. 2013;34:273-9, J Gerontol A .2012;67:126-34.　国際琉球沖縄論集創刊号2012:)。 第42回沖縄県公衆衛生学会において発表を行った。
社会貢献	0.20	日本疫学会、日本栄養食糧学会、日本民族衛生学会および日本栄養改善学会評議委員として学会運営のための支援活動を行う。 沖縄県公衆衛生学会幹事長として学会運営のための支援活動を行う。 沖縄県医師会産業医研修会講師として産業医育成のための教育支援を継続して行う。 沖縄健康バイオ産業推進ネットワーク「地域農産物に指向したソーシャルマーケティングと地域の健 康再生・創造ネットワークの可能性(チャンプルースタディのエビデンスを基礎に)」ワーキンググループの代表者として推進させる。	0.20	日本疫学会、日本栄養食糧学会、日本民族衛生学会、日本栄養改善学会評議委員として学会運営のための支援活動を行った。 沖縄県公衆衛生学会幹事長として学会運営のための支援活動を行った。 沖縄県医科学研究財団評議員として財団運営のための支援活動を行った。 沖縄県医師会産業医研修会講師として産業医育成のための教育支援を継続して行った。 沖縄健康バイオ産業推進ネットワーク「地域農産物に指向したソーシャルマーケティングと地域の健 康再生・創造ネットワークの可能性(チャンプルースタディのエビデンスを基礎に)」ワーキンググループの代表者として推進した。 琉球大学産官学連携推進機構ﾁｬﾝﾌﾟﾙｰｽﾀﾃﾞｨ社内給食開発プロジェクトアドバイザーとしての支援活動を行った。
管理運営	0.05	琉球大学国際沖縄研究所の併任教官として企画・運営に携わる。 琉球大学医学部附属病院専門研修センター員として企画・運営に携わる。 琉球大学ESD検討WG委員として、原案作成など行う。	0.05	琉球大学国際沖縄研究所の併任教官として企画・運営に携わった。 琉球大学医学部附属病院専門研修センター員として企画・運営に携わった。 琉球大学ESD検討WG委員として、原案作成など行った。
進路指導	0.05	地域医療研究会の顧問教官として、学生の地域医療にかかわる支援を行う。	0.05	地域研究会の顧問教官として、学生の地域医療にかかわる指導支援を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してく	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	宮崎哲次	所　属	医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	医学科編入生を含む2年次学生の指導教員としての責務を果たす。 「法医学・医事法制」の授業では学生の要望を取り入れて改善を継続する。 法医学に在籍している大学院生をTAとして採用する。	0.30	定例の前後期初めの懇談会の他、年末にも懇談会を開催した。計3回実施した会ではいずれも班の学生全員が参加しての懇談であった。 前年度受講の学生から、分かりにくいと指摘のあった項目ではプリントを充実させるなどの改善を行った。院生をTAとして採用した。
研究	0.30	法医学の研究に資するため、期間内に法医解剖60体以上自ら執刀するかまたは直接指導する。 学術誌に論文を掲載する。	0.30	期間内（平成25年2月6日まで）に98体の法医解剖（司法解剖88体、承諾解剖10体）を自ら執刀した。 Forensic Science International 第214巻に論文が掲載された。
社会貢献	0.20	担当した司法解剖例では、積極的に検察官や弁護士の活動をサポートし、必要に応じて証人出廷を行う。 沖縄県警の検視レベルの向上を目的とする「法医実務教養」の授業では、スライドを改善して受講者がより理解しやすくする。	0.20	刑事法廷に2回証人として出廷し、裁判員の理解に供するため、鑑定書の内容についてパワーポイントにより図を用いて解説した後、尋問に応じた。 医学の基礎知識を有しない警察官に対し検視に必要な知識を授けるため、多くの図を使った授業を行った。
管理運営	0.20	医学部副学部長（評価担当）として、また全学の委員会委員としての責務を果たす。	0.20	来年度から実施する自己評価書作成及び外部評価受審に向けてその説明会に参加し、学部教授会においてその要点を伝え、評価書作成の準備を開始した。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	福家　千昭	所　属	大学院医学研究科法学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.10	学生に講義の内容を理解しやすくするために、実例をもとに考え方や手順を解説できるように、ビデオや動画などを盛り込んだ講義資料を作成・準備する。 大学院生に対して実験の原理、本質を理解させるようディスカッションを多く取り入れ、本や文献の紹介、抄読会を積極的に行う。	0.10	学生に対しては例年通りの講義・実習を行った. 修士課程学生に対しては例年通りの講義を行うとともに、法医科学専攻の研究生に対して研究指導、論文紹介、抄読会を行った。 卓球部顧問として部活動の新入生勧誘や運営を支援し，部活動の活性化に努めた.
研究	0.50	農薬や医薬品などの急性中毒に関する研究を継続的に行い、その研究結果を法医学会、中毒学会や法中毒学会などで発表する。 発表した内容について論文にまとめ、学術雑誌に投稿する。 日本法医学会にて評議員としての活動と法医中毒ワーキンググループの一員としての役割を果たす。 日本法中毒学会の評議員として学会運営ならびに国際学会(TIAFT2012)の運営に協力する。 日本中毒学会にて評議員としての活動と分析委員会の委員として薬物分析さらなる発展について必要なことを検証する。	0.30	研究成果を国際学会(TIAFT2012)，日本法医学会全国学術集会，日本中毒学会全国学術集会、日本法医学会学術九州地方会にて発表した。発表した内容のうち2件について論文を作成し，学術雑誌に投稿した.
社会貢献	0.35	法医解剖例や医療機関から依頼された薬毒物検査を行う。	0.50	平成24年に解剖した症例の内35例について各薬毒物の定性・定量分析を行った。また、2件外部機関からの薬物分析の依頼に対して定量分析を行った。 法医中毒ワーキンググループの委員として委員会に参加し、法医学分野における薬毒物分析に関する意見交換と法医中毒研究会設立に尽力した。
管理運営	0.05	保有個人情報管理委員会委員委員 琉球大学ハラスメント相談窓口担当者	0.05	琉球大学ハラスメント相談窓口担当者として講習会に参加した.
進路指導	0.00	新入生の指導教官として連絡を密にし、修学、生活面で支援する。	0.05	3回班会を開催し，学生の生活状況を把握し，修学に対する意識の持ち方や方法について話し合った.
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	井濱　容子	所　属	医学研究科	職　名	准教授（学内）

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	大学院生に対して解剖実務と診断技術の習得のための指導を行う。医学部4年生に「海洋法医学」「突然死」「医療に関連する死亡」などの講義を行う。6年生の選択実習において、より実務的な法医学的指導を行う。大学院生ならびに研究生に対して論文作成の指導を行う。	0.40	大学院生・研究生に解剖実務の指導を行った。学部4年生に講義・実習を行い、6年生選択実習では国家試験対策を踏まえて指導した。医学研究科博士課程コースで講義を行った。九州大学において医学部4年生の特別講義を行った。北里大学医学部で実習指導を行った。研究生に論文指導を行い、論文を掲載させた（法医学の実際と研究 2012;55:21-26）。
研究	0.40	科学研究費に採択された課題についての研究を進める。学会に参加して1回以上の学術発表を行う。学術論文を作成し、学会誌に掲載される。法医学の研究に資するため、期間内に自ら50体以上の法医解剖を執刀する。	0.40	科学研究費の採択課題について研究成果をまとめ学術集会で発表した。学会に参加し、演者として2回の発表を行った。国際誌World J Hepatolに学術論文を投稿し、掲載された(2012:4(10) 288-290)。琉球医学会誌に学術論文を投稿し、掲載された(2012;31(1,2):35-40)。期間中に100体以上の法医解剖を自ら執刀した。
社会貢献	0.20	沖縄県警察学校で行われる「検視実務専科教養」において、検案時に留意すべき法医学的所見や医学的基礎知識について講義する。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において講義を行う。	0.20	沖縄県警察学校で検視実務専科教養の講師を務めた。法医実務教養において講義を行った。沖縄県警察嘱託医会で特別講演を行った。沖縄県児童相談所からの依頼で虐待被疑児の生体鑑定を行い、意見書を提出した。県立病院において「医療関連死の紹介」ならびに「死亡診断書（死体検案書）の書き方」についての講演を行った。
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	二宮　賢司	所　属	医学研究科	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	所属教室の医学部4年生に対する講義の一部を担当する。6年生の選択実習生に対し、より具体的な法医実務の紹介を行う。大学院生に対して解剖実務と診断技術の習得のための指導を行う。大学院生ならびに研究生に対して論文作成の補助を行う。	0.20	所属教室の医学部4年生に対する講義の一部を担当した。6年生の選択実習生に対し法医実務の紹介を行った。大学院生に対し法医実務に関する指導を行った。大学院生ならびに研究生に対して論文作成の補助を行った。
研究	0.60	学術論文を作成し、国際誌に掲載される。国際学会への参加、発表を行う。法医学の研究に資するため、期間内に50体以上の法医解剖を執刀する。	0.60	国際学会である第50回TIAFTに参加、ポスター発表を行った。平成２５年２月１９日現在までに135体の法医解剖を執刀した。学術論文については現在国際誌に投稿中である。
社会貢献	0.20	沖縄県警察の行う検視業務に協力する。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において講義を行う。	0.20	平成２５年２月１９日現在までに検視業務への協力を15件行った。また沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において講義の一部を担当した。
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	益崎　裕章	所　属	医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	学生向け講義・総回診・外来を中心とする臨床実習における教育・指導を徹底する。	0.25	ポリクリ実習の全グループに対して、講義、総回診指導、外来指導を実施できた。また、年間に10数回の臨床レクチャーを実施した。
研究	0.30	教室員の論文指導を通じての研究活動、教室として新規に取り組む研究を推進し、成果の学会発表、英文論文化を積極的に進める。	0.30	教室員の論文指導を実施し、数編の研究を英文医学雑誌に掲載した。教室の研究に関する成果報告として年間に約90回の学会、研究会、講演を実施した。
社会貢献	0.05	県医師会における講演、指導、全国レベルの学会、研究会における一般市民向け講演会に積極的に関与する。	0.05	県医師会糖尿病対策推進会議会長など、県医療の向上に対して一定の貢献ができた。年間に数十回の研究会を主催し、知識普及に努めた。
管理運営	0.05	院内・学内の各種委員会における職責を充分に全うする。	0.05	与えられた委員会委員の職責を果たした。
進路指導	0.05	学生、研修医、教室員に積極的に関わり、進路指導・キャリアブランディングを支援する。	0.05	３～６回生の学生および研修医の進路指導に積極的に関与し、成果をあげることができた。
臨床	0.30	総回診、外来を中心として、教室全体としての臨床レベルの向上と教育・指導に専心する。	0.30	教室の臨床レベルの向上、病棟稼働率の向上において当初の目標を達成し、成果をあげることができた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	友寄　毅昭	所　属	内分泌代謝・血液・膠原病内科（第二内科）	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	（1）M4学生への系統講義，（2）ポリクリ実習生への教育，レクチャー，（3）院内看護師勉強会の開催（年4回）	0.25	（1）M4系統講義は十分行えた。（2）ポリクリ実習生へ「化学療法の総論」を毎回レクチャーした。（3）西医師にて9階西病棟で移植を中心とした看護師向けの勉強会を開催し，知識の向上に寄与できた。（4）志願学生2～4人に対して，1～2ヶ月毎に症例勉強会を開催した。
研究	0.25	（1）臨床研究リサーチ：エコーガイド下中心静脈穿刺の有効性と合併症の論文化（国外誌），（2）症例リサーチ：症例報告発表・論文化（国内誌ないし国外誌（年2例）	0.30	（1）エコーガイド下中心静脈穿刺の有効性と合併症の論文を報告した；Transf Apher Sci 2012 (in press。（2）嫌気性リンパ節炎を合併したATLの症例報告，不明熱で発症したホジキンリンパ腫の症例報告を執筆中である。
社会貢献	0.10	（1）骨髄バンクコーディネーター活動（年10件），（2）製薬会社の社外勉強会講師・座談会（年1-3件），（3）県内血液内科関連施設との協力関係の構築（BCR-ABL変異解析，CD34測定）	0.10	（1）骨髄バンクコーディネーター活動を円滑に行えた。（2）製薬会社主催の講演会などの講演，座長などを勤めた。（3）県内の慢性骨髄性白血病に対してBCR-ABL変異解析（保険外，臨床研究）のサポートを行え，社会貢献できた。
管理運営	0.05	（1）骨髄採取術の安全管理；マニュアルの改訂	0.10	（1）骨髄採取術のマニュアルは改訂中である。（2）9階西病棟の無菌室の稼働は重大な問題もなく，稼働している。
進路指導	0.05	血液内科を希望する研修医，学生に対しての研修先などの進路指導	0.10	面談を数回行い，下記研修医2名が研修先を決定した。1）血液内科にローテーションした卒後2年目の研修医（琉球大学医学部附属病院）は来年度から第二内科・骨髄移植センターで研修することとなった。2）血液内科を見学した卒後2年目研修医（南部医療センター）は来年度から第二内科で研修することとなった。
診療活動	0.35	（1）血液内科に関する診療；外来診療，入院診療，セカンドオピニオン，（2）骨髄バンクドナーコーディネート（年10回），（3）骨髄バンクドナーの骨髄採取（年10～12回），（4）同種骨髄移植診療再開	0.15	（1）血液内科の外来診療は大きな問題もなく経過した。（2）骨髄バンクコーディネーター活動を円滑に行えた。（3）骨髄バンクドナーの骨髄採取は小児血液医と協力し，年間10例以上の骨髄採取術を行い，琉球大学医学部附属病院が施設として骨髄移植推進財団九州事務局から感謝状の授与を受けた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	平良　伸一郎	所　属	医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	(1)研修医への指導：内分泌疾患（下垂体、甲状腺、副腎疾患の内分泌検査の実施法・評価法・治療の指導を行う。）、代謝疾患（糖尿病・脂質異常症の診断、インスリン治療、合併症の評価。骨粗鬆症などの検査・診断・治療を行う。）(2)医学生への指導：臨床講義（内分泌・代謝計２回）、臨床実習を通して内分泌・代謝疾患の指導を行う。	0.20	病棟および外来診療で研修医に対する指導を行った（診察・検査・診断・治療）。　M3,M4の学生に対して臨床講義を3コマ担当した。臨床実習学生へ身体所見の取り方、鑑別診断を指導した。教育に関して当初の目標を達成している。
研究	0.20	腹部CTを用いた異所性脂質蓄積の新しい評価法の確立・臨床応用に関する研究および生活習慣改善、糖尿病薬を用いた介入が異所性脂質蓄積におよぼす影響を調べる。人工膵島を用いインスリン抵抗性と異所性脂質蓄積の関連性を調べる。研究データをまとめ海外誌への論文発表を行う。学会での発表を行う。	0.20	臨床データのまとめ・解析を行い、論文を作成した。論文は英文誌にアクセプトされており、近々雑誌に掲載される予定である。研究に関する当初の目標を達成している。
社会貢献	0.05	(1)学外医療機関と協力し、糖尿病および肥満の疫学調査を行う。(2)糖尿病週間へ参加し啓蒙活動を行う。	0.05	臨床研究に関するデータの集積を行った。関連する研究会や糖尿病週間のイベントへも積極的に参加し啓蒙活動を行った。現在、糖尿病予防に関する講演会の企画に参加している。社会貢献に関する当初の目標を達成している。
管理運営	0.05	(1)入試関連業務へ参加する。(2)病棟における栄養サポートチーム活動を行う。	0.05	入院患者さんの栄養サポートに関する活動を行った。管理運営に関する当初の目標を達成した。
診療	0.50	(1)内分泌・代謝・膠原病に関する病棟での診療を行う。(2)内分泌・代謝疾患に関連する外来診療および他科からのコンサルトを受ける。(3)甲状腺超音波検査（週７～８人）および甲状腺穿刺吸引細胞診検査（週１～２人）を行う。	0.50	病棟および外来で診療に従事している。他科からの依頼で術前後の血糖コントロールおよび内分泌学的検査を行った。甲状腺超音波検査を担当し当科および他科の診療に貢献できた。診療に関する当初の目標を達成している。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	植田　玲	所　属	琉球大学医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	学生への講義をもっとわかりやすく興味の持てる内容にする	0.25	H23年度の講義後アンケートよりはH24年度のアンケートのほうが良い感想を書いてくれた学生が多かった。
研究	0.30	臨床研究提出中、研究の実施と論文化をめざす。学会への参加と発表。	0.30	学会参加、講演会の場での発表を行った。
社会貢献	0.05	沖縄県糖尿病療養指導士会講習会の座長など糖尿病教育とそれにかかわるスタッフの勉強会を行っていく。	0.05	沖縄県糖尿病療養指導士会講習会への参加、糖尿病教育と外来・病棟スタッフとともに患者糖尿病教室、スタッフ同士の勉強会を行った。
管理運営	0.05	院内・学内の各種委員会における職責を十分に全うする。	0.05	院内・学内の各種委員会への参加を行った。
進路指導	0.05	医学部病棟実習生・研修医のチューターとして進路指導の支援を行う。	0.05	病棟実習や当科での研修の説明案内を行った。
診療	0.30	入院・外来、糖尿病教室おいて臨床レベルの自身の向上と患者教育へのスタッフ全体のレベル向上を試みる。	0.30	入院患者の診療（自科・他科コンサルト）、外来患者、特に糖尿病教室や運動療法への患者スタッフへの関わり合いを持った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	大屋　祐輔	所　属	医学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	シミュレーション教育のカリキュラムへの導入 クリニカルクラークシップ実施の充実	0.15	M5とM6のポリクリへシミュレーション教育の導入を行った。 M3（循環器系）の講義にシミュレーション教育の導入を行った。 第三内科におけるクリニカルクラークシップの学習プログラムの改訂を学生の要望に応じて行った。
研究	0.15	ゲノム研究の体制づくり 遠隔医療体制のに関する研究 生活習慣病に関する疫学研究	0.15	ゲノム研究の論文作成を行っている。 ゲノム研究のデーターベースの整備を開始した。 ゲノムコホートへの遺伝子収集を再開した。 遠隔医療の問題点を、IT専門家、地域医療者たちと議論する場を作った。 生活習慣病改善に関する研究と介入事業を開始した。
社会貢献	0.10	生活習慣病や循環器疾患に関する市民啓発活動 沖縄県の健康政策への協力	0.10	高血圧市民講座、脳卒中市民講座、新聞、医師会報などを通じて市民啓発活動を継続している。 沖縄県の福祉保健部の健康増進の委員として協力している。
管理運営	0.20	シミュレーションセンターの運営体制の構築 地域医療部の沖縄県行政との連携の促進	0.20	シミュレーションセンターの運営体制が構築が進んでいる。 地域医療部が地域枠学生の将来研修体制の構築に関与することで沖縄県と検討を行っている。
進路指導	0.10	学生へのキャリアパス教育の実施	0.10	キャリアパスの講義を行い、M5、M6学生とは、ポリクリグループ毎に面談を行っている。
診療	0.30	心臓リハビリテーション体制の充実 不整脈インターベンション治療の開始 CAPD導入の増加	0.30	心臓リハビリテーション実施の初期確立した。件数も増加している。 休止していた不整脈インターベンションが4月より開始された。 CAPD患者の導入が開始され増加している。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	山里正演	所　属	循環器・腎臓・神経内科学	職　名	

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	病棟実習生のカルテ記載を中心に指導する。 初期研修医のカルテ記載の指導と発表能力が向上するよう支援する。	0.20	・・・医学科5年生の病棟実習を担当し，特にカルテ記載をPOSにそって指導した．総回診後に症例検討を含む勉強会を行い，初期研修医および後期研修医に発表の機会を提供し，発表の仕方を指導した．目標の8割は達成したと考えている．
研究	0.30	高血圧の中枢性機序に骨髄由来単核球細胞が関係するかをアンジオテンシン持続投与高血圧モデルラットで検討する。 骨髄由来単核球細胞の肺高血圧治療に対する可能性をモデル動物を用い検討結果をまとめる。	0.30	・・・Ang II infusionモデルでは骨髄由来細胞の脳室内自家移植が血圧に影響する可能性を示唆する結果が得られ、国内外の学会発表を行った。また、骨髄由来細胞経気道投与が肺高血圧モデル動物の平滑筋増殖を抑制する可能性を示唆する結果が得られ、国内外の学会発表を行った。目標の8割は達成できたと考えている．
社会貢献	0.30	高血圧や腎疾患の知識の普及に努め生活習慣の修正や治療法への理解を促し、臓器障害の発症・進展予防を目指す。 臓器合併症の発症・進展予防を目指し高血圧・腎疾患を中心に外来診療を行う。	0.30	・・・月に1度，病棟入院中の患者・家族を対象に高血圧勉強会を行なった．高血圧・腎疾患を中心に外来診療を行なった．週約20名の外来患者の診療を行なった．目標の8割は達成できたと考えている．
管理運営	0.10	病棟入院中の患者・家族と病棟スタッフの安全に留意し、コミュニケーションを密にし安全に関わる情報の共有を即す。	0.10	・・・医局長として重大な事故につながる可能性のあったインシデントなどを構成員に報告し，事故防止の観点から情報の共有につとめた．目標の8割は達成できたと考えている．
進路指導	0.10	医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行う	0.10	医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行った。目標の8割は達成できたと考えている．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	渡嘉敷　崇（とかしき　たかし）	所　属	医学部医学研究科循環器・腎臓・神経内科学	職　名	助　教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	臨床講義内容の見直し（症例検討，画像の活用），臨床実習における指導（症例検討），初期研修医の指導，後期研修医の指導・専門医資格所得に向けた指導の充実	0.25	・・・臨床講義の内容に症例提示を組み込むようにし，また臨床実習や研修医指導においても実際の症例の診察を通して症候を検討するようにした．
研究	0.25	神経疾患における病態解明（認知症）を行い学会や論文で発表する	0.25	・・・認知症研究で厚生労働省科研費を獲得し，宜野湾市地域高齢者を対象に生活状況，健康度，栄養と認知機能に関する研究を継続している．来年度以降も継続していく．
社会貢献	0.15	神経疾患領域の家族会や市民公開講座への参加，研究会活動，地域医師会と協力した地域診療連携システムの構築	0.15	・・・南部保健医療圏における脳卒中地域連携システムの構築に参画し，継続中である．
管理運営	0.05	診療科内における入退院管理，および研修医・担当医の健康管理	0.05	・・・本年度は入院患者数も高水準で維持した．研修医・担当医の負担軽減・健康管理に留意し，担当患者の割り振りなどで偏重がないようにした．
進路指導	0.05	初期研修病院選択のアドバイス，専門医教育プログラムの作成・実施	0.05	・・・今年度は専門研修プログラムの充実を図るため，新たに京都府立医科大学神経内科講座と多極連携教育プログラムの策定・協力の締結を行った．
療	0.25	新患予約外来の充実，病診連携の充実・地域連携システムの構築	0.25	・・・地域連携システムの一環として神経内科新患予約システムを稼働している．院内他科と比較しても予約数は多く，維持できている．
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	大城　克彦	所　属	琉球大学大学院医学研究科. 循環器・腎臓・神経内	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	初期研修医および医員の循環器診療に関するスキルアップを支援. 病棟実習生の指導	0.50	毎日朝夕の回診で初期研修医および医員の診療の相談を受け，適宜指導を行った．その際に病棟実習生に対しても指導を行った. 後期研修医や医員が行う心臓超音波検査や心臓カテーテル検査など専門手技に立ち会い適宜指導した.
研究	0.20	内科学会での報告発表 循環器学会での報告発表 Real CAD研究における分担施設担当者としての管理	0.10	第113回日本循環器学会九州地方会で「低心拍出量症候群を呈した重症心不全に対しtolvaptan，olprinone併用が著効した1例」「急性冠症候群による心停止後にタコツボ型心筋症類似の経過をたどった一例」を2題を共同演者として報告した.
社会貢献	0.40	生活習慣病の予防や治療法に関する診療を行い，動脈硬化性疾患(心筋梗塞，脳梗塞など)の発症予防を目指す. 動脈硬化性疾患の治療を行い，罹患患者の社会復帰を支援する.	0.10	1回/月程度の頻度で沖縄県総合保健協会において生活習慣病患者の生活習慣改善を目標とした指導を行った.
管理運営	0.20	9階東病棟の病棟医長として入院スケジュールの管理を行う. 心臓カテーテル検査および治療のスケジュール管理および件数増加を目指す.	0.30	病床稼働率はほぼ90%以上を達成し，看護重症度も常に20%以上を維持し，病棟師長と連携をとり困難な管理を行った. 心臓カテーテル検査のスケジュール管理を行った.
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	西巻　正		所　属	医学研究科	職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果		
教育	0.20	医学部医学科の学生に対して：①画像、動画を取り入れた視覚に訴える講義を行う。講義の理解に鍵となる図表と、重要な知識はハンド・アウトとして学生に配布する。②医行為を経験させるクリニカル・クラークシップ型の外科臨床実習を行う。③シミュレーション器材を利用した基本的外科手技実習を行う。④英語論文の抄読会を担当させ、医学英語能力の向上を図り、論理的思考法の指導を行う。⑤「想起」、「分析・解釈」、および「応用・問題解決」を意図した試験問題を作成し、学生の学力を適切に評価する。同時に出題問題毎の正解率を算出し、問題作成能力の向上を図る。大学院生に対して：①最先端の知識を論文の抄読会で学ばせる。②定期的な研究発表会を開催し、適切な批判を行うことで研究指導を行う。	0.20	医学部医学科の学生に対する目標は①～⑤まで全て目標を達成できた。特に、M5の学生に対して、手術の第2助手を務めさせ、消化器手術の実践的指導を行った。大学院生は平成24年度は休学したため（東北大震災被災地に臨時医師として勤務）目標を達成できなかったが、全国学会で研究成果を発表させた。		
研究	0.20	①他の教員と共同で、消化器外科学、乳腺・内分泌外科学、および小児外科学領域の研究成果を学会等で発表する。②多施設共同の臨床研究に積極的に参加する。③1編以上の論文を執筆し、発表する。④競争的研究資金の獲得に努める。	0.20	目標①については当該分野の全国学会および九州地区地方会において共同発表者として多数の研究発表を行った。また、第122回日本外科学会ではビデオシンポジウムの演者に採択され、手術手技の工夫を筆頭演者として発表した。目標②については多施設共同臨床試験2件に参加した。目標③については自著論文1編、共著論文5編を学術誌に発表した。目標④についても共同研究者として2件の研究費を獲得した。以上より、研究に関する目標は全て達成できた。		
社会貢献	0.10	①医療行政に関連する会議・行事に参加し、自らの専門知識によって地域医療に貢献する。②地域病院の医師に消化器外科学の先進技術の実地指導を行う。③所属学会の各種委員会に参加して、わが国の外科学の進歩に貢献する。	0.10	①については沖縄県がん診療連携協議会に参加して、がん治療専門医としての意見を述べた。②では関連病院において、1件食道癌手術の術者を務め、手術手技の実地指導を行った。③については、所属する学会の多くの委員会に参加し、外科学の進歩に貢献できた。以上より目標は全て達成できた。		
管理運営	0.25	①大学院医学研究科、医学部、医学部附属病院の各種委員会に積極的に参加して管理運営に貢献する。②副病院長として、医学部附属病院の管理運営に貢献する。	0.25	学内、学部内、附属病院内の多くの委員会に積極的に参加し、附属病院副病院長として管理運営に貢献できた。		
進路指導	0.05	①指導担当になっているM2学生の学習進路指導を積極的に行う。②臨床実習でローテートしてくる学生に授業・実習の履修状況を聴取し、適切な指導を行う。卒後の進路について、事前に十分な情報を与え、学生自ら進路決定を適切に判断できるように助言を行う。	0.05	目標①、②とも達成できた。		
	0.20	医学部附属病院で難度の高い消化器外科手術を積極的に実施し、若手医師の指導と育成を行う。	0.20	難度の高い食道癌根治手術を中心として、消化器外科手術の指導を行い、若手医師の育成に努めた。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。		

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	白石　祐之	所　属	医学部第一外科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	学生講義や各種試験問題を、最新の情報にて更新・施行していく。	0.20	例年通り、講義や試験問題を最新情報を得て更新・施行した。
研究	0.20	臨床研究データを解析し、学会発表などに生かしていく。	0.20	各種学会発表を行った。
社会貢献	0.10	各種、県内外の医学系会議の主催や参加、他病院での手術支援を行う。	0.10	手術支援や他の業務支援を県内他病院に対して行った。
管理運営	0.10	院内の会議とうで職責を果たす。	0.10	各種会議・委員会にて業務を果たした。
進路指導	0.10	講義や担当学生との面会などを通じて進路指導を行う。	0.10	学生との面談などを施行した。
	0.30	肝胆膵領域の高難度手術を中心に、術者および指導者として職責を	0.30	多くの手術にて後輩の指導にあたった。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	長 濱　　正 吉	所　属	医学部附属病院　第一外科	職　名	講　師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	医学部学生に対して：3年生の講義を担当している。また5-6年生の病院実習の際にベッドサイドで教育・指導を行っている。	0.15	医学部3年生の講義を担当した。その到達状況は学年末の試験で確認し、正解率は53%程度であった。また6年生の卒業試験での正解率は約85%であった。5-6年生の病院実習の際に一日二回の回診や手術、内視鏡などの検査見学を行った。また個々の症例のプレゼンテーションを指導し教授回診時に発表させることができ、目標は達成できた。
研究	0.20	①消化器外科領域における臨床研究成果をまとめ、学会発表する。平成24年度は10回程度の学会発表を予定している。②年間2編以上の論文を作成し、発表する。	0.20	①平成24年は消化器外科領域における臨床研究成果をまとめて、16回学会発表した。当初目標の10回を上回ることができ目標を達成した。②平成24年中には論文を掲載させることができなかったので、目標は達成できなかった。
社会貢献	0.10	①地域病院で一般外科、消化器外科および消化器病に関する診療技術を用いて臨床に還元し地域医療に貢献する。②各種所属学会に参加し、外科学の進歩に貢献する。	0.10	①地域病院で週2回、外来患者および消化器内視鏡などの検査を担当し、消化器外科および消化器病に関する技術を用いて地域医療に貢献できた。②各所属学会に14回参加し、外科学の進歩に貢献できたと判断でき、目標は達成した。
管理運営	0.25	院内のICTチームやNSTチームに所属し、院内感染症のサーベイランスや感染症予防・入院患者の栄養管理に努める。がんセンター連絡会議・専門研修センター・光学診療部委員会・情報管理システム運用委員会、など各種委員会に参加し附属病院の運営に寄与する。	0.25	院内の感染症対策チーム・感染対策実務者会議・光学診療部委員会・栄養サポートチーム・医療機器安全専門委員会・病院情報システム運用委員会・医療福祉支援センター運営委員、などの各種委員会に参加し、当該分野の意見を述べ、附属病院の運営に寄与できた。以上より目標は達成できた。
進路指導	0.10	5-6年生の病院実習時の進路指導。	0.10	5-6年生の病院実習時に、臨床医（特に外科医）として現在置かれている社会的な立場と役割などを説明し進路指導を行っている。以上から目標は達成できた。
	0.20	医学部附属病院での消化器外科における手術・検査・外来・病棟管理	0.20	医学部附属病院で消化器外科における手術・周術期管理・検査（主に内視鏡検査や消化管造影検査など）・外来、などの日常診療を行なっている。以上から目標は達成できた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	下地　英明	所　属	琉球大学大学院　医学研究科　消化器・腫瘍外科学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	①医学部の学生に対して：1）担当講義を行い、医学知識の向上を図る。2）医行為を経験させるクリニカル・クラークシップ型の外科臨床実習を行う。②日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の指導医として、琉球大学医学部附属病院NSTカリキュラムの作成、指導を行う。	0.20	① 1）担当講義　1．胃十二指腸の外科的治療、2．栄養法・NST、をおこなった。　2）1外科臨床実習に参加した学生に対して外科臨床実習を指導した。②日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の指導医として、琉球大学医学部附属病院NST活動と、前期・後期の2回平成23年度栄養サポートチーム専門療法士研修カリキュラムを開催し、院内及び院外の受講生の指導と講義を行った。以上より、目標は全て達成できた。
研究	0.30	①基盤研究（C）、研究課題名「食道癌術前化学療法の治療効果予測」を交付された科学研究補助金を用い推進する。②消化器外科学領域、特に食道・胃外科領域での臨床研究成果を学会で発表する。③論文を作成し、発表する。	0.30	①基盤研究（C）、研究課題名「食道癌術前化学療法の治療効果予測」を科学研究補助金を用い推進中である。②国内国外の学会・研究会で10件の発表を行った。③筆頭著者として、2編の英文論文投稿中である。以上より、目標は全て達成できた。
社会貢献	0.05	①沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会及び5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキンググループに参加し、地域医療に貢献する。②沖縄県内視鏡会に参加し、地域医療に貢献する。③所属学会・研究会の委員会に参加して、我が国の外科学の進歩に貢献する。	0.05	①5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキンググルー、沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会に参加活動を行った。②沖縄県内視鏡会の定例会、理事会に参加した。③評議員・幹事等に任命されている所属学会・研究会のほとんどに参加し、一定の貢献を行った。以上より、目標は全て達成できた。
管理運営	0.10	①担当の医学部附属病院委員会に参加し、運営に寄与する。②コアNSTの中心メンバーとして、病棟NSTの指導を行い栄養サポートチーム加算に協力し、運営に寄与する。	0.10	①任命された各種委員会に委員として出席し、運営に寄与した。②栄養サポートチーム加算の施設基準の担当医師として、栄養サポートチーム加算に協力し、加算可能ものとしている。以上より、目標は全て達成できた。
進路指導	0.05	医学部学生および研修医に進路指導を行う。	0.05	初期研修医に進路指導を行い、後期研修医の入局を促している。以上より目標は達成できた。
診療	0.30	医学部附属病院で、①消化器外科領域の食道・胃外科グループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当する。②内視鏡検査を担当する。③NSTのコアメンバーとして、NST活動を行う。①・②・③を通して、若手医師の指導と育成を行う。	0.30	①食道・胃外科のグループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当した。②内視鏡検査を担当した。③NSTのコアメンバーとして、毎週のNST症例検討、NST回診のほとんどに参加した。以上より目標の全てを達成した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	青木　陽一	所　属	医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	・チュートリアル授業の取り入れ ・研究業績の授業への反映 ・産婦人科専攻医に対するセミナー講演 ・医学研究科大学院生４人の研究指導	0.25	・12月～1月の講義でチュートリアル授業を行った。 ・講義、BSTに当分野の研究業績を盛り込んでいる。 ・6回の定例研修セミナーを行った。 ・大学院生に対する研究立案、研究指導を行った。
研究	0.15	・厚生労働省科学研究費による研究の遂行 ・喫煙財団研究費による研究の遂行 ・開発治験、臨床研究の遂行	0.15	・厚生労働省科学研究費による臨床試験で、近々1例目の登録予定である。 ・喫煙財団研究費による研究では、成果を論文にまとめ、総括報告を行った。 ・現在、開発治験1件が進行中（登録2例）、臨床研究は多数件進行しており、今年、関連論文4本をpublishした。
社会貢献	0.10	・日本産科婦人科学会腫瘍委員会への委員長としての参画 ・婦人科がん取扱い規約抜粋改訂委員会への参画 ・各種学会での理事、評議員としての参画 ・沖縄産科婦人科学会での研修会企画 ・子宮がん検診啓発のための公開講座等への参画	0.10	・日本産科婦人科学会腫瘍委員会への委員長として、全国婦人科悪性腫瘍登録事業で、2010, 2011年の患者年報、2003年～2005年までの治療年報を報告した。 ・婦人科がん取扱い規約抜粋改訂委員会に参画し、2月に改訂版が発刊予定である。 ・各種学会での理事会、評議員会への出席。 ・沖縄産科婦人科学会として、胎児心エコーセミナーの遠隔地開催の支援を行った。 ・子宮がん検診、ワクチン啓発のための講演を行った。（佐世保）
管理運営	0.20	・医学研究科学務委員会での貢献 ・医学部教務委員会での貢献 ・附属病院材料部長としての貢献 ・医学部、医学研究科、附属病院における各委員会での貢献	0.20	・附属病院材料部長として、医療材料委員会の開催等、職務を遂行した。 ・医学部、医学研究科（学務委員、教務委員、ヒトゲノム倫理審査委員）、附属病院（治験倫理委員、患者サービス推進委員、病理部運営委員等）における各委員としての任務の遂行。
進路指導	0.05	・研修病院選択への助言 ・医学博士号取得の勧奨	0.05	・1名が医学研究科大学院博士課程への入学 ・産婦人科専攻医の大学病院、研修病院での研修支援、産休明けの女性医師の関連病院への復帰支援を行った。
診療	0.25	・手術件数の増加、特に腹腔鏡下手術 ・子宮頸癌に対する広汎子宮頸部切断術（膣・子宮体部温存手術）の実施 ・機能再建手術の実施（造膣術、奇形修復手術等） ・外来診療体制の再構築	0.25	・前年同時期に比較し、手術件数・腹腔鏡下手術の件数の増加を得ている。 ・平成24年は広汎子宮頸部切断術を1例の施行した ・外来、病棟診療体制の再構築のため、当科診療指針が近々発行予定である。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	正本　仁		所　属	産婦人科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	近年の周産期・生殖医学の学術的・技術的発展を反映した講義を行う（例：妊娠成立における免疫学的機序．妊娠高血圧症候群の発生機序．他科と連携した産科手術や胎児治療など）。	0.20	妊娠高血圧症候群および反復流産に関する講義の中で、病因としての比較的新しい免疫学的機序を紹介した。他科と連携した産科手術に関する新しい術式を紹介した。 妊娠中の子宮内環境が児出生後から成人期におよぼす影響について、新しい知見を示した。
研究	0.20	英文学術論文を1編以上作成し，学術雑誌への採用を目指す。当科で経験した前置癒着胎盤例へのUEA，骨盤動脈balloon留置術に関するdata、診断基準が新たに改変された妊娠糖尿病の妊娠予後や治療成績について学会、ワークショップなどで対外的に発信する。	0.20	子宮頸管funneling形態と早産との関連についての新しい知見を全国学会で発表し支持的意見を得た。子宮頸管無力症における頸管縫縮術後予後の予知因子、妊娠糖尿病の妊娠予後や治療成績、合併症妊娠症例について学術論文を3編著者として作成した。筆頭著者としての英文論文作成は出来なかった。
社会貢献	0.20	卒後臨床研修センターの副センター長に任命されており，当施設のみならず連携病院を含めた若手医師の医学知識の啓発、技術指導に努める。	0.10	Journal of Obstet.Gynecol Researchおよび沖縄産婦人科学会雑誌のreviewerとして他施設医師の論文査読を通し医学知識の啓発をはかった。卒後臨床研修センター副センター長として、県内医療機関の指導医に対して指導医講習会を主催した。宮古島市での市民公開講座で講演した。
管理運営	0.10	卒後臨床研修センターの副センター長に就任しており，充実した研修プログラムの作成、運営にあたる。当診療科の産科周産期部長として、臨床研究および診療の充足に努める。	0.20	卒後臨床研修センター副センター長として、県内の指導医講習会を主催した。周産母子センター副センター長に就任し、診療体制の充足に努めた。新たな臨床研究については現在計画中。周産母子センターの年間実績についてまとめた。周産期新生児学会への報告、ホームページ上での公開を予定
進路指導	0.10	医学部教官として，診療，学会参加や他施設との交流を通して知りえた初期臨床研修や後期専門研修に関する情報を学生によく提供し，進路選択の助言を行う。	0.10	左記の事項に関して、初期および後期臨床研修医に対してはよく行えた。学生に対しては、講義をとおして後期専門研修に関する情報を学生によく提供できたが、進路選択の助言までは至らなかった。
	0.20	周産母子センターにおける合併症妊娠例に関し、他科と連携した産科治療を充足させる。	0.20	総分娩数、合併症妊娠の症例数が昨年よりかなり増加した。特に精神疾患合併妊娠例の増加が著しく、精神科と連携した治療を多く経験した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	金城　忠嗣	所　属	産婦人科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.10	研修医の臨床指導、学生の講義、ベッドサイドティーチングを行い教育に貢献する	0.30	A 3年生を対象に周産期の講義を行った。クリニカルクラークシップで来る学生に指導を行った。
研究	0.44	大学院に在籍し、周産期、特に超音波領域での研究テーマを見つけ数年後の論文作成を目指す	0.30	A　大学院に在籍し、帝王切開創のエコーでの評価と開腹での創の評価というテーマを挙げ、数年後の論文作成を目指す。
社会貢献	0.01	大学病院の医師の一員として求められれば人がいないところに応援に行く	0.01	A　産科当直の依頼があった時に応援に行った。
管理運営	0.01	大学病院の医師の一員としてリスク管理、感染対策に取り組む。保険診療にのっとり、保険病名を記載する。	0.09	A　リスク管理、感染対策に取り組み、研修会にも出席した。保険診療にのっとり、保険病名を記載した。
進路指導	0.00		0.00	
診療	0.44	日常診療、特に周産期分野において診療し、学会発表を重ねる	0.30	A　産科医として診療し、沖縄産婦人科学会、日本産婦人科学会で発表した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	稲嶺 盛彦	所　属	医学部女性・生殖医学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	学部学生への講義および床実習の指導	0.20	クリニカルクラークシップの開始に伴い、従来の病院実習の内容に更に踏み込んだ指導を行った。具体的にはこれまで以上に手術や病棟での処置・手技等に学生を参加させた。
研究	0.20	喫煙と子宮頸部発がんに関する研究 （子宮頸部上皮内異形成病変に対する喫煙の影響；nAChR-HIF1-alpha-VEGF-Cを介した経路について）	0.20	これまでの研究のまとめとして論文を作成し、acceptされた。 Int J Clin Oncol. 2012 Oct;17(5):498-504 Cigarette smoke stimulates VEGF-C expression in cervical intraepithelial neoplasia (CIN) 1 and 2 lesions
社会貢献	0.00	0	0.00	
管理運営	0.00	0	0.00	
進路指導	0.00	0	0.00	
臨床業務	0.60	外来や病棟・手術などの臨床業務	0.60	病棟医長として外来・病棟の診療業務に従事した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	久高　亘	所　属	学院医学研究科 環境長寿医科学 女性・生殖医学講	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	医学科学生臨床実習指導を充実させる。実習を通して医学・医療に関する理解を深めさせる。	0.20	医学科学生の臨床実習指導を行った。実地臨床を通して医学・医療への理解を深めさせた。臨床系統講義により婦人科学の理解を深めさせた。
研究	0.30	国内・海外の婦人科腫瘍関連各学会への出席、演題発表を行う。婦人科腫瘍関連の各臨床研究に参加する。	0.30	第64回日本産科婦人科学会学術講演会、第52回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、14th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS)へ参加し、演題発表を行った。婦人科悪性腫瘍研究機構（JGOG）、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）、Gynecologic Oncology Group (GOG) に所属し、婦人科腫瘍関連臨床研究に参加した。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
診療	0.50	琉球大学医学部附属病院における診療活動および医療支援を行う	0.50	琉球大学医学部附属病院において、診療活動および医療支援を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	森　直樹	所　属	微生物学・腫瘍学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00	従事していない。	0.05	「ウイルス学」の講義内容を充実させるための準備を行った。教育担当を認められていない事に関しては、現在、係争中である。
研究	0.60	国際的な学術誌に原著論文や総説を投稿し、掲載採択を得る。 分担執筆者として英文での著書の発刊を行う。 関連学会で研究成果を発表する。 関連学会の評議員として活動する。 国際的な学術誌の編集委員として活動する。 国際的な学術誌からの総説執筆や論文査読の依頼に応じる。 外部資金の獲得に努める。 国内外を問わず、所属部局以外の研究者や企業との共同研究を推進する。	0.70	ウイルス関連悪性腫瘍の発症機構や治療法などの研究を行い、責任著者あるいは筆頭著者として、7編の原著論文と共同研究者として1編の原著論文を、国際的な学術誌に発表した。依頼に応じて、最終著者として、著書を1冊、英文で分担執筆し、発刊され、また、最終著者として、2編の総説論文を国際的な学術誌に発表した。その他に4編の原著論文を責任著者あるいは筆頭著者として執筆し、学術誌に投稿した。関連学会で筆頭演者として、3回、共同研究者として2回、研究成果を発表した。関連学会の評議員や国際的な学術誌の編集委員の職務を全うした。学術誌からの依頼に応じて、16編の論文の査読を行った。研究代表者や共同研究者として、2件の外部資金も獲得し、国内外の研究者や企業との共同研究を推進した。
社会貢献	0.10	学外の研究会等へ参画する。 感染症の対策等の広報活動に参画する。	0.05	学外の研究会に出席し、感染症の広報活動に参画した。
管理運営	0.10	所属部局における委員会に参画する。	0.05	教授会、運営会議に出席し、管理運営に参画した。
進路指導	0.00	従事していない。	0.05	1名の博士研究員の米国留学を支援し、留学が決定した。
診療	0.20	市中病院からの要請に応じ、内科外来及び健康診断の業務に携わることで、感染症や悪性腫瘍の診断・治療の実践を行う。	0.10	目標に従って、市中病院にて感染症や悪性腫瘍の診断・治療を行い、地域医療に貢献した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	只野昌之	所　属	微生物学・腫瘍学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.50	担当するウイルス学、医学外国語、微生物学・腫瘍学特論の講義では学生の発表等を積極的に促し、教官からの一方的な授業形態にならないようにする．また、医学概論では受講生に専門教科に興味を持たせ、今後の専門教育課程に入り易いような授業を目指す．指導教官としての職務を遂行する．	0.50	例年なら教授と分担していたウイルス学講義の全てに加え医学概論も担当することになったが、他の業務および学生には影響なかったと思う．目標を達成した
研究	0.30	新しいワクチン候補の研究開発とともに、動物実験等によるそれら候補ワクチンの評価を行う．西ナイルウイルスは宿主域の広いが、ある細胞では感染が強く制限されることをH23の研究で見いだした．今年度は西ナイルウイルスを感染が制限されるある細胞に強制的に感染させ、発生する変異順化株の遺伝子を解析して感染制限の関係領域解明に僅かでも近づける．	0.30	西ナイルウイルスがヤンバルクイナ由来細胞で増殖しないことを見いだし、さらに増殖可能な変異株を作出した．今年度は遺伝子解析により構造タンパク領域に変異がないことを確認したので、非構造タンパクおよび非翻訳領域の解析を来年度の目標としたい．目標を概ね達成した．
社会貢献	0.10	名桜大学・看護課程、沖縄看護専門学校の微生物学の講義を担当し、日本脳炎ウイルス生態学研究会の事務局運営を担当する．	0.10	滞り無く実施した
管理運営	0.10	琉球大学医学部医学科教育連絡主任の職務を遂行する．	0.10	遂行した
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	斉藤　美加	所　属	医学研究科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	ウイルス学実習の準備・実施・指導・評価を行なう。実習を通じて基礎的なウイルスの扱い方や、抗体反応に関して、興味を持たせ、深い理解を促す。	0.15	実習の準備・実施. 指導・評価を行なった。概ね目標を達成した。
研究	0.75	科学研究費を取得している日本脳炎ウイルスの分子疫学研究の継続遂行、沖縄島の日本脳炎リスク評価に関する研究のまとめ。研究成果の国内学会発表、論文発表.	0.70	科学研究費で行なっている分子疫学研究の遂行を行ない、途中経過を国内学会にて発表した。 第53回日本熱帯医学会（帯広、9月3-5日、2012), 国立感染症研究所との共同研究実施と報告書作成（厚生労働省報告書）
社会貢献	0.10	感染症（主に日本脳炎）の疫学研究の結果を地域（沖縄県）を対象患者および県内病院関係者、獣医師に還元する。日本脳炎リスクの評価方法等に寄与する。	0.15	沖縄県における日本脳炎リスク評価に関する研究を行なった. その一貫として疫学研究を県内病院の協力で行ない、結果は関係医師, 協力者に還元した。沖縄県食肉衛生技術研修会審査委員、Virology Journal誌、Vector Borne Zoonotic Diseases誌査読。
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	鈴木敏彦	所　属	大学院医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	・研究業績の授業への反映 ・学生からの積極的な意見の聴取 ・授業評価等の指摘、自らの発意に基づく授業の改善	0.25	up to dateな知見を授業へもフィードバックしている ・各授業において学生用質問シートを配布して学生の生の声を収集している ・授業評価等にもどづいて授業の改善を随時行っている
研究	0.30	・学会誌への投稿、発表 ・学会での報告発表 ・学外との共同研究・外部資金の獲得	0.30	・すでに国際雑誌発表済みのもの1報、国際誌総説1報、現在、国際誌への投稿中 ・国内学会（国際シンポジウムを含む）に発表 ・学外国内4か所海外1か所との共同研究を実施中。JSPSの科研費挑戦的萌芽研究、沖縄県の感染症医療研究ネットワーク事業の研究費を獲得
社会貢献	0.10	・地域貢献としての具体的取組	0.10	・沖縄科学技術研究基盤整備機構の遺伝子組換え安全委員会メンバー ・各学会の一般向け講演会に参加 ・研究成果をプレス発表、県内新聞2紙に掲載された
管理運営	0.30	・所属部局における委員会での具体的貢献 ・所属学科等の管理運営における具体的貢献 ・入試関連業務における具体的貢献	0.30	・学務委員会、教務委員会、戦略的研究推進委員会、RI施設運営委員会、動物実験施設運営委員会、医学部概要編集委員会、博士論文資格審査会委員長、病原体等安全管理委員会委員長、大学本部遺伝子組換え安全委員会委員，他 ・学科運営会議メンバー、
進路指導	0.05	・進学指導のための具体的取組	0.05	医学科2年次学生の指導教員、各種FDへの参加
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	仲宗根　昇		所　属	琉球大学・大学院・医学研究科・細菌学	職　名	助教
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.30	最新医学情報を加え、解りやすく、覚えやすい授業の工夫をする。一部PBLも加える。		0.30	学生の評価の評価はよかった。	
研究	0.50	病原細菌の発症のメカニズムの解明と予防に関連した研究をおこない、論文を作成する。		0.50	病原菌の宿主応答に対する共著論文がアクセプトされた。	
社会貢献	0.00			0.00		
管理運営	0.20	学内教育連絡主任として学生と教員間の情報の共有を図る。		0.20	学内教育連絡主任としてすべてのFDに参加し、医学教育に対するスキルを身に着けた。	
進路指導	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	トーマ・デ・クダカ・クラウディア	所　属	大学院医学研究科・細菌学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.10	①授業評価等の指摘、自らの発意に基づく授業の改善 ②学生からの積極的な意見の聴取	0.10	①　最新の研究の知見等を学生へ伝えられるよう資料を改善した。 ②　各授業において学生用質問や意見等を記入する用紙を配布し、学生の声を収集した。
研究	0.80	①学会誌への投稿 ②学会での報告発表 ③外部資金の獲得 ④所属部外局以外との共同研究	0.80	①　国際雑誌に1報掲載 ②　3月に行われる第86回日本細菌学会総会で発表予定 ③　「武田科学振興財団」の研究助成金および科研費基盤研究（C）を獲得 ④　学外国内2カ所、海外1カ所との共同研究実地中
社会貢献	0.10	地域貢献としての具体的取り込み	0.10	「沖縄県感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業」に登録研究員として参加
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	當眞　弘	所　属	大学院医学研究科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部学生に対しては、「寄生虫学」、「熱帯医学・国際保健医療学（学士編入者対象）」、「基礎研究」及び「医学外国語」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行う。大学院医学研究科博士課程講義「病原寄生動物学特論」では、研究者としての自立を行い得る高度の研究能力を身につけられるよう指導し、中期目標に挙げられている本学の強みとなる基礎研究推進の一端を担ってもらう。	0.35	学部教育に関しては目標を達成した。さらに内容を充実させ、問題があれば改善を行う。なお、大学院博士・修士課程講義・実習は受講者がいなかったため、開講しなかった。
研究	0.30	講座スタッフおよび学内・学外共同研究者と共に研究論文3編の国内外学術雑誌への投稿・採択及び関連ある国内外の学会での発表1回を行う。関連する分野の外部資金の獲得を目指す。	0.25	国内和文誌に論文1編掲載された。また、県内学会において発表1回を行った。現在海外英文誌に投稿予定の論文1編を作成中である。植物由来の抗菌活性物質に関する研究については、研究成果をまとめる段階にある。
社会貢献	0.10	研究課題（マラリアに対する感染防御ならびに薬剤耐性機構の解析）に関して、中期目標に掲げられている社会との連携、特に国際連携としてラオス国との共同研究を進める。この国際連携については、国立国際医療センター・国際医療協力研究委託事業の分担研究者である熱生圏分子生命科学研究施設渡部久実教授の研究協力者として積極的に参加する。名桜大学看護学科の非常勤講師として「原虫・医動物感染症」の講義を行う。	0.15	ラオス国との共同研究については、これまでの研究成果を取りまとめ、海外英文誌に投稿すべく論文を作成している。また、名桜大学看護学科の非常勤講師として「原虫・医動物感染症」の講義を行った。さらに、沖縄市立県立博物館の企画展「ヨロイをまとった生き物」の執筆・展示に協力した。
管理運営	0.20	現在教授空席であり、寄生虫学・国際保健学講座の責任ある立場として、管理・運営に努める。また、医学部医学科教育連絡主任として管理・運営に協力する。継続して、医学部交通対策委員会委員として、構内の交通指導等を行う。	0.15	新教授が着任するまでの9ヵ月間、教室の管理・運営に努めた。交通対策委員としては、自身の研究・教育活動の妨げにならない範囲で、警備員と協力して違反車両の取り締まり、指導等を行った結果、一定の効果が得られた。
学生指導	0.10	医学科1年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面に対して、きめ細やかな指導を行う。また、ダイビングクラブの顧問として、学内・学外活動に対して、特に安全面に考慮した指導を行う。	0.10	受持ち学生と懇談会に加えて、個々に面談を行い、修学面、生活面の指導を行った。ダイビングクラブは今年1年無事故で活動することができた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	野中　大輔	所　属	大学院医学研究科　寄生虫学・国際保健学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	寄生虫学実習を補佐し、理解度が低い学生のフォローアップや質問に対する個別対応を行う。また、国際保健学の講義を通して、開発途上国における保健医療問題とその対策について学生の理解を促進させる。	0.20	寄生虫学実習を補佐し、理解度が低い学生のフォローアップや質問に対する個別対応を行った。また、国際保健学の講義を通して、国際保健医療問題とその対策について学生の理解が促進するよう努めた。よって、目標は達成した。
研究	0.60	海外学術誌へ3編の論文発表、および国際学会における1回の発表を目指す。日本国際保健医療学会の代議員として、学会における積極的な活動を行う。	0.60	海外学術誌へ4編の論文発表、国内誌に2編の国際保健に関するエッセイを発表した。国内学会で3回の発表を行った。日本国際保健医療学会の代議員として、学会の研究推進に関与した。よって目標は達成した。
社会貢献	0.10	ラオス保健研究会の事務局として、日本人の保健医療研究者間の調整や研究成果等の情報発信に努める。	0.10	ラオス保健研究会や国際学校保健コンソーシアムの事務局として、研究者間の交流や研究成果の社会への発信に貢献した。また、大学の海外プロジェクト（ちゃーがんじゅー学校地域歯科保健プロジェクト）の委員として、プロジェクト運営に貢献した。よって、目標は達成した。
管理運営	0.10	寄生虫学・国際保健学講座の一員として、講座保管資料（図書・文献等）の整理整頓に努める。	0.10	講座保管資料の中で、歴史的あるいは学術的価値が高いものを整理し、研究者が活用できるように電子化・保存作業等を進めた。よって、目標は達成した。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	上里　博	所　属	大学院医学研究科・皮膚病態制御学	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	①臨床（外来・病棟）での皮膚科診療について教育を行う ②学部学生および大学院生への皮膚科分野の講義を行う ③研修医に皮膚科学の基礎知識、診断、治療の教育 ④後期研修医および医局員の学会発表、論文作製に対する教育、指導を行う。	0.20	一般皮膚科外来および病棟回診、臨床・組織検討会を医学生、研修医に対して行った。また大学院生や医学生への講義も行った。
研究	0.20	①皮膚科学会、褥瘡学会、熱帯医学会などの各種学会への参加、発表を行う。 ②各学会雑誌への投稿、発表を行う。 ③本邦におけるリーシュマニア症遺伝子確定診断を行う。	0.20	所属学会へ参加し、それぞれ学会および誌上発表を行った。
社会貢献	0.20	①地域での皮膚疾患の知識の啓蒙（市民公開講座の開催）を行う。 ②沖縄県医師会活動を支援し、皮膚疾患に関する講演などを行う。 ③他病院における診療支援（外来診療）を行う。	0.20	他病院皮膚科外来の支援を週1−2（午後）行った。日本皮膚科学会総会、地方会などの発表、論文作成の支援を行い、論文を作成した
管理運営	0.15	①医学部委員、附属病院委員として各種委員会に出席し、医学部および附属病院の運営に参加する。	0.15	医学部各種委員会と附属病院委員会に出席し、その運営に関わった。
進路指導	0.10	①医局員、大学院生の進路指導を行う。 ②専門医試験への準備、指導を行う。	0.10	後期研修終了の皮膚科医師を、関連病院（5施設）への勤務従事に推薦している。
診療	0.15	①琉球大学医学部附属病院での診療（外来および入院）を行う。	0.15	琉球大学医学部附属病院での診療（外来および入院）に従事した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	高橋　健造	所　属	大学院医学研究科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	皮膚科大学院生の研究指導、皮膚科修練医の学会発表指導、学部学生のポリクリにおける指導、皮膚科の系統講義、さらには医学部2年生の担当教官としての指導、生活指導	0.15	おおむね、割り当てられた講義、ポリクリを行った。学会発表の指導も国際学会、国内学会共に、臨床、研究の発表の指導を行えた。順調な発表であった。新入生の担当教官としては2回の面談を含め、時々の連絡を行った。
研究	0.30	皮膚角化症への創薬研究の推進、部位特異性の表皮の角化に関する研究、皮膚腫瘍における血管増生因子の解析、ATLと菌状息肉症の臨床鑑別、カポシ肉腫のサーベイランス、血管肉腫の原因究明、紫外線皮膚癌の進展様式の解析、間葉系腫瘍の発現機序の解明	0.30	これまでの角化症の治療薬の探索を継続している。大学院生の指導により、沖縄県の皮膚科疾患に準じた研究を継続している。血管肉腫の原因病原体の検索を継続している。遺伝学教室のとの共同で、次世代シークエンサーを用いた皮膚のrna編集や、遺伝性皮膚症の原因遺伝子の探索を開始した。科研費の申請の書き方の指導など行った。
社会貢献	0.05	医師会などでの皮膚疾患の講演、学会での教育講演、各地方会での教育講演など	0.10	皮膚科関連の学会での招聘講演、教育講演を数回行った。医師会などでの教育講演を数回行った。
管理運営	0.20	所属学会、財団などでの理事会、評議会、皮膚科雑誌JDSでの編集委員としての活動	0.20	所属学会での理事会、評議会に出席した。皮膚科雑誌JDSでの編集委員を継続し、25報ほどの受諾の可否を決定した。また10報ほどの皮膚科雑誌での査読を行った。皮膚科分野の科研費の採択の審査委員を行った。
進路指導	0.10	医局員・大学院生の将来の方向性の相談など、 専門医試験のへの準備、学習指導など 医学部学生の進級、学習の指導	0.10	4名の大学院生の研究テーマを設定し、学位に向けての研究指導を行った。専門医取得に向けての準備、指導を行っている。今年は3名の医局員が専門医を取得した。
診療	0.15	外来診療、病棟診療	0.15	通常の外来診療、病棟診療、回診、カンファレンスを継続している。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	苅谷嘉之	所　属	大学院医学系研究科皮膚病態制御学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	医学部臨床実習生、研修医・研究生・医員および看護師の指導・教育。	0.15	医学部学生・研修医・大学院生・看護師へ指導・教育を行った。
研究	0.10	皮膚科学会・勉強会および病理学会への参加・発表。	0.10	p
社会貢献	0.10	沖縄県他施設での外来・病棟診療。	0.20	他施設での外来・病棟診療を行い地域医療に貢献した。
管理運営	0.20	病棟医長としての病棟管理、感染症対策実務者会議への参加。	0.20	病棟の入退院調整やリスクマネージャー会議に参加した。
進路指導	0.10	医学部学生・研修医への進路指導。	0.05	医学部学生・研修医へ進路指導を行った。
診療	0.30	大学病院での外来診療・手術・入院患者診療。	0.30	大学病院での外来・入院患者診療や生検・手術検体の病理診断を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	眞鳥　繁隆	所　属	医学部付属病院皮膚科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	医学科学生の臨床系統講義、医学科臨床実習生の指導・教育、看護師の指導・教育、研修医・研究生・医員の指導・教育。	0.15	医学科学生の臨床系統講義、医学科臨床実習生の指導・教育、看護師の指導・教育、研修医・研究生・医員の指導・教育をおこなった。大学入試センター試験監督、OSCE評価者。
研究	0.10	沖縄県皮膚科学会・勉強会への参加・発表。日本皮膚外科学会・日本形成外科学会・日本熱傷学会・日本皮膚悪性腫瘍学会等への参加・発表。学会雑誌への論文発表。沖縄県医師会誌からの依頼論文の作成。	0.10	沖縄県皮膚科学会・勉強会への参加・発表。日本皮膚外科学会への参加。南九州4県合同地方会での座長。沖縄県医師会誌からの依頼論文の投稿。皮膚科雑誌の依頼原稿作成。
社会貢献	0.10	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術。沖縄フットケア研究会での講演。市民公開講座の開催、運営。	0.10	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術。沖縄フットケア研究会での講演。市民公開講座の開催、運営。在宅褥瘡セミナーでの依頼講演。
管理運営	0.25	皮膚科医局長としての医局の運営管理。付属病院総医局長として会議、･運営。がんセンター運営・手術部運営・キャンサーボード運営・沖縄クリニカルシュミレーションセンタータスクフォース等での会議・運営。	0.25	皮膚科医局長としての医局の運営管理。付属病院総医局長（9月まで）として会議、･運営。がんセンター運営・手術部運営・キャンサーボード運営・沖縄クリニカルシュミレーションセンタータスクフォース等での会議・運営。日本皮膚科学会沖縄地方会（年4回）の事務局長として管理・運営。手術部業務改善ワーキンググループ。
進路指導	0.10	医学部学生・研修医への進路指導。医学部学生への臨床系統講義。	0.15	医学部学生・当院研修医・他院研修医への進路指導。医学部学生への臨床系統講義。
診療	0.30	大学病院での外来診療・手術・入院患者診療	0.25	大学病院での外来診療・手術・入院患者診療
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	田中勇悦	所　属	大学院医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部学生および大学院学生の免疫学および感染免疫学について講義、セミナー、演習、実習を行い、免疫学の基礎知識の修得をさせ、さらに最先端の免疫学の紹介を通して免疫学に興味をもってもらえるような教育を行う。担当する大学院生の研究指導を行い、卒業論文を完成させる。また、短期留学生に授業として躰道を教える。	0.30	概ね目標を達成した。
研究	0.50	外部から調達した研究資金を基盤として、HIVとHTLV感染症克服を目的とした基礎研究を積極的に行う。国内外の研究者との交流を図り、共同研究を進める。	0.50	外部資金として3つの研究費を獲得し、国内外で共同研究を進めていることから１００％達成した。
社会貢献	0.05	HIV血液検査キット（イムノクロマト）の高感度化や新規のウイルス診断用キットの開発に努め、広く社会に貢献できるようにする。	0.05	HIV血液検査キット（イムノクロマト）の高感度化に成功した。また、新規にHTLV-I診断用キットの開発を進めている。以上の理由により概ね達成している。
管理運営	0.05	免疫学講座の長として、講座の進展に心がける。また学内各種委員会の役目を果たす。	0.05	概ね目標を達成した。
進路指導	0.05	担当する懇話会学生が6年生なので、さらに学生生活の充実を計り、さらに将来の進路の相談にのる。大学院生の進路についてサポートを図る。	0.05	概ね目標を達成した。
	0.05	球大学躰道部の顧問および監督として躰道の指導を責任をもっておこな	0.05	１００％達成した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前		藤田次郎	所　属	琉球大学大学院医学研究科・感染症・呼吸器・消化器内科学	職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.10	講義（カラープリントを使用し、かつパワーポイント電子ファイルを配布）、および臨床実習をより充実（より視覚的な回診、スモールグループでの講義など）させる。		0.10	講義の工夫（カラープリントを使用し、かつパワーポイントファイルを配布）、および臨床実習の工夫（スモールグループでの講義など）、についてはいずれもほぼ達成できた。	
研究	0.40	自身が第１著者の英文論文を3編以上まとめる。今年度中に感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を2冊以上出版する。感染症関連の臨床研究を展開する。科学研究費の取得を目指す。抗菌薬の治験を積極的に実施する。学会で演者を務める。		0.40	自身が第１著者の英文論文は短報も含め6編がすでにPUBMEDに掲載されている。感染症関連の臨床研究で、2編の修士論文も完成でき、また外国人留学生も3年間で大学院を早期終了した。感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を3冊発刊できた。感染症関連の臨床研究を展開し、沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業として「沖縄県における感染症防御を目的とした次世代ゲノム解析技術による迅速診断方法の開発並びに対策拠点の形成」というテーマでの大型研究費（7000万円x3年間）を取得した。中国との共同抗菌薬治験（sitafloxacin）を日本側の調整医師として展開中である。	
社会貢献	0.15	沖縄の感染症診療のスタンダードを世界に発信する。沖縄県から喘息死を0にする活動を展開し、薬剤師、救急隊との連携を図る。肺炎球菌ワクチンの公費助成に尽力するとともに講演会を企画する。沖縄県におけるインフルエンザ対策を充実させる。感染症関連を講演の演者を務める。		0.15	沖縄の感染症診療のスタンダードを英文論文で世界に発信することができた。沖縄県から喘息死を0にする活動を展開し、この目的での講演会を実施した。また薬剤師、救急隊との連携については、薬剤師（すこやか薬局チェーン）との連携は達成できた。肺炎球菌ワクチンの公費助成については多くの市町村において実現した。沖縄県のインフルエンザ対策に関連して、新聞（琉球新報、および沖縄タイムズ）、テレビ（琉球放送）などでの啓蒙活動を行った。	
管理運営	0.30	第一内科科長、感染対策室長としての責務を果たす。論文数を年間50編確保する。第１種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用する。エイズ拠点病院、肝疾患診療拠点病院、がん診療拠点病院としての役割を担う。		0.30	第一内科科長、感染対策室長としての責務を果たした。論文数を年間50編以上（日本語総説も含む）確保できた。第１種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用しており、エイズ拠点病院、肝疾患診療拠点病院、がん診療拠点病院としての役割を担った。なお最近の病床稼働率は1位、または2位を継続している。	
進路指導	0.05	指導教員としての責務を果たす。年に2回、食事会を企画し、学生との親睦を図るとともに、国家試験対策に繋げる。		0.05	指導教員としての責務を果たした（年に2回のmeetingを開催）。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	健山正男	所　属	大学院　感染症・呼吸器・消化器内科学	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.10	1．授業　a)目標：80%以上の出席をし，予習を行って臨んだ学生に対しては国試合格水準はもとより研修医レベルの基本的知識を取得させる．a）内容：診療と直結した双方向とリアリティを感じさせる講義を行う.b)評価：授業における質問と定期試験の成績，出席率により評価を行う.	0.1	卒業試験の成績は全体の75%の平均点は72.5点であり，学習到達目標は充分達成できた．下位10%の学生の点数は極端に低く，怠学傾向が顕著に認められこの群の学生に対する指導が課題である.
研究	0.30	1．学会誌への投稿　邦文1編，1編（英文誌）．2．著書　2編（分担）3．総説　2編．　2．研究関連領域の学会発表，総会レベルでのシンポジウム1題，　6題（共同演者含）．3．所属学会での役割　理事，評議員としての活動．全国総会レベルでの座長　3回．4．科学研究費総額500万以上の獲得（分担研究含む）5．HIV関連神経認知障害の定量的評価の研究.	0.3	学会誌への投稿は邦文2編，英文誌3編（second, third　author含む）．著書は1編，総説5編であった．科学研究費獲得は2件(510万)．．総会シンポジウム　1回(筆頭)，一般演題（筆頭2題，共同15題）．特に専門領域のHIV関連神経認知障害の研究では顕著な業績を得た．目標を達成できた．全ての項目で目標を達成できた.
社会貢献	0.05	1．HIV/AIDS予防啓発のための講演．2．沖縄県におけるHIV/AIDS予防啓発のための組織作り．3．勤務医，開業医むけの講演会の演者，司会.	0.05	1．HIV/AIDS予防啓発のための講演．2．沖縄県におけるHIV/AIDS予防啓発のための組織作り．3．勤務医，開業医むけの講演会の演者，司会.
管理運営	0.20	1．院内貢献：a)院内感染対策室実務の責任者としての活動，b）抗菌薬適正使用の実務責任者としての活動　c）職員血液曝露対策の実務責任者としての活動．2．エイズ中核拠点病院における貢献：委任された事項（県内診療体制の構築，研修会，広報誌の発行）の確実な遂行.	0.2	院内感染対策　実務責任者として左欄に掲げた目標を遂行できた.
進路指導	0.05	指導教官担当学生（10名）の留年，退学の予防．成績不振者に対する助言　2．専門領域を含む進路指導．具体的には指導教官との交流会を6月末までに開催.	0.05	2回の指導会（全員出席）を開催し，全学生の勉学および進路相談を行った．　必要な学生には個別に就学相談を実施し，全員の就学状況に問題は認めなかった.
診療	0.30	1．HIV/AIDS診療：感染症の当院の実務責任者としての役割を担う.	0.3	1．HIV/AIDS診療：当院の実務責任者として，診療およびスタッフの指導・育成，研修会2回実施．外部機関との連携強化も十分な成果が得られた.
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	小出　道夫	所　属	感染制御医科学専攻 感染制御特別コース 感染症・呼吸器・消化器内科学　（第一内科）	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	・授業評価等の指摘、自らの発意に基づく授業の改善を行う。 ・学習相談に関する具体的取組、昨年を省みた上での改善取組を行う。 ・学生からの積極的な意見の聴取を行う。 ・留学生への配慮を行う。	0.20	・授業評価等の指摘、自らの発意に基づく授業の改善を行なった。 ・学習相談に関する具体的取組、昨年を省みた上での改善取組を行なった。 ・学生からの積極的な意見の聴取を行なった。 ・留学生への配慮を行なった。
研究	0.70	・学会での報告発表を行う。 ・学会での役割と活動を果たすため、評議員会に出席し採決に参加する。 ・留学生との共同研究、指導を行う。	0.70	・日本公衆衛生学会での報告発表を行なった。 ・学会での役割と活動を果たすため、日本感染症学会評議員会に出席し採決に　　参加した。 ・留学生との共同研究、指導を行ない、その成果を国内英文誌に投稿中である。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.00	
進路指導	0.00		0.00	
感染	0.10	・附属病院水系レジオネラ感染調査および防御対策をおこなう。	0.10	・附属病院水系レジオネラ感染調査および防御対策をおこない、院内感染予防に寄与した。。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	原永修作	所　属	感染症・呼吸器・消化器内科学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学生、研修医への講義、BST PBL,TBL導入への参画 臨床教育用資料の作成 FDに積極的に参加	0.30	学生、研修医の講義を担当し、ケースカンファレンスに参加した 当院におけるPBL.TBL立ち上げに積極的に取り組んだ 指導医セミナーにタスクとして参加した 学部内で企画されたFDのほとんどに参加した
研究	0.30	臨床研究を立ち上げる 学会および論文での報告	0.10	臨床研究の立ち上げに至っていない 学会発表や論文作成に携わった
社会貢献	0.10	開業医に対する講演 市民公開講座への参加 沖縄県の喘息死ゼロに向けた取り組み	0.10	医師会の講演会に講師として参加した 喘息死ゼロ活動の企画に携わった
管理運営	0.20	病棟医長としての病棟業務 各種院内会議への積極的参加 卒後臨床研修センタースタッフとして臨床研修に積極的にかかわる	0.40	病棟医長として病棟のマネジメントを行った リスクマネージャー、感染対策などの院内会議に参加した 卒後臨床研修センタースタッフとして臨床研修指導に関与した
進路指導	0.10	学生、研修医のキャリアプラン構築のサポートをする	0.10	学生のキャリアプラン構築のためにレクチャーを行った 研修医のキャリアプランのためにオリエンテーションでのワークショップを企画運営した
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	平田哲生	所　属	大学院医学研究科　感染制御医科学専攻　感染制御特別コース 感染症・呼吸器・消化器内科学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	学部学生の講義を双方向性に近づける。 臨床実習学生に対するベッドサイドティーチングの充実。	0.10	学生講義に関しては十分に達成できず。 臨床実習学生に対しては十分に指導できた。
研究	0.20	臨床研究の遂行。 英文誌への論文投稿1編以上行う。 学会での報告発表を1回以上行う。 科研費の獲得。	0.10	臨床研究に関しては現在準備中である。 英文誌への投稿はできず。 学会発表は達成できた。 科研費は獲得できなかった。
社会貢献	0.10	学外の研究会への参加・発表を行う。 他施設での講演・講義を行う。	0.10	厚労省の熱帯病班会議で発表を行った。 市中病院で糞線虫に関する講演を3回行った。
管理運営	0.10	大学病院内、学部内各種委員会の参加	0.20	がん登録室副室長、医学教育企画室委員、専門研修センター員、院外委託検査委員会委員、医療材料検討委員会委員、光学医療診療部運営協議会委員、医療ガス安全点検実施責任者、医療福祉支援センター運営委員会委員 など16の委員を拝命し十分に活動を行った。
進路指導	0.00	なし	0.00	
	0.40	附属病院における診療活動の充実	0.50	外来診療、内視鏡検査など十分に行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。